

# 平成19年度年報発刊にあたり

横手市病院事業管理者 長山 正四郎

平成19年度は病院事業飛躍のためのステップの年度と考え、大ジャンプに備えての準備の段階の大切な年度として捕らえておりましたが、最終的には予想もしなかった業績不振の年度となってしまいました。幾多の原因が想定されますが、今後の再出発の為に徹底した原因究明につとめ、又新たな気持ちで平成20年度以後頑張ってみようと考えている所です。

平成19年度は院内のIT化の仕上げの年となり、病院変革の幕明けが始まった年でありました。平成11年度に開始したオーダーリングシステムから院内のIT化が進み、平成19年10月1日より電子カルテが稼動致しました。それに遡って平成19年2月には画像システムが完成し、フィルムレスへと突入し、4月診療分からは電子レセプト請求が開始されました。そして7月からはDPC準備病院としてのレセプト提出も行い、厚生労働省の推進する医療のIT化には遅れをとらずに事業を推し進めることができました。電子カルテの稼動に際しての、多くの職員の積極的及び協力的であった御尽力に対して心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

電子カルテの導入により、業務負担が増えた職種もあろうかと思いますが、運用面での改善を心掛け、無駄のない効率的なシステムに仕上げたいと思っています。医療情報管理室を中心に院内の意志統一を測りながら、積極的に推し進めたいと考えています。院内画像システムが完成し、フィルムレスとなりましたが、このシステムを院内の診療の効率化及び地域の病診連携の事業の中で活用ができないものかと真剣に拡大事業を模索したいと思っています。

平成16年度より開始された卒後臨床研修制度の影響で、全国の地方の公立病院は医師不足で大きな悩みをかかえることになりましたが、当院はそれによる大きな被害はありませんでした。しかし当院の整形外科の松井先生の退職により、その後の補充がつかず江畑先生1人体制となってしまう、秋大整形外科医局から外来の診療の応援を受けることにはなりましたが、やはり診療面では大きな痛手を被ることになりました。著明な外来患者さんの減少は他科への影響も大きく、今後早急に対応すべき最大課題となりました。心して対応策を講じたいと考えております。

逆に内科の方では、9月に平鹿総合病院から奥山先生、秋大医学部第一内科から小田嶋先生の2名の消化器専門医が赴任してくれました。内科診療に大きく貢献してくれました。同時に経鼻内視鏡の検査数を増やし、横手市近郊の医療圏以外からも患者の呼び込みに寄与してくれました。当院には整形外科を含めて1人科長の診療科が小児科、泌尿器科と3科ありますが、これらを全て複数体制にしなればとの思いを強くした1年でもありました。

医師の卒後臨床研修制度のもとで当院で2年間の研修を終えた3人は新たに旅立ち、新たに4名の研修生を迎えました。元気に研修に励んでくれているのが楽しみで、平成20年度には伊藤綾美先生が後期研修の形で、病院に残ってくれることが決まり、医局室は勿論、病院職員に希望を与えてくれました。

市民のためのやさしい病院作りをスローガンに押し進めてきた病院の増改築も12月議会におい

て設計料の補正が承認され、院内で最終設計の詰めに入っています。消化器センター、検診センターを2階ワンフロアーに配置した新館の構想はしっかり決まりましたし、改築病棟の詳細も煮詰まり、患者さんのニーズにあったハード作りが出来上がりそうであります。予定通りに行きますと平成20年10月頃には工事着工が始まります。

病院としては各技術職の技量の向上を念頭において研修会などへの参加を呼びかけていますが、今年度は看護科WOC認定看護師を採用し活躍してもらっています。次いで感染症認定看護師養成のための下準備も開始しました。このあと高水準の医療を提供する為にもコメディカルの充実を測りたいと思っています。

最近の医療では“安全”が強く叫ばれています。都合によりこの1年間は医療安全管理室を解散してしまいましたが、スタッフの研修会参加により再度運営が可能になりましたので、平成20年度には新しい型で再出発し、医療安全の徹底を期したいと思います。

最後に病院経営に関してではありますが、13年間続いた黒字経営も皆様の努力、奮闘にもかかわらず、大幅な赤字決算を出してしまうことになりました。トップとしては申し訳なく思っております。外来患者さんの大幅な落ち込み、手術件数の減少などによる入院単価の激減などが赤字決算の原因でした。外来患者さんの減少には薬剤の長期投与や、手術件数の減少にも様々な要因があげられると思っていますが、自分らのやれる事からひとつずつ修復を測り、真剣に対応策を練って病院経営が再び上昇ムードになれるように取り組まなければならないと思っています。

ホップはまあまあのジャンプでしたが、ステップの段階で少しつまづいてしまいましたので、最後のジャンプが大飛躍となりますように平成20年度は病院再出発の元年ととらえ、病院の増改築も軌道に乗る予定ですので、夢を持って頑張りたいと思います。

# 目 次

巻頭言	1	リハビリテーション科	50
目 次	3	救急センター	57
沿 革	7	薬剤科	59
基本理念・基本方針	13	診療放射線科	60
倫理綱領	14	看護科	63
患者様の権利と責務	15	2 病棟	67
病院の概要	19	3 A 病棟	69
開設者	19	3 B 病棟	71
名 称	19	4 病棟	73
所在地	19	外来	75
開設年月日	19	手術室・中央材料室・洗濯室	78
事業管理者	19	透析室	80
病床数	19	訪問看護センター	81
診療科目	19	ME 室	83
看護体系	19	臨床検査科	87
医療機関の指定等	19	食養科	90
病院施設の概要	19	健康管理センター	93
部門報告	23	事務局	94
診療科	23	総務課	94
内 科	23	医事課	99
一般内科	23	医療情報管理室	101
血液内科	24	病診連携室	103
脳神経内科	25	病院統計	109
消化器科	27	収支決算	109
循環器科	30	外来入院患者数・1 日平均患者数・収益・	
呼吸器科・アレルギー科	32	1 人当たり平均単価	111
心療内科	33	救急患者取扱状況	112
外科	34	委員会活動	115
整形外科	37	安全管理委員会	115
小児科	38	医療事故防止委員会	115
産婦人科	42	リスクマネージャー委員会	115
眼科	45	医療事故対策委員会	117
泌尿器科	46	倫理委員会	118
放射線科	48	栄養管理委員会	119

N S T委員会	120
褥瘡対策委員会	123
患者サービス向上委員会	124
緩和ケアチーム委員会	126
救急センター運営委員会	127
手術室運営委員会	128
地域交流推進委員会	130
薬事審議委員会	131
輸血療法委員会	136
臨床検査適正化委員会	138
図書委員会	139
臨床研修管理委員会	141
治験委員会	145
診療材料新規採用推進委員会	147
病床運営委員会	148
電子カルテ導入推進委員会	149
D P C委員会	150
クリニカルパス委員会	151
業務改善委員会	152
衛生委員会	153
病院教育委員会	154
広報委員会	156
個人情報保護推進委員会	157
診療記録開示審査委員会	158
年報編集委員会	159
医療ガス安全管理委員会	160
医療廃棄物管理委員会	161
防火管理委員会	162
看護科の委員会	163
教育委員会	163
看護研究委員会	165
看護支援委員会	166
訪看・創傷ケア委員会	167
師長会及び土星会	169

抄読会	170
学術研究業績	173
同好会活動	177
野球部	177
バレーボール部	178
職員等互助会	181
編集後記	183

# 沿 革



## 沿 革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醍醐診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醍醐診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。  
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。  
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4～5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7～8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟) 117床承認される(承認番号(看)第25号)。  
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。  
個室4床 201・218・367・420号室  
2人部屋6床 350・321・422号室

- 5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定  
「安心できる良質な医療の提供」  
「心ふれあう人間味豊かな対応」  
基本方針策定  
「地域医療への貢献」  
「患者サービスの充実」  
「健全な病院経営」  
運営方針策定  
「急性期医療の充実」  
「生活習慣病の予防」  
「検診業務の拡大」
- 8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床  
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。  
地域の人々に信頼される病院を目指します。  
安心できる良質な医療の提供  
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。  
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。  
地域医療・保健に貢献します。  
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始

## 平成19年度の主な出来事

- 平成19年4月2日 辞令交付式
- 4月2日～5日 新規採用職員研修
- 4月20日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 4月27日 病院歓送迎会（ラ・ポート）
- 5月13日 電気設備年次点検
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 5月17日 医療ガス保安講習会
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 6月20日 防災訓練（上期）
- 6月23日 県南3病院（羽後・大森・横手）交流野球大会
- 7月15日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
- 7月27日 決算審査
- 7月31日 接遇研修会
- 8月1日 ふれあい看護体験
- 8月7日 看護学生対象合同就職説明会（秋田市）
- 8月15日 盆おどり
- 8月17日 医療安全研修会
- 8月31日 横手・大森病院合同感染症研修会（かまくら館）
- 9月1日 職員採用試験
- 9月2日 後期臨床研修合同説明会（仙台市）
- 9月4日・5日 企業会計決算特別委員会
- 9月26日 研修旅行（遠野市 第一班）
- 10月1日 電子カルテ稼動

- 10月12日 電話応対コンクール県大会（秋田市）
- 10月14日 全県病院対抗野球大会（大館市）
- 10月15日～17日 個人情報保護研修会
- 10月16日 防災訓練（下期）
- 10月18日 横手保健所立入検査
- 10月20日 研修旅行（遠野市 第二班）
- 10月23日 研修旅行（遠野市 第三班）
- 病診連携室医局セミナー（セントラルホテル）
- 10月27日 研修旅行（遠野市 第四班）
- 10月28日 箏とソプラノ 秋のコンサート
- 11月21日・22日・27日 職員インフルエンザ予防接種
- 11月22日 コメディカル発表会
- 11月11日 看護フォーラム（かまくら館）
- 11月30日 横手・大森病院合同医療安全研修会（かまくら館）
- 12月2日 秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）
- 12月21日 大忘年会（ラ・ポート）
- 12月22日 白衣のクリスマスコンサート
- 12月26日 外来患者様満足度調査集計発表（12／4～12／12実施）
- 平成20年1月4日 年始式
- 1月17日 防火対象物定期点検
- 1月18日 医局新年会
- 1月24日 接遇研修会
- 2月14日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 3月1日 市民医学講座（かまくら館）
- 3月9日 東北ブロック臨床研修病院合同説明会（仙台市）
- 3月14日 看護研究発表会
- 3月19日 病院送別会（松與会館）
- 3月31日 退職者辞令交付式

## 基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

## 基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

# 市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

## 1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

## 2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

## 3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

## 4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

## 5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

## 6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

## 患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。



## 病院の概要



## 病院の概要

開設者	横手市長 五十嵐 忠悦
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	院長 長山 正四郎
病床数	一般病床250床（第2病棟58床、第3A病棟67床、第3B病棟60床、 第4病棟65床）、感染症病床4床、計254床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、 産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、リハビリテーション科、放射線科、 耳鼻いんこう科（休診）
看護体系	患者2.5：看護1、患者10：看護補助1

### 医療機関の指定等

救急告示指定（Bランク）	平成14年3月22日（告示番号第186号）
臨床研修病院（単独型及び協力型）	平成15年10月30日
地域医療センター	昭和48年5月14日
運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設）	昭和49年2月
日本整形外科学会認定研修施設	昭和58年4月11日
在宅酸素療法指導管理施設	平成元年6月1日
在宅経営栄養法指導管理施設	平成元年6月1日
在宅中心静脈栄養法指導管理施設	平成2年6月1日
在宅自己導尿指導管理施設	平成2年6月1日
在宅寝たきり患者処置指導管理施設	平成2年6月1日
在宅悪性腫瘍患者指導管理施設	平成2年6月1日
公選法不在者投票施設	

### 病院施設の概要

敷地面積 8,201.81㎡

	構造	建築面積(㎡)	延面積(㎡)	完成年月日
本館(第1期工事)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	1,389.12	5,175.29	昭和60年8月24日
新館(第2期工事)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	2,175.96	6,406.67	平成4年7月31日
検診センター棟	鉄骨造、地上2階	272.55	506.55	平成6年3月10日
MR I棟	鉄骨造、地上3階	160.91	414.97	平成9年3月19日
計		3,998.54	12,503.48	



# 部門報告



# 部 門 報 告

## 診療科

### 内 科

#### 一般内科

平成19年度の代謝内分泌分野の内科診療は下斗米が行った。外来患者数は年々増加しており、平成17年当初は週2回の再来枠が平成19年は週4回となり、1日の平均再来数は50-60名程度であった。診療疾患に関しては糖尿病とそれに合併した高血圧症、脂質異常症が大部分を占め、その次に甲状腺疾患、そして少数の内分泌疾患の順であり、昨今の生活習慣病の急激な増加を実感させるものであった。実際、全国的に病院の糖尿病外来はパンク状態の所が多いため、重症患者は病院へ、逆に軽症患者は診療所へ紹介する病診連携パスなどが各地で作成され、運用されつつある。今後も糖尿病患者数の増加が見込まれるため、秋田県においてもスムーズな連携システムを少しずつでも形成していく必要があると考えられる。

また、入院では糖尿病教育入院に関して、クリニカルパスの作成、教育資料の作成、万歩計の導入など色々と試行錯誤を重ね、少しずつではあるが形になってきた時期であった。しかし、平成19年度末に異動となったため、次年度はクリニカルパスの作成に関して色々と参画して頂いた伊藤先生に今後は委ねたい。

<文責 下斗米孝之>

## 血液内科

週一回木曜日の外来で造血器腫瘍、造血不全症の外来治療経過観察を行いながら、院内の先生方からのご紹介を受けている。紹介患者の多くはリンパ節腫脹、血清M蛋白血症、原因不明の血球減少、不明熱などである。リンパ節腫脹については無痛性で2 cmを超えるものは40歳以上の患者では悪性疾患の可能性が約50%である。病理学的診断には外科の先生と検査室のご協力ですREAD システム (SRL 東北大学血液病理一迫教授) を導入した。これは病理組織学的検査に加え、フローサイトメトリー、染色体遺伝子検査を多角的に施行し、WHO 分類に沿った確定診断を行うものであり、リンパ腫の治療方針決定のために極めて有用である。院内の先生方からの適切な紹介と外科の先生方の時期を逸することのないリンパ節生検にて早期診断ができています。確定診断後は当院には血液専門の常勤医師がいないため、秋田大学病院または平鹿総合病院との病診連携にて化学療法を行っている。移植適応の目安である年齢55歳以下の症例は秋田大学第三内科 (診療部長澤田賢一教授) で治療し、55歳以上の症例は平鹿総合病院 (血液内科久米正晃医師) で分担している。一方、70歳以上の高齢者の多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、慢性リンパ性白血病では本人ご家族と相談し QOL を重視した化学療法やベストサポーターティブケアを選択し外来診療を行っている。造血器疾患の患者さんは予期せぬ血小板減少による出血傾向や易感染性による感染症発症のためたびたび入院治療が必要なこともあるが、院内の先生方のご協力を得て、今後も血液内科学分野においても期待される地域医療を行っていききたい。

<文責 高橋直人>

## 脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉

看護師 渋谷美紀（平成19年3月より）

脳神経内科は平成18年10月から開始し、頭痛、めまい、脳卒中（主に脳梗塞）の患者さんを診察しております。くも膜下出血あるいは脳出血で手術を要する場合は平鹿総合病院脳神経外科へ、脳腫瘍で専門的治療を要する場合には秋田大学医学部附属病院脳神経外科へ紹介しております。パーキンソン症候群など変性疾患やアルツハイマー型認知症など認知症疾患は神経内科の石黒・成瀬先生に診察していただいております。

平成19年1月から頭痛外来を開始したところ頭痛の初診患者数は月60-70人となり、さらに4月に秋田魁新報に取材記事が掲載されたところ月100人を越える状態が続きました。最近では落ち着きを取り戻し月60人程度で推移しております。頭痛というところある意味ありふれた症状かもしれませんが現在は約180種類に分類される病気・疾患とされております。様々な機会を捉えて講演したり各新聞社に取材に来ていただいたりしましたが頭痛に悩む患者さんが受診しやすいよう今後とも啓発・啓蒙活動に努めたいと思います。

患者さんは主に3A・4病棟に入院させていただいております。看護スタッフ、事務スタッフはもちろんですが脳卒中を診ている立場から放射線科スタッフ、リハビリテーション科スタッフの皆様にもお世話になっております。今後とも宜しくお願い致します。

診療時間：午前8時45分から、午後1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来

火曜日（午後）・・・脳ドック

水曜日（午後）・・・頭痛外来

木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成19年度頭痛初診患者数：総計966人（男性253人、女性713人）、年齢9-93歳

片頭痛：449人（男性90人、女性359人）

緊張型頭痛：328人（男性93人、女性235人）

群発頭痛：15人（男性9人、女性6人）

神経痛：88人（男性30人、女性58人）

外傷後：8人（男性4人、女性4人）

副鼻腔炎：108人（男性36人、女性72人）

その他（くも膜下出血、脳腫瘍、動脈解離、他）：23人（男性12人、女性11人）

上記の患者さんの中で薬物乱用頭痛は145人で頭痛患者全体の15.0%を占めていた。

平成19年度疾患別入院患者数：総計104人

脳梗塞：	46人
一過性脳虚血発作：	5人
脳梗塞後遺症：	7人
脳出血：	8人
片頭痛発作：	4人
副鼻腔炎による頭痛：	3人
薬物乱用頭痛：	4人
神経痛発作：	2人
めまい発作：	11人
症候性てんかん：	3人
意識消失発作：	2人
その他：	9人（頭部外傷、髄膜炎、動脈解離、脱水症、など）

講演・学会発表：

平成19年5月17日（木）

Headache Clinical Seminar：頭痛診療の実践（問診編）「頭痛外来を開設して」  
（湯沢グランドホテル）

平成19年5月28日（月）

第239回郡医研（旧平鹿郡医師会臨床研究会）「頭痛外来と慢性頭痛について」  
（横手セントラルホテル）

平成19年6月1日（金）

横手市看護協議会第17回定期総会特別講演「頭痛外来へようこそ」  
（横手グランドホテル）

平成19年8月10日（金）

Headache Clinical Seminar：頭痛診療の実践（問診編）「頭痛外来を開設して」  
（横手セントラルホテル）

平成19年9月1日（土）

第53回市民医学講座「頭痛外来へようこそ」  
（横手ふれあいセンターかまくら館ホール）

平成19年10月23日（火）

市立横手病院病診連携セミナー「片頭痛を見逃さないために：最新の診断と治療」  
（横手セントラルホテルラポート）

平成19年11月27日（火）

GSK 秋田 CNS ファーマ勉強会「片頭痛治療の現状と治療薬の特徴」  
（横手セントラルホテル）

<文責 塩屋 斉>

## 消化器科

平成19年度は9月から奥山先生、小田嶋先生を迎え常勤医師5名となった。消化器科常勤医師が5名になるとは誰も予想していなかったことで驚いている。しかも2人とも技術、経験、人間性ともすばらしい完成された医師であり、当院および県南地区の住民の受ける恩恵は大きいと思われる。内視鏡検査数は毎年増加してきている。治療内視鏡のうちでは早期食道がんの内視鏡的粘膜下層剥離術、胃瘻造設術、胆道ステント症例の増加が目立った。藤盛先生、奥山先生、小田嶋先生は治療内視鏡のスペシャリストであり、今後も胃・食道・大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術は症例数が増加することが予想される。また、平成19年度は検診に経鼻内視鏡を取り入れ、受診者には好評であった。次年度は症例報告や臨床研究の学会発表にも力を入れるようにしていきたい。また、研修医や後期研修医師など若手医師を育てていくことも重要と考えている。

### 消化器内科医師

船岡 正人

藤盛 修成

奥山 厚（平成19年9月1日～）

小田嶋 傑（平成19年9月1日～）

武内 郷子

中島 裕子（週2回腹部超音波担当）

### 内視鏡室スタッフ

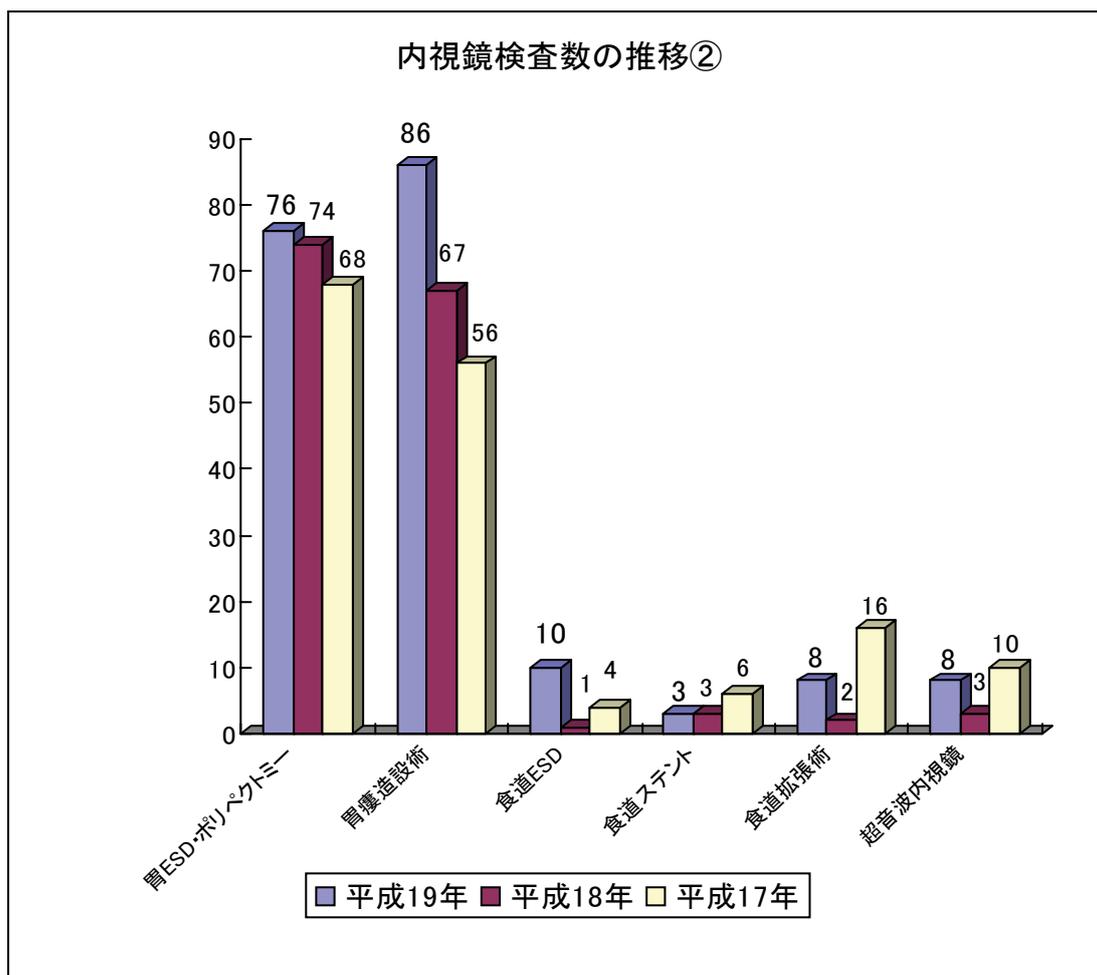
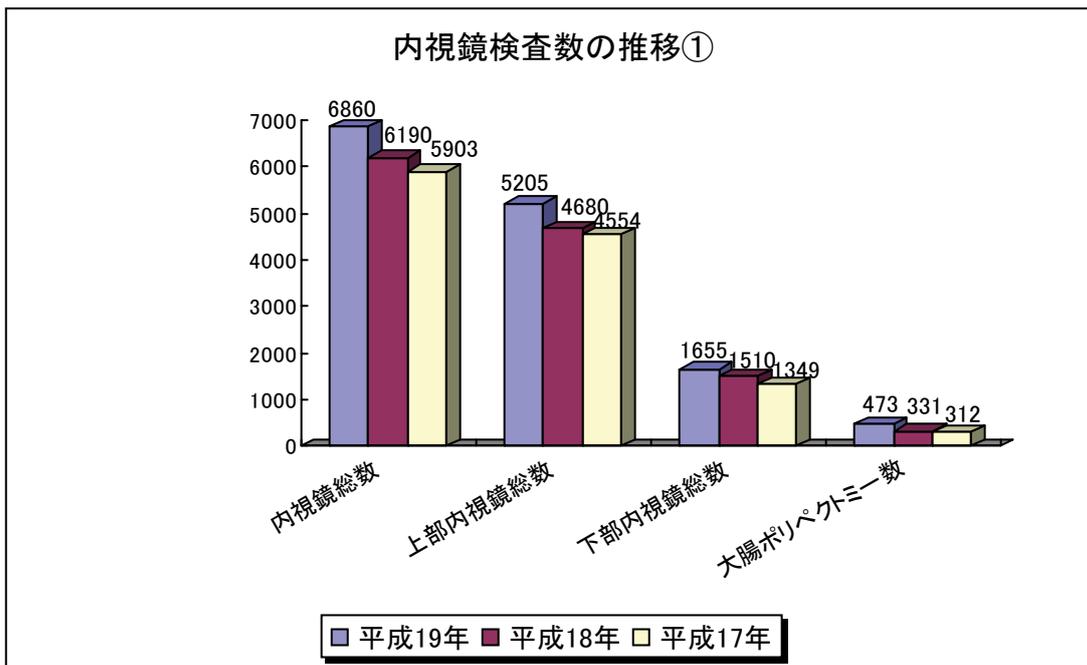
加藤真由美（看護師、内視鏡技師）

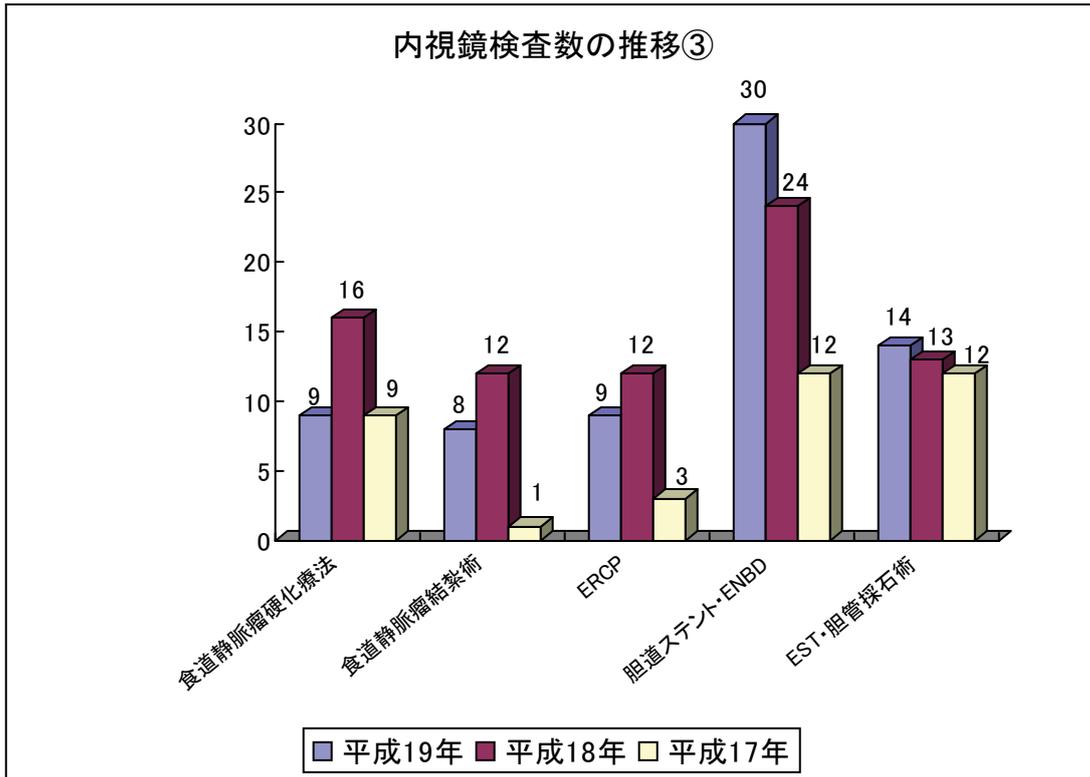
高橋 純子（看護師）

松井 久子（看護師）（平成19年9月1日～）

高橋トヨ子（看護助手）

平塚 二美（看護助手）（平成19年5月1日～）





その他腹部超音波4671件、肝癌ラジオ波焼灼療法（RFA）6件

<文責 船岡正人>

## 循環器科

### スタッフ

#### 常勤医師

##### 循環器科科長

- 根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)
- 和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)
- 肱黒 公博 (平成18年5月1日から平成19年4月30日)

#### 検査技師

- 平塚多喜雄 (生理検査室)
- 川越 弦 (臨床工学技士)
- 柏谷 肇 (臨床工学技士)
- 大嶋 聡子 (生理検査室)

#### 外来診察助手(循環器科担当)

新山千世子

### 検査 (平成19年4月1日から平成20年3月31日)

心臓カテーテル検査	10件
心臓超音波検査	1960件 (経食道心臓超音波検査含む)
頸動脈超音波検査	393件
ホルター心電図	419件
トレッドミル	31件
24時間心電血圧計	4件
ペースメーカー植え込み	13件 (新規 7、交換 6)
体外ペーシング	2件
下大静脈フィルター留置	0件
血圧脈波検査	217件
CCO用スワンガンツカテーテル留置	3件

循環器科史上最大の3人体制が肱黒先生の4月30日を持って終了となり、今まで通りの根本、和泉の2人体制に戻った。最初から1年間の期間限定ではあったが、たったの1年とは思えない存在感であった。病棟、外来、検査に活躍して頂いた。特に心カテーテル検査は肱黒先生の加入により、橈骨動脈からの穿刺を導入し、患者負担を軽減した他、件数も増加した。転勤は非常に残念であったが、ご縁があれば是非に戻ってきていただきたいものである。

血管撮影装置は老朽化に伴い、これまでもトラブルがあったが、7月の心臓カテーテル検査中に3度の立ち上げ直しを要する事態となった。その後、透視はできるものの、撮影ができない状況となり、検査休止となる。そのため、検査件数が大幅に減少した。心臓CTでの冠動脈評価は順調に件数が増えているが、その結果、冠動脈病変が疑われる症例は全例紹介している現状である。また、9月以降に循環器科へ来た研修医は心カテーテル検査を経験できない事となってしま

った。現在、装置の更新が検討中であるが、早期の更新が待たれる。

外来患者数は近隣開業医の廃業、休業に伴い、大幅に増加した。これまで循環器科の外来診察は1診察/日体制で行っていたが、患者数の増加に伴い、今年度より火曜日は2診察/日に増やして診察にあたった。循環器疾患は慢性疾患が多いため、今後も患者数は減少することはないと思われる。予約時間との戦いではあるが、診察補助の新山さんも患者さんの顔を覚えて、だいぶスムーズに行えるようになってきた。

入院に関しては、今年度も高齢者の心不全が多かったようである。入院患者の平均年齢が85歳程度となることも珍しくなく、循環器は老人科という側面が強くなってきていると感じる日々である。また、ペースメーカー植え込みが新規7例、交換6例と例年より多かった。これも高齢者の植え込み、交換が多くなってきているが、大きなトラブルもなく、順調に経過している。これからも高齢者中心の診療が続くものと思われる。

<文責 和泉千香子>

## 呼吸器科・アレルギー科

一昨年度まで「呼吸器科」と「アレルギー科」は事務的には別々に分けられていた一方で、本来「アレルギー科」に分類されるべき患者さんも便宜上からすべて「呼吸器科」で扱われておりました。しかし、昨年度から当院はアレルギー科教育認定施設となったことと、常にアレルギー科の医師が呼吸器科を兼ねているという実情から、今年から名称を「アレルギー・呼吸器科」に統一していただきました。特に業務内容に変更はありません。やや科名が長くご面倒ですがよろしくお願いたします。

気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫、肺癌など、近年アレルギー・呼吸器疾患の患者さんの来院が増加しており、外来も混雑しております。時にある程度お待たせすることもあるかと思いますが何卒ご理解ください。今後ともよろしくお願申し上げます。

### 外来診療の概要

アレルギー・呼吸器科外来は水、金の週2回行っており1日40名前後の患者さんが来院されております。疾患は気管支喘息、肺気腫、慢性気管支炎などの慢性閉塞性肺疾患（COPD）が多く、他、サルコイドーシス、過敏性肺臓炎、気管支拡張症、IPF（肺線維症）、膠原病肺、結核後遺症、非定型抗酸菌感染（後遺）症、肺癌、食物アレルギーや運動誘発アナフィラキシーの患者さんが診察されています。

### 現況と今後の展望

アレルギー・呼吸器科の入院患者さんは25名前後で、疾患としては市中肺炎、マイコプラズマ等異型肺炎、嚥下性肺炎、喘息発作、肺気腫感染増悪、間質性肺炎（膠原病肺）、喀血（気管支拡張症）、肺癌（化学療法、胸水管理）等です。とくに肺癌化学療法の患者さんの増加がめだっています。また、HOT（在宅酸素療法）、NIPPV（非侵襲的陽圧式人工呼吸）の導入率も多くなっています。

<文責 齋藤紀先>

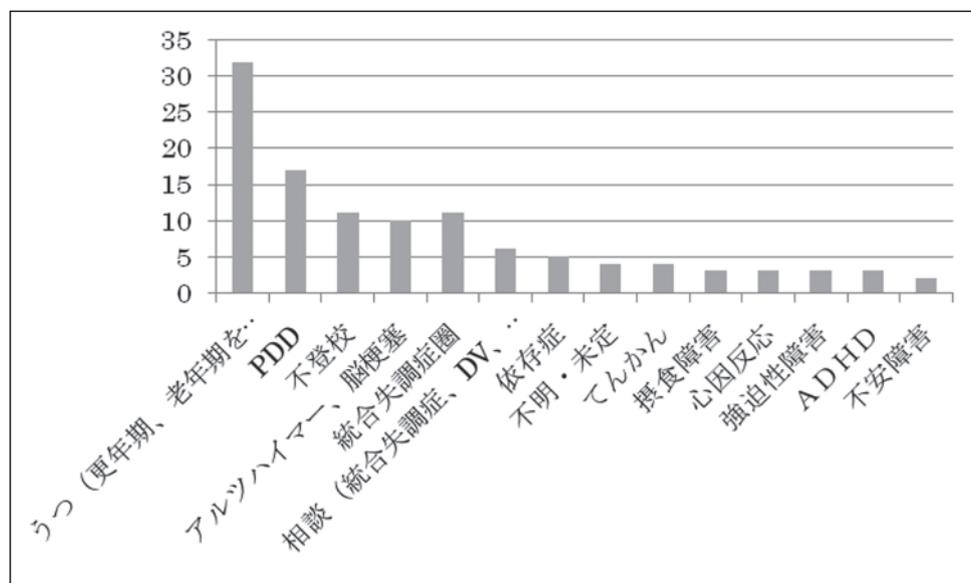
## 心療内科

平成16年12月14日より、心療内科は毎週火曜日、木曜日と診療を行っていた。現在は、体制が変更となっている。木曜日は診療を行っておらず、現在のスタッフは総勢医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

火曜日は榊田理恵が外来を担当している。完全予約制で、時に内科・小児科等からの依頼を受けて入院・外来で診療している。子供の心療内科、ということで、やはり15歳以下の子どもは多く、不登校が最も多く、他に発達障害（自閉症など）、引きこもり、が受診されている。詳細は下記グラフ参照されたいが、「子どもの心療内科」と標榜しているとはいえ、診療エリアは多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。

受診人数は20人／日である。一人につき30分を目安としているが、初診の場合は1時間である。

また、看護師との役割分担においてもスムーズで、看護サイドの受容的かわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されているようである。平成18年度5月より臨床心理士によるカウンセリングが導入され、平成19年度でも継続されている。また、興生会からも臨床心理士の派遣を受けており、こちらも好評である。主に火曜日、金曜日にカウンセリング、箱庭療法などを定期的に行っている。



<文責 榊田理恵>

## 外科

### スタッフ

常勤

- 丹羽 誠 (S55秋田) 平成7年4月～
- 吉岡 浩 (S59自治) 平成8年4月～
- 粕谷孝光 (S63秋田) 平成12年1月～
- 加藤 健 (H6秋田) 平成18年4月～
- 若林俊樹 (H14秋田) 平成18年7月～20年3月

### 専門医修練認定施設関係

日本外科学会外科専門医制度関連施設

日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

### 人事動向

- 外科医5人常勤体制で診療を行った。外科医不足で難儀している施設が多い中で、当院はきわめて充実したスタッフに恵まれていた。
- 若林先生がキャリアアップの目的で、秋田赤十字病院へ転出された。
- 臨床研修医制度の4年目であった。本年度、1年目で渡部昇、井上雅文、小川和孝、榊原互、2年目選択で高橋誠の諸先生が、外科での研修をしていかれた。渡部先生は秋田腹部救急研究会で発表を行い高い評価を頂いたが、惜しくも優秀賞は逃した。

### 診療

- ① 消化器を中心に診療が行われ、手術件数は前年度を上回った。特に胃・大腸の鏡視下手術を積極的に展開した。
- ② 呼吸器内科斎藤先生の活躍で肺手術症例が更に増加してあった。縦隔郭清を前提とする症例には、従来どおり秋田大学呼吸器外科小川純一教授に来院していただきご指導を頂いた。
- ③ 乳がん手術でのセンチネルリンパ節生検：2年間近くの準備で手技完成を確認し、本年度からSN陰性での腋窩郭清省略を開始した。
- ④ 外科病理について：院内での病理切り出しを秋田大学第二病理学教室の増田先生、高橋先生が毎週計2回行うことが順調に進められた。直接ディスカッションできるという大変なメリットを得られている。迅速病理診断については、今まで通り平鹿総合病院の病理診断部、斎藤昌宏先生と高橋さつき先生に御世話になった。平鹿病院でのCPCにも積極的に参加するようになっている。
- ⑤ 診断治療が正確で高水準であるだけでなく、患者さんが安心して診療を受けていただくためには、説明をきちんと行う事が大切であると考え。そのために医局・消化器勉強会でも繰り返し取り上げてきたが、『悪い話の伝えかた』を病棟の勉強会でロールプレイを取り入れて学習した。患者さんをスタッフコメディカル全員で支える事の意識化、協力の重要性を学び実践していきたいと考えている。

疾患名	数	鏡視下手術件数、再掲
食道悪性	1	
胃良性	1	
胃悪性全摘	16	
胃悪性幽門側	24	3
胃悪性噴門側	4	3
胃悪性その他	3	1
胆摘（胆石・胆のう炎）	34	26
うち術中胆管切石	3	
膵・胆管・胆のう悪性	8	
胆道良性	2	
肝悪性	1	1
うち RFA	1	
結腸良性	3	
結腸悪性	38	3
直腸悪性	17	
成人虫垂切除	20	20
腸閉そく	10	
腹膜炎	5	2
小腸良性	5	
炎症性腸疾患	1	
その他の消化器	5	1
成人鼠径・大腿ヘルニア	44	
閉鎖孔ヘルニア	1	
痔核	11	
痔ろう・肛門周囲膿瘍	4	
その他	8	
乳腺良性	8	
乳腺悪性	19	
肺良性	4	1
肺悪性	7	
副甲状腺	2	
甲状腺良性	2	1
甲状腺悪性	4	

中心静脈ポート	16	
成人その他	47	
小児鼠径ヘルニア	9	
小児虫垂切除	2	2
小児その他	1	
	387	
全麻	252	
腰麻	28	
局麻	107	
	387	

<文責 丹羽 誠>

## 整形外科

### スタッフ

医師：江畑公仁男

看護師：小野ゆう子、田中京子、谷藤文子

事務：藤原真喜子

### 【外来】：

	月	火	水	木	金
新患	大学		大学		大学
予約		江畑			江畑
午後			手術	手術	

2007年4月より整形外科常勤医の退職に伴い、常勤医1名の状態となった。大学整形外科医局より週に4日の外来応援をしてもらって外来を継続することとした。

【入院】：入院患者総数：4895人／年であった。医師数と比例して減少している。ほとんどが手術の患者さんであり、なかなかスムーズにいかないのが悩みの種である。

手術は近隣の医療機関からの紹介もあつてか脊椎の患者さんが多い印象であった。

以下に主な手術を記す。

脊椎	70
腰椎 開窓術・ヘルニア切除術	43
PLIF	17
胸椎	3
頸椎	7
骨折	61
大腿骨	27
その他	34
人工関節置換術	7
手根管など	16
その他	30
総数	184

<文責 江畑公仁男>

# 小児科

**stuff** 医師 : 常勤 小松 明  
                   非常勤 小山田遵 (第1、3月曜日)  
 看護師 : 佐藤幸子、石田亜希子  
 外来事務 : 福田富美子  
 医事課 : 石塚 紫 (~H19. 6. 30)、佐々木有紀子 (H19. 7. 1 ~ H19. 10. 31)

**外来** 診療時間 : 午前 8時30分～、午後 14時～。  
 診療内容 : 表-I、IIを参照。

表-I : 外来診療内容

	午前	午後
月	一般診療	検査、訪問看護
火		1ヶ月検診 (~9月) 乳児 (1, 4, 7, 10ヶ月) 健診 (10月~)
水		予防接種
木		1, 3, 5週 - 4, 7, 10ヶ月検診 (~9月) 乳児 (1, 4, 7, 10ヶ月) 健診 (10月~)
金		慢性外来

表-II : 各外来患者数

	一般外来	乳児検診				予防接種	慢性外来	合計
		1ヶ月	4ヶ月	7ヶ月	10ヶ月			
平成19年度								
H. 19 / 4月	3252	27	15	5	8	103	89	3252
5月	3615	50	8	11	19	109	91	3615
6月	2560	34	8	10	6	104	116	2560
7月	2411	39	9	12	8	118	91	2411
8月	2274	27	2	12	12	153	121	2274
9月	2282	31	10	8	9	121	88	2282
10月	3055	24	16	9	15	108	86	3055
11月	3078	26	12	8	10	255	154	3078
12月	3212	25	14	10	5	363	156	3212
H. 20 / 1月	2833	32	5	8	5	235	108	2833
2月	2723	27	4	10	14	109	131	2723
3月	2491	36	8	11	9	100	128	3491
合計	33786	378	130	114	120	1878	1359	33786

\* 一日平均患者数 約 92.6 人 (土、日、祝日も含む)。

\* 外来患者総数は前年に比し、約4239 人減少。

表－Ⅶ：平成19年度 小児科医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日が丘レディースクリニック	230	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	91
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	54	平鹿総合病院 全体	16
しおたこどもクリニック	36	(耳鼻咽喉科 5、小児科 6、 救急外来 1、形成外科 2、 小児外科 1)	
岡田小児科医院	14	阿部耳鼻咽喉科医院	13
醍醐クリニック	8	秋田大学附属病院 全体	5
雄物川クリニック	4	(小児科 4、耳鼻咽喉科 1)	
平鹿総合病院	3	由利組合総合病院 全体	4
嶋岡内科小児科医院	2	(小児科 2、耳鼻咽喉科 1、 眼科 1)	
秋田大学附属病院	2	盛岡赤十字病院	3
こはま泌尿器科クリニック	2	すずき皮膚科クリニック	3
おおたきこどもクリニック	2	山田眼科医院	2
		岡田小児科医院	2
		市立秋田総合病院	2
他 医療機関	19	他 医療機関	11
合計	374		152

病棟 (入院) 3 A病棟 (整形外科との混合病棟、定床 15 床)。  
他、新生児の入院は 2 F 新生児室にて管理

表-IV：平成19年度 疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等 1)	212	518
	扁桃炎	32	
	咽頭炎	15	
	喉頭炎	30	
	腸炎 2)	102	
	尿路感染症	2	
	歯肉・口内炎 3)	61	
	中耳炎	3	
	関節炎	1	
	急性髄膜炎	4	
	インフルエンザ	29	
	その他 4)	27	
気管支喘息	139		
精神、神経系	熱性けいれん	17	28
	無熱性けいれん	5	
	その他 5)	6	
周産期 6)	8		
川崎病	7		
代謝、内分泌系 7)	6		
その他 8)	11		
合計	717		

- 1) マイコプラズマ感染症 32例、RSV 感染症 14例を含む。
- 2) ロタウイルス感染症 29例、回腸末端炎 1例、急性虫垂炎 3例を含む。
- 3) ヘルペスウイルス性 14例、ヘルパンギーナ 16例、手足口病 31例。
- 4) 突発性発疹症 7例、伝染性単核症 4例、水痘 5例、流行性耳下腺炎 3例、溶連菌感染症 4例、不明熱 1例、頸部リンパ節炎 1例、帯状疱疹 1例、サイトメガロウイルス肝炎 1例。
- 5) 神経性食思不振症 3例、多発性硬化症 1例、脳性麻痺 1例、片頭痛 1例。
- 6) 高ビリルビン血症 1例、低出生体重児 1例、仮死 4例、メレナ 1例、体重増加不良 1例。
- 7) 周期性 ACTH・ADH 分泌異常症 1例、GH 分泌負荷試験 5例を含む。
- 8) 肥厚性幽門狭窄症 1例、腸重積症 4例、特発性血小板減少性紫斑病 1例、アレルギー性紫斑病 3例、結節性紅斑 1例、原因不明の肝機能障害 2例。

表－V：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0－1才	71	47	112
1－2才	109	64	168
2－3才	52	48	93
3－4才	49	41	89
4－5才	34	27	58
5－6才	22	25	44
6－8才	32	23	51
8－10才	22	17	38
11－13才	12	8	18
14才～	6	8	11
合計	409	308	717

**院外活動**

明照保育園（園医）  
 県南愛児園（園医）  
 横手市 1才6ヶ月、3才児検診  
 ももの家講話

**最後に**

相変わらず1人寂しく日々働いている。H19年4月からの新、平鹿病院可動の影響がモロに出た1年であった。分娩数が減り、それに伴う小児科への流れが減少し、外来数、入院数ともに激減した。

今後は、重症患児は4人体制の平鹿病院で扱っていただき、1人では自ずから仕事の内容が限定されるため、1,2次までの軽・中等症患児を当科で受け持つ、という住み分けが更にはっきりなされると思われる。

表－VI：患者数の推移

	H. 15	H. 16	H. 17	H. 18	H. 19
外 来	31459	36781	38559	38025	33786
入 院	879	904	828	801	715

<文責 小松 明>

## 産婦人科

平成19年度の産婦人科はスタッフに大きな変化はありませんでした。患者さんの数等では3月まではほぼ例年通りでしたが平鹿病院が移転した4月以降、外来受診者数、手術件数、分娩数ともに激減してしまいました。特に分娩数では6月以降、初産の方や里帰り分娩の方はほぼ皆無の状態であり、予想はしていたものの妊婦さんにとって分娩施設を決める上でアメニティがいかに重要かを痛感しました。周囲の開業医の先生たちにもお願いして、手術症例をなるべく当院に紹介してもらうことと、これまであまり受けることのなかった、妊娠10ヶ月に入ってからの中リスク症例の紹介も受けるようにしました。幸い分娩数・手術件数ともに年明けぐらいから少しずつ回復しているようですが、研修医の先生たちにも十分な研修をしてあげられず、非常に申し訳ないことをしたと思っております。当院の産婦人科病棟の改築も残念ながら数年後という感じでそれまで何とか維持できるようにがんばっていきたいと思います。

日常臨床以外では結構忙しい1年でした。まず電子カルテに向けた、分娩ソフトの整備が挙げられます。分娩ソフトを購入していただき、簡単に使用できるものと思っていたところ、画面の構成を始めほとんどをこちらで作るものであることがわかり、また SE の方に不可能と言われる内容も多く、当科のやり方に合わせたソフトにするのにかなり苦勞をしました。幸い助産師の智美さんがとてもがんばってくれて何とか使えるソフトになったと思います。今後も少しずつでも改善したいと思っています。また、来年度から県立衛生看護学院が横手市に移転し、助産科が当科に実習に来ることになりました。それに先だって、外来の一部を改装して助産師による保健指導を開始しました。最近は何の施設でも普通に行われていることなのかもしれませんが、当院にとっては長年実現できなかったことであり、画期的だと思います。さらに充実していきたいと思います。同様に実習の指導の準備も佳境に入り、指導教官による下見や打ち合わせ会議なども行われました。各スタッフはマニュアル作りに苦勞しながら取り組んでおりました。

一昨年秋田県の病院で働く産婦人科医が大量に離職して新聞で大きく報道されましたが、今年1月に、秋田県では初めて同じ地域の2病院を片方の病院に移動させる、いわゆる「集約化」が行われました。これは経営母体が異なるにもかかわらず、助産師の異動も伴う大規模なものでした。当院も似たような環境にあり、先行きの不透明感は否めません。横手病院の産婦人科が今後も存続できるように私も精一杯努力するつもりですが、結局分娩数や来て下さる患者さんが少ないと説得力がないものになってしまいます。昨今の産科の訴訟の多さを見るまでもなく、妊婦さんの求める医療水準や環境は高度かつ多様化しております。また産婦人科スタッフの働く環境に関しても、よりよい施設に医師・助産師を集約化する傾向にあります（今回の診療報酬改訂で「ハイリスク分娩」加算に初めて産科勤務医の負担軽減のための計画作成が義務づけられたそうです）。是非産科病棟の改築が成功するように、（特に病院の上層部の方に）ご協力をお願いしたいとともに、病棟のスタッフが産科を扱う立場として、十分に働ける環境を今以上に作り上げられるよう、皆さんにもご協力をお願い致します。

## 分娩数 161件

自然分娩	108件
圧出分娩	14件
吸引分娩	7件
鉗子分娩	8件
骨盤位分娩	3件
帝王切開	19件

## 中期死産・その他 2件

## 手術 135件

全身麻酔	70件
硬膜外麻酔	28件
静脈麻酔	18件
局所麻酔	18件
腰椎麻酔	1件

腹式子宮全摘術	10件
腔式子宮全摘術(子宮筋腫・腺筋症・異形成など)	9件
腹腔鏡検査＋腔式子宮全摘術	1件
腔式子宮全摘術＋腔壁形成術(子宮脱)	10件
腔壁形成のみ	3件
腹腔鏡下卵巣腫瘍手術	19件
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	1件
卵巣腫瘍手術(開腹)	4件
卵管留膿腫手術(開腹)	2件
卵管留膿腫手術(腹腔鏡)	1件
子宮肉腫手術	1件
外陰癌手術	1件
腔式子宮筋腫切除	2件
子宮腔部円錐切除術	5件
子宮筋腫核出術	3件
子宮外妊娠手術(開腹)	1件
子宮体癌手術	3件
卵巣癌手術	5件
子宮鏡検査	9件
子宮鏡下筋腫・ポリープ切除	2件
バルトリン腺造袋術	1件

コンジローマ切除術	3件
帝王切開術	18件
膺式卵管結紮術	2件
流産手術	12件
人工妊娠中絶術	6件
外陰血腫止血術	1件

<文責 畑沢淳一>

## 眼 科

眼科は毎週月曜の午後に秋田大学より派遣された医師により診療を行っている。原則として予約制であるが、他科よりの紹介患者などは可能な限り受け付けている。

当院では前眼部および眼底検査のほかに、視野障害に対する静的量的視野検査（昨年度は79件施行）や眼底疾患に対する蛍光眼底造影検査、涙道疾患に対する通水検査などが施行可能である。また、レーザー光凝固装置があり、昨年度は9人（のべ32回）の患者に対して光凝固を施行した。（内訳は糖尿病網膜症7人、網膜裂孔2人）

現在は診察日が週に一回と限られていることもあり、患者の内訳も白内障や緑内障、糖尿病網膜症、ドライアイといった慢性疾患が多くなっている。ぶどう膜炎や角膜潰瘍などの頻繁に診察する必要のある疾患や、視神経・眼窩疾患などの緊急を要する可能性のある疾患、また、進行した白内障や網膜剥離などの手術を要する疾患は平鹿総合病院や秋田大学附属病院へ紹介している。

今後しばらくは外来診療日が増える見込みは少なく、診療可能な人数は限られるが、そのなかで他科との連携を保ちつつ患者の不利益になることのないように適切に対処していくことが我々の役目であると考えている。

<文責 小野省太>

## 泌尿器科

### スタッフ

医師 沼倉一幸

病棟 木下文子(3B病棟師長)

外来 藤坂マリ子、得平やす子

人工透析室 佐藤昌悦(～H19.6)、和泉奈保子(H19.7～)、小川 伸、小田嶋明子、  
佐々木智美、中村勇美子、佐々木美紀子(H20.1～)、小田嶋千枝子

ME 川越 弦、柏谷 肇

泌尿器科は平成17年4月から平成19年3月まで2年間にわたり診療を担当した市村医師の転勤に伴い、後任として、平成19年4月より沼倉が診療を担当した。

着任時より以下の2点を重点目標として診療を行った。

#### ① DPC 導入に向けて在院日数短縮の試み

当院では将来の DPC 導入が既に決定しており、導入後も導入前と変わらず良質な医療を提供できるよう、入院治療の標準化を試みた。

すなわち、泌尿器科領域の定型的治療である、経尿道的手術、シャント関連手術、結石治療などについては、外来や術前説明の時点で入院期間や退院基準を具体的に示すことや、術後の早期離床を促し合併症を予防することなどを徹底した。不必要な治療や医学的根拠の乏しい慣習は極力避けるようにした。

その結果、平均在院日数は10.8日(H17年度18.5日、H18年度18.3日)と大幅に短縮し、入院診療に余裕が生まれたため、手術件数も172件(H17年度109件、H18年度107件)と大幅に増加した。

以上の結果は、外来、病棟および手術室スタッフのみなさんによる協力の賜物であり、私だけでは到底達成できなかったと思う。この場を借りて心から感謝したい。

#### ② 透析拠点病院としての取り組み

当院の透析室は、仙北、平鹿、雄勝地区では公的総合病院に設置された唯一の透析室であり、近年、末期腎不全患者が急激に増加し、導入から維持透析までを同一施設で行うことが困難になりつつある現状から、必然的に、透析治療の拠点病院としての役割を期待される。

病院間の垣根を越え、近隣の透析施設と協力し、患者それぞれの必要に応じた透析治療を提供できるよう取り組んだ。

具体的には、安定している透析患者の近隣透析施設への紹介と、ブラッドアクセストラブルおよび合併症治療のなど、高度な治療を必要とする患者の当院への積極的な受け入れである。

本年度の新規導入および導入準備を行った患者は12名であったが、ほとんどの患者を近隣の透析施設に紹介し、一方、消化器や循環器など合併症治療期間中の維持透析の依頼を数多く紹

介いただいた。

具体的な数値は提示できないが、ある程度は目標を達成できたと考えている。

これからも近隣の先生方との相互の協力関係が不可欠であり、現在以上のよい関係を構築していきたい。

最後に、少ない人数で業務を滞りなく行っている透析室スタッフと、透析室の業務内容に配慮し増員を決めてくださった総師長、ほか関係している皆さんに心から感謝したい。

#### 平成19年度 泌尿器科手術件数

手術名	件数
TUR-Bt	26
TUR-P	26
ESWL	26
シャント造設・再建	21
PTA	12
TUL	12
両側精巣摘除	8
包茎手術	6
尿失禁手術(含むTVM)	6
前立腺全摘	4
鏡視下腎摘除	3
シャント結紮	3
膀胱碎石	2
精巣固定	2
陰嚢水腫・大人	2
膀胱部分切除	2
内尿道切開	1
ステント挿入	1
腎摘除	1
膀胱水圧拡張	1
精液瘤切除	1
腎瘻造設	1
膀胱全摘	1
ポート造設	1
陰嚢水腫・小児	1
シャント静脈瘤切除	1
尿管鏡検査	1
<b>総計</b>	<b>172</b>

<文責 沼倉一幸>

## 放射線科

### スタッフ

常勤医師	：	平野 弘子		
応援医師	：	秋田大学放射線科		
		泉 純一	平成19年4月～7月	毎週金曜日
		安田 格	7月～9月	毎週金曜日
		古賀 誠	10月～12月	毎週金曜日
		渡邊 磨	平成20年1月～3月	毎週火曜日

その他、随時、秋田大学放射線科へ応援を依頼。

### 特記事項

平成16年10～11月より CR、CT、MRI のサーバへの電子保存が始まり、平成17年8月より乳房撮影が、9月より透視撮影装置の機種更新により RF が電子保存されるようになり、放射線科で撮影された画像全部が電子保存されるようになった。これにより、平成19年3月からは、手術用等の一部を除き、写真の提供を止め、撮影全般がフィルムレスへと移行した。平成19年度は、放射線科での画像診断業務全体が、モニター読影へと移行した。

血管撮影装置が9月に故障した。10月からは、透視装置を使用して血管造影検査を施行している。

平成19年7月に、ワークステーションが更新され、AZE Virtual Place Raijin, Lexus 2台となり、アプリケーションソフトとしては、新たに冠動脈石灰化解析が可能となった。

### 業務内容

平成19年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 全体では6026件、MRI 全体は1544件であった。造影剤使用検査は、CT で2280件、MRI で295施行されていた。造影 CT の内、CT angiography (特殊 CT) が208件、更にこのうち89件が心臓 CT であった。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 246件、MRI 343件、胸部単純写真の撮影・読影は13例であった。依頼 CT, MRI は、各々読影件数全体の4.1%、22.2%であった。

検診業務としては、脳ドックが118件あり、頭部 MRI & MRA が 117件、頭部 CT が1件施行されていた。検診の胸部単純写真の読影は3245件であった。これには脳ドックの118件が含まれている。

この他、職員健診分の胸部単純写真の読影が650件であった。(表. 1)。

血管造影検査は17件施行され、このうち TAE 等のインターベンションが16件であった。撮影のみの症例は、消化管出血例の1件であった。(表. 2)。

過去5年間の検査・読影件数の推移を示した(表. 3)。CT は、平成17年5月より、MDCT (Philips, Brilliance CT 40) に移行している。MRI は、0.5T機種 (GE, SIGNA Contour) を使用している。昨年度と比べると、CT の総件数は増加し、MRI の総件数は減少した。CT 件数の増加は、頭部 (脳) 単純 CT の増加により、MRI の減少は、脊椎及び骨・関節領域 MRI が減少

していた。頭部 MRI の件数には変わりなかった。また、CT の総件数は増加しているが、造影 CT 検査数は減少していた。特に、特殊 CT (CT angiography) が276件から208件と減少が目立った。心臓 CT, 腹部 CTA とともに、減少していた。血管撮影検査数の減少は、撮影装置の故障により、約2ヶ月間血管撮影が施行できなかった事が一因となっていた。

平成19年度 検査・読影件数

検査		件数	血管造影検査	
CT	総計	6026	検査治療内容	疾患名
	病診	246 (4.1%)	肝 TAE	13 肝細胞癌 14
	脳ドック	1	肝動注	2 転移性肝癌 2
MRI	総計	1544	撮影のみ	1 消化管出血 1
	病診	343 (22.2%)	合計	17 合計 17
	脳ドック	117 (7.6%)		
胸部写真		3258		
検診		3245		
病診連携		13		

表. 1

表. 2

放射線科で施行された年度別の検査・読影件数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
CT	4962	4921	4637	5747	6026
MRI	1866	1813	1974	200	1544
血管造影	40	37	15	21	17

表. 3

<文責 平野弘子>

# リハビリテーション科

## I. リハビリテーション科・組織

江畑公仁男 (副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科长)  
 高橋 信夫 (技 師 長) あんまマッサージ指圧師  
 小田嶋尚人 (副 技 師 長) 理学療法士  
 高橋 貞広 (主 任) 理学療法士  
 高橋 洋 (主 任) 作業療法士  
 高橋 茂実 (副 主 任) 理学療法士  
 鈴木 務 (副 主 任) 理学療法士  
 熊谷 剛 (副 主 任) 作業療法士  
 渋谷 美紀 助 手

## II. スケジュール

ス ケ ジ ュ ー ル	曜 日
リハビリテーション科・ミーティング	毎月曜日
整形外科術前術後検討会	随 時
3 A病棟リハビリ・カンファレンス	第1月曜日
4 病棟リハビリ・カンファレンス	第1金曜日
3 B病棟リハビリ・カンファレンス	第2金曜日
2 病棟リハビリ・カンファレンス	第2木曜日

## III. 業 務

### 1. 院外活動

#### ◎横手市ディサービス康寿館

5月28日(月) 高橋 貞広、鈴木 務  
 29日(火) 小田嶋尚人、熊谷 剛  
 30日(水) 高橋 洋、高橋 茂実  
 31日(木) 高橋 貞広、鈴木 務  
 6月1日(金) 小田嶋尚人、熊谷 剛

#### ◎横手市 かまくら学級 横手市保健センター

##### 開校式

4月19日(木) 小田嶋尚人

##### 前期

7月12日(木) 小田嶋尚人  
 7月19日(木) 高橋 貞広  
 7月26日(木) 高橋 洋

後期

平成20年

1月24日(木) 高橋 茂実  
 1月31日(木) 鈴木 務  
 2月21日(木) 熊谷 剛

◎ヘルパー講習 横手市社会福祉協議会

8月6日(月) 小田嶋尚人  
 8月20日(月) 小田嶋尚人

◎平成19年度介護員養成研修2級課程講習会講師 横手市民会館

9月15日(土) 午前 小田嶋尚人 「リハビリテーション医療の基礎知識」  
 午後 小田嶋尚人 「住宅・福祉用具に関する知識」

## 2. 研修活動

平成19年

4月14日 小田嶋尚人、高橋 茂実、鈴木 務  
 秋田市 第1回スポーツ理学療法研修会  
 4月14日～15日 高橋 洋、熊谷 剛  
 湯沢市 第16回秋田県作業療法学会  
 4月21日 熊谷 剛  
 山形市 第19回日本ハンドセラピー学会学術集会  
 5月19日 小田嶋尚人、高橋 茂実、鈴木 務  
 秋田市 秋田県理学療法士会研修会  
 5月19日～20日 熊谷 剛  
 甲府市 第19回活動分析研究大会  
 7月6日 高橋 洋  
 東京都 彰栄リハ専門学校実習指導者会議  
 7月7日～8日 小田嶋尚人、高橋 貞広、鈴木 務、熊谷 剛  
 横手市 秋田ボバース研究会  
 7月21日・28日、8月18日 熊谷 剛  
 秋田市 平成19年度作業療法士新人教育プログラム  
 7月21日 小田嶋尚人  
 秋田市 小児理学療法ネットワーク  
 7月22日 小田嶋尚人、高橋 貞広、高橋 茂実、鈴木 務  
 湯沢市 理学療法週間  
 8月11日 熊谷 剛  
 新潟市 運動器リハビリテーション科学研究会

- 8月12日 熊谷 剛  
秋田市 作業療法士会身障部門研修会
- 8月23日～26日 小田嶋尚人  
福島市 第34回東北総合体育大会
- 9月1日 小田嶋尚人  
弘前市 平成19年度臨床実習指導者連絡会議
- 9月1日 高橋 茂実、鈴木 務  
秋田市 第1回生涯学習講習会
- 9月8日～9日 高橋 茂実、鈴木 務  
秋田市 小児福祉部研修会
- 9月29日～30日 熊谷 剛  
福島市 第18回東北作業療法学会
- 9月23日 小田嶋尚(座長)、熊谷 剛  
秋田市 第49回全日本病院学会
- 9月29日～10月9日 秋田わか杉国体サポートトレーナー  
小田嶋尚人 9/30～10/1、10/3～8  
高橋 茂実 9/30～10/1  
鈴木 務 9/30
- 10月6日～7日 高橋 信夫  
盛岡市 第50回東北理学療法研修学会
- 10月13日～14日 小田嶋尚人、高橋 茂実、鈴木 務  
横手市 秋田わか杉大会障害者スポーツ大会
- 10月19日～20日 高橋 洋  
盛岡市 NST栄養サポートチームの導入と活動
- 10月20日 鈴木 務  
青森市 青森県立保健大学臨床実習指導者会議
- 10月25日 小田嶋尚人、高橋 貞広、高橋 茂実、鈴木 務、熊谷 剛  
横手市 ベットサイドの呼吸リハビリテーション
- 10月26日 小田嶋尚人、高橋 洋  
秋田市 秋田大学臨床実習指導者連絡協議会
- 10月27日～28日 熊谷 剛  
山形市 日本作業療法士協会全国研修会
- 10月27日 小田嶋尚人、鈴木 務  
秋田市 理学療法士会講習会
- 11月17日 高橋 洋  
秋田市 高次脳機能障害講習会
- 12月1日～2日 小田嶋尚人、高橋 茂実、鈴木 務  
郡山市 第25回東北理学療法学会

- 12月8日 小田嶋尚人、高橋 貞広  
秋田市 秋田県理学療法士会理事会
- 12月8日 高橋 茂実  
ひまわりの会
- 12月8日 高橋 洋  
仙台市 東北静脈経栄養研究会
- 12月8日～9日 熊谷 剛  
東京都 人間作業モデル研究会
- 平成20年
- 1月12日 高橋 貞広、鈴木 務  
横手市 理学療法士会県南ブロック研修会
- 1月20日 鈴木 務  
一関市 スリングベーシックセミナー
- 1月26日 小田嶋尚人、高橋 茂実、鈴木 務  
秋田市 第3回スポーツ理学療法研修会
- 1月27日 熊谷 剛  
東京都 日本臨床研究会
- 2月2日 鈴木 務  
秋田市 生涯学習講習会
- 2月2日～3日 高橋 貞広  
秋田市 車椅子SIG講習会
- 2月13日 熊谷 剛  
秋田市 住環境整備研修会
- 2月16日～17日 小田嶋尚人  
秋田市 認定理学療法士（呼吸）講習会
- 2月22日～24日 鈴木 務  
横手市 現職者講習会
- 2月24日 高橋 洋  
秋田市 小児研修会
- 3月7日 小田嶋尚人  
新潟市 新潟リハ専門学校指導者会議
- 3月8日～9日 小田嶋尚人、高橋 貞広、高橋 茂実、鈴木 務  
能代市 秋田県理学療法士会学会

### 3. 臨床実習

理学療法部門

青森県立保健大学

4月9日～5月25日 佐藤 彩乃

秋田大学

4月9日～5月25日 長田 真一

6月4日～7月20日 齋藤 康作

弘前大学

6月11日～7月27日 清水 隆幸

作業療法部門

東京福祉専門学校

7月23日～9月7日 阿部なつみ

秋田大学

8月27日～10月12日 伊藤麻里子

彰栄リハビリテーション専門学校

10月29日～12月14日 鈴木 庸子

#### IV. 総括

平成18年4月の診療報酬改正で算定日数制限が実施されてから、リハビリの患者数が減少傾向にある。

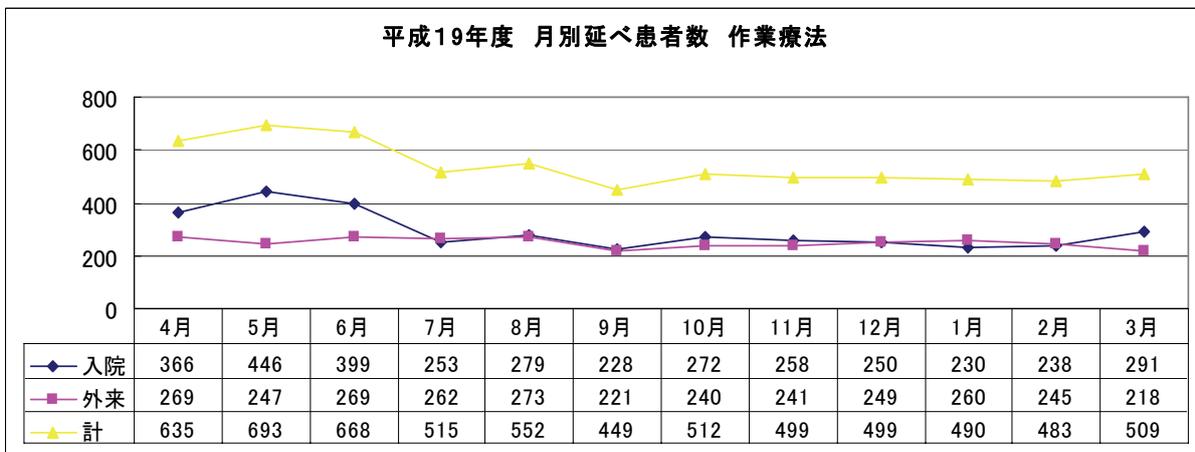
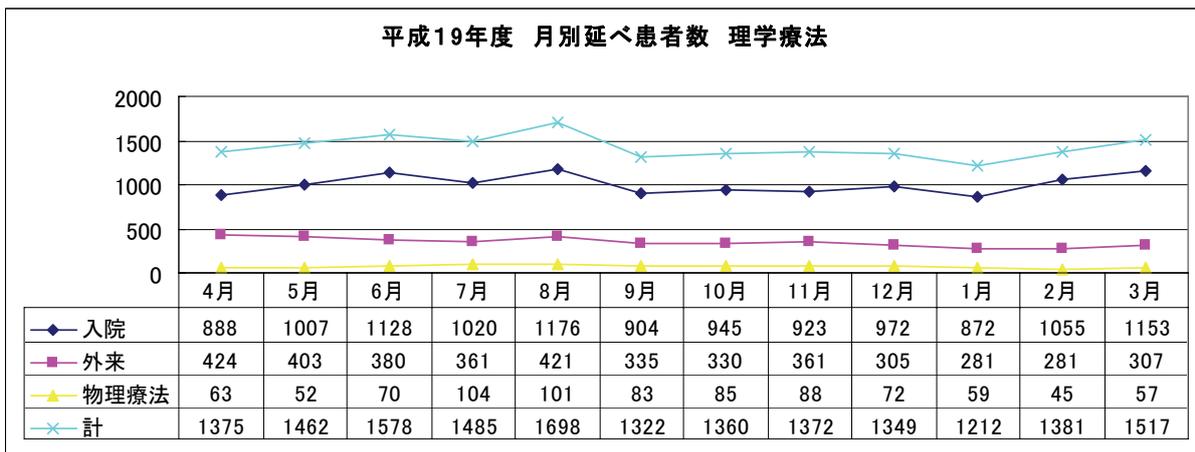
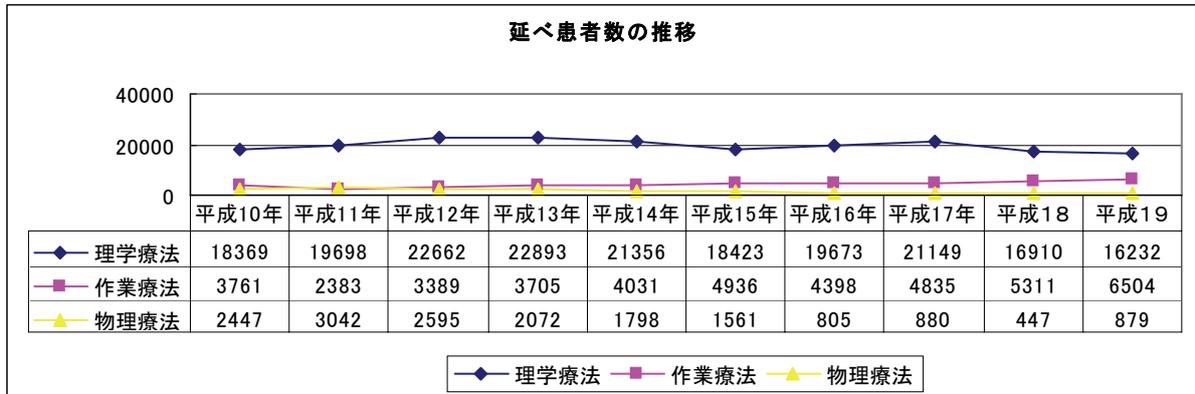
疾患別では整形外科医の常勤が1名となったことにより運動器疾患の単位数が減少する一方、脳血管疾患が増加した。

院外活動においては、研修会や講習会などに積極的に参加し職員の資質・技術の向上が図られた。また、指導的な立場で後輩の育成に関わるなど市立横手病院の名声と存在感をアピールしてきた。

秋に開催された「秋田わか杉国体」と「秋田わか杉大会障害者スポーツ大会」ではサポートトレーナーとして協力体制をとり、大会の成功に関与した。

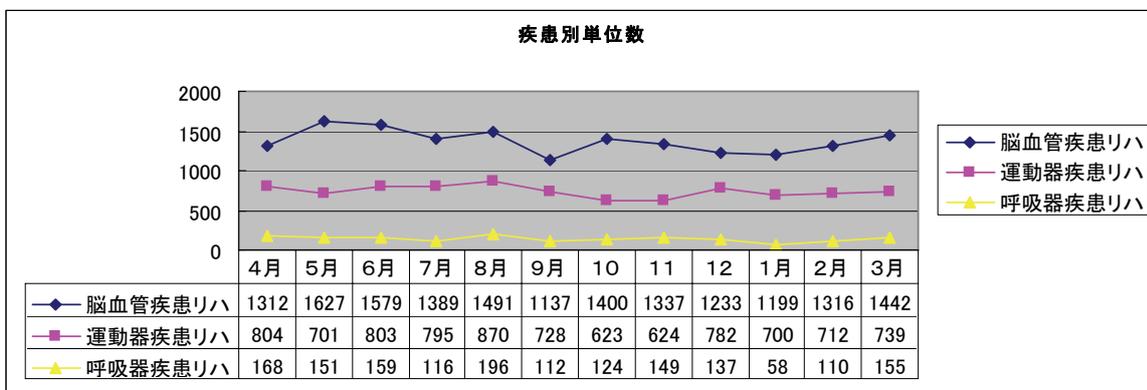
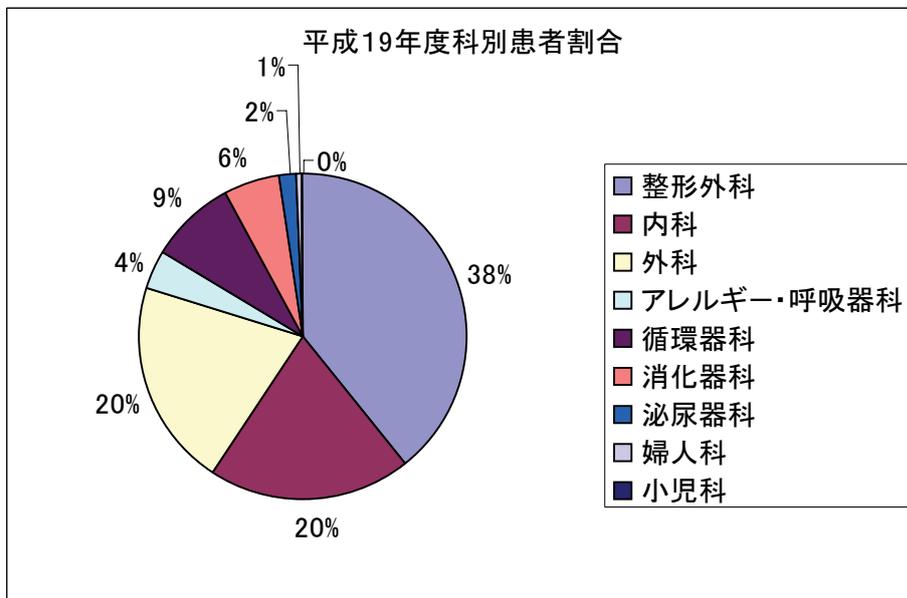
10月1日からは院内一斉に電子カルテ化がスタートしましたが、リハの実施記録も同様の扱いであるが特に大きな混乱もなく稼動することが出来た。

※リハビリテーション科 資料



平成19年度 科別患者数

整形外科	278
内科	141
外科	145
アレルギー・呼吸器科	27
循環器科	61
消化器科	40
泌尿器科	12
婦人科	4
小児科	0
合計	708



<文責 高橋信夫・小田嶋尚人>

## 救急センター

### <救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員(非常勤職員も含めて)の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

### <スタッフ>

救急センター責任者 吉岡 浩

専任看護師 和賀美由紀

### <救急患者取扱状況> H19年4月1日～H20年3月31日分

1. 取扱患者数 14,694人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区 分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜（再掲）	計
救急車	233人	468人	110人	701人
その他	0人	13,993人	1,048人	13,993人
計	233人	14,461人	1,158人	14,694人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内 科	5,193人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	7,286人	循環器科	0人	その他	146人
整形外科	995人	産婦人科	160人		
外 科	913人	眼 科	1人	計	14,694人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度（患者数（人））				受付後の扱い（患者数（人））			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	85	4	1	0	85	5	0	0
急 病	12,804	561	285	35	12,745	846	29	35
その他	874	19	26	0	872	45	2	0
計	13,763	584	312	35	13,702	896	31	35

< H19年度総括 >

私達医療従事者が、救急医療に携わる時、時間と情報が制限された厳しい状況の中で迅速かつ適切な処置を施行する事が求められます。CPA 件数も多くなっており、質の高い救急医療をチームで効果的に行うシステムの維持、向上を目指してさらに努力していかなければと考えます。

< 文責 和賀美由紀 >

## 薬 剤 科

科長	石田 良樹
主任	佐々木洋子
主任	渡邊 圭子
主任	小宅 秀樹
薬剤師	谷川 裕子
主査	小川由起子
主席薬剤助手	嶋田 清子
薬剤助手	大山 丹子
薬剤助手	北小路由紀
薬剤助手	柿崎 幸
薬剤助手	伊藤 優子

本年度は麻薬製剤の管理と運用を見直し、より適正な使用環境の整備を行った。

秋より導入された電子カルテにより患者情報の共有化が可能となり、薬剤管理指導や化学療法の投与量チェックの効率化など業務改善に繋がった。また、これに伴い入院患者の持参薬を電子カルテに入力するという新しい業務を担当することとなった。平成20年2月には抗がん剤調整作業者の被爆対策として安全キャビネットを導入した。

医療安全は薬剤科にとっても大きなテーマである。安全に薬物療法を実施するためのシステム構築が必要不可欠である。具体的には化学療法レジメン管理体制の確立、持参薬管理システムの改善、外来化学療法のミキシングなどがある。いずれも現段階で充分とは言えず今後の課題となっている。

後藤宗一前薬剤科長の早期退職により、本年度より新体制となる。薬剤師1名が採用。昨年度退職された伊藤優子さんに嘱託職員として勤務していただくこととなった。

今年度をもって主席薬剤助手の嶋田清子さんが早期退職することとなった。

### 平成19年度実績

	平成19年度	平成18年度
院外処方箋枚数	97206	100472
院内処方箋枚数	23118	24329
院外処方箋発行率	80.8%	80.5%
後発品加算比率	28.0%	29.3%
7種以上の処方箋比率	6.4%	5.6%
薬剤管理指導算定件数	2019	2375
退院時指導加算件数	487	572
麻薬指導件数	45	95
薬剤情報提供件数	898	1140
無菌製剤加算件数	7543	6352
注射セット件数(定期)	40068	37026

<文責 石田良樹>

## 診療放射線科

### スタッフ

診療放射線技師	技師長	藤原 理吉
	総括室長	岡根 和義
	室長	郡山 邦夫
	室長	法花堂 学
	主任	細谷 謙
	副主任	齊藤 千尋 (平成19年4月採用)
		佐藤 裕基 (平成19年5月採用)
看護師	: 高階 利子	
看護助手	: 佐藤富美江	
受付	: 三浦 真理	

### 平成19年度目標

- 1、安全な医療の提供  
機器の安全点検の励行と整備  
患者様へのアクセス・誘導の見直し  
マニュアルの遵守
- 2、接遇の向上  
患者様への検査説明マニュアルの遵守・励行・充実
- 3、コスト削減

### 概要

整形外科医師の減少により整形領域の検査件数の減少が認められた。  
診療放射線科バリアフリーコーディネータ（佐藤富美江氏）が操作室内の見直しを行い、動線上の出っ張りなどが解消されより安全な状態になった。

### 機器等

平成19年5月1日 第2撮影室の天井走行、懸垂器、管球の交換  
平成19年5月7日 第1撮影室の天井走行、懸垂器、管球、X線高電圧発生器の交換  
平成19年5月10日 透視B室をDRに交換（全フィルムレス化完成）

### 主な出来事

#### 院内発表

平成19年11月22日 コ・メディカル研究発表会

注腸造影法の成果

岡根 和義

Cardiac CT の臨床活用と心臓カテーテル検査との対比

佐藤 裕基

院外発表

平成19年12月2日 秋田県医療学術交流会

「CTリンパ管造影による乳癌センチネルリンパ節描出の経験」 齊藤 千尋

平成19年6月9日 日本放射線技師会第23回放射線技師総合学術大会

「腹部造影CTにおける造影効果と被写体因子との関連性の検証」 法花堂 学

平成19年12月1日 秋田県放射線技師会 県南支部 学術大会

CT部門 座長 法花堂 学

「CT-AECの動作特性の基礎的検討」 佐藤 裕基

平成20年1月26日 秋田県放射線技師会 医療情報研修会

「PACSの現状と今後について」 藤原 理吉

平成20年2月2日 秋田県放射線技師会 マネジメント研修会

「フィルムレスを導入して」 藤原 理吉

平成20年3月8日 秋田県放射線技師会 生活習慣病検診従事者研修会

「デジタル透視装置の現状と課題」シンポジスト 郡山 邦夫

平成15年度を100とした時の推移

一	年 度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
一般 撮 影	総撮影件数	100	101	102	108	93
	出張撮影件数	100	94	105	124	113
	乳房撮影件数	100	124	171	209	211
健 診	胸部撮影人数	100	104	111	136	143
	胃透視検査人数	100	98	99	120	108
造 影 ・ 透 視 検 査	消化管	100	97	84	107	107
	肝・胆・膵	100	131	89	99	96
	泌尿器・産科領域	100	56	83	95	40
	整形領域	100	197	1,120	1,087	760
	心カテ・血管造影	100	109	79	91	37
C T 人数		100	96	101	125	131
M R I 人数		100	121	128	133	123

件数、人数の推移

年 度		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
一般撮影	総撮影件数	外来	25,029	25,797	25,999	26,950	22,746
		入院	11,741	11,195	11,416	12,765	11,579
		合計	36,770	36,992	37,415	39,715	34,325
	総曝射回数	外来	43,780	42,504	42,493	43,398	35,203
		入院	15,001	14,532	14,830	16,290	14,435
		合計	58,781	57,036	57,323	59,688	49,638
	出張撮影件数		5,163	4,857	5,411	6,415	5,856
乳房撮影件数		872	1,083	1,494	1,826	1,844	
フィルム枚数		66,741	65,224	61,557	46,066	485	
健診	胸部撮影人数		3,780	3,938	4,180	5,130	5,406
	胃透視検査人数		895	880	888	1,078	969
造影・透視検査	消化管		411	398	345	438	439
	肝・胆・膵		175	230	155	173	168
	泌尿器・産科領域		414	232	345	394	167
	整形領域		30	59	336	326	228
	心カテ・血管造影		70	76	55	64	26
C T	人数	外来	3,243	3,209	3,319	4,179	4,457
		入院	1,361	1,198	1,325	1,576	1,578
		合計	4,604	4,407	4,644	5,755	6,035
フィルム枚数		17,974	17,249	27,748	31,522	1,361	
M R I	人数	外来	1,291	1,520	1,673	1,677	1,351
		入院	249	342	299	373	536
		合計	1,540	1,862	1,972	2,050	1,887
フィルム枚数		7,854	9,405	10,480	10,330	1,270	

<文責 藤原理吉>

## 看護科

平成19年度は、電子カルテ導入に向け実施、運用が行われるよう基盤づくりから始まりました。全職員が一丸となってシステム導入の計画立案を行い、シュミレーションし、その結果、10月1日より電子カルテ稼動となりました。

電子カルテ稼動し、外来では、患者様が診察終了し会計までの時間はかなり短縮され、患者サービス向上につながったと言える。また、病棟では看護計画の見直し、転倒転落アセスメント、NST、褥創、看護必要度など新たに入力できるようになり、看護の質向上に向けた改善がされました。

産休育児休暇・病気休業など長期休暇が多く、看護師が減少し大変煩雑な日々でしたが、より専門性の高い最良の看護を目指して頑張った一年でありました。

平成19年度	総患者数	78,963名
	一日平均入院患者数	215.7名
	平均在院日数	18.4日
	平均稼働率	86.5%

### 看護科目標

#### 1、責任を持って継続した看護を行うための看護体制を確立する。

- ① 固定チームナーシングの確立までいっていないが、研修会に参加し各部署で学習し検討しています。自分達の行っている看護に責任を持つという意識の向上は付いてきています。今後も継続していく予定です。
- ② 創傷・排泄ケア認定看護師：7月に佐藤美夏子が認定看護師を取得しました。ストーマ外来、褥瘡回診など研修成果を遺憾なく発揮し、存在感をアピールしました。また、スタッフ育成面でも研修会を定期的実施し、リンクナースと共に看護師はレベルアップしてきております。
- ③ 呼吸療法認定士、透析技術認定士、ACLS Provider、消化器内視鏡技師など専門領域の資格取得者も増えてそれぞれの部署で発揮してくれています。今後も専門的な看護を目指す看護職が増えることを期待しております。

#### 2、個人を尊重した接遇ができるよう努める。

接遇に関しては院内・院外研修に参加し、接遇に対しての意識が高くなってきています。

「患者満足度」は患者が計るものですが、「ホスピタリティ」は提供する側つまり私達職員の心、想いです。この想いを実践していく事が、患者満足度につながってくると思うと同時に、職員満足にもつながってくると思います。

#### 3、確認を徹底し、医療事故を未然に防ぐ努力をする。

医療の安全確保についてはインシデント、アクシデントレポート作成の必要性が理解され、看護科リスクマネージャー・感染リンクナースと共に事故防止対策や感染防止対策の強化ができました。

感染管理担当：小川伸をリーダーとして4月より感染リンクナースを増員しました。役割として、ICT 回診への参加、各部署における感染患者の把握、職員や患者に対する清潔指導、学習会などです。東北感染対策制御ネットワークベストプラクティス部会にも参加し、ベストプラクティス作成に取り組み、感染に対しての意識が高くなったと感じます。今後により良い院内感染対策を行えるように継続指導が必要です。

4、電子カルテ導入に向け、スムーズに実施、運用が行えるよう基盤をつくる。

電子カルテ導入に向けて看護支援委員会を看護記録、看護情報、看護計画、データベースと4つのワーキンググループを発足し、現状把握、見直し、変更、新規など職員へ浸透させ実施となりました。

主な出来事

平成19年

- 4月 採用職員辞令式  
新規採用職員研修（4月2日～4日間）看護科採用16名  
昇格者 看護師長（2名）木下 文子 木村真貴子  
昇格者 看護主任（1名）和賀美由紀（救急センター兼務）  
看護科感染リンクナース6名→11名に増員
- 6月 職員メンタルヘルスチェック実施（全職員対象）
- 7月 昇格者 看護主任（1名）和泉奈保子  
佐藤美夏子 皮膚・排泄ケア認定看護師を取得  
市立大森病院との交流研修（7月1日～8月31日まで）  
看護師：下村優子 佐々木美紀子（市立横手病院から市立大森病院へ）  
看護師：佐藤 烈子 佐藤 圭子（市立大森病院から市立横手病院へ）
- 8月 ふれあい看護体験（市内中学生12名参加）
- 9月 9月27日・28日電子カルテシュミレーション
- 10月 10月1日電子カルテ稼働
- 11月 県南自治体病院合同研修会（看護必要度について）20名参加
- 12月 褥瘡ハイケア加算を取得  
12月22日 第14回クリスマスコンサート

平成20年

- 1月 看護科意向調査実施（看護師全員対象）
- 3月 秋田県立衛生看護学院 助産科学生受け入れ認可（5月～実習開始）

看護要員関連

1) 看護要員

平成19年4月1日 正職員看護師数 167名  
 平成19年度採用看護師数 16名  
 平成19年度正職員退職者数 2名 (退職率1.4%)

2) 産休・育児休業・長期病欠・退職状況

月平均の育児休暇 5.4名  
 平成19年度新規育休者 3名  
 育休取得日数合計 3,636日  
 育休一人平均取得日数 363日

年 月	H19.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H20.1	2	3	計	平均
産 休	2	3	3	4	1	2	1	2	2	3	3	6	32	2.7
育児休業	4	4	3	2	5	5	6	6	7	7	8	8	65	5.4
長期病欠			1	3	3	5	2	2	3(1)	1(1)	1	2	23	
中途退職	1	1											2	

( ) 臨時

○ 横手市事業への協力

**救護班**

平成19年6月2日 あさくら地区 地区ハイキング 永須 直美  
 7月8日 市民登山 岩村 久子 小西千穂子  
 8月16日 送り盆祭り 和賀美由紀 菅原奈保子  
 9月9日 救急フェア 木村カズ子 高橋 正子  
 10月13日 地区登山(駒ヶ岳) 佐藤 恵子  
 平成20年2月17日 ぼんでん 木村カズ子 和泉奈保子

**まちな保健室**

「ハッピータウンよねや」内にて 血圧測定・健康相談 年3回参加

**いきいきサロン**

地域に出向いて血圧測定・健康相談 年3回参加

○院外発表

- 平成19年 9月 2日 第34回東北腎不全研究会  
「体重管理不良患者に対する体重増加量減少の試み」  
中村勇美子 小田嶋千枝子
- 9月14日 第3回県南緩和医療研究会 シンポジスト 高橋 共子
- 11月11日 第24回秋田県消化器内視鏡技師研究会  
「内視鏡吸引ブラッシング装置とリユースブラシの有効性比較検討」  
高橋 純子 加藤真由美

○院外講師

- 平成19年 7月18日 性教育講座1 <県立横手城南高校> 藤沢 親子
- 9月29日 介護員養成研修2級課程講習会 高橋 礼子
- 12月13日 褥瘡勉強会（市立大森病院） 佐藤美夏子
- 平成20年 1月19日 看護協議会会員研修「日常のスキンケア」 佐藤美夏子
- 2月26日 出前講座 子どもの病気と看護 木村カズ子

<文責 木村カズ子>

## 2 病棟

定床数 58病（伝染病棟4床含む）

### 特徴

産婦人科・内科の混合病棟です。婦人科の手術件数157件・分娩数160件に加え、入退院・検査・処置件数の多い、消化器内科の病棟です。H19年度の延患者数17,925（正常分娩数含まず）病床稼働率84.4%です。当病棟は周産期の産婦を含め、出生直後の新生児から後期高齢者まで患者層が多岐にわたります。年齢による特殊性と、各科の特殊性を理解し業務にあたっています。

### 平成19年度病棟目標

- 1、固定チームナーシングによる、看護体制を確立する
  - 前半期 固定チームナーシングの勉強会を開催し、認識を持つ
  - 後半期 チーム別の目標を決定し、固定チームナーシングの開始
- 2、よりよい接遇に努める
  - 部屋担当看護師は、勤務開始時と終了時挨拶する
- 3、電子カルテ導入に向け、指示伝達を徹底させる

### 《前期評価》

- 1、固定チームナーシングの認識は、各自持って仕事に打ち込んでいる。チーム別目標は、後期の課題です。
- 2、部屋受け持ち看護師は、患者様に挨拶してから業務開始をしています。これからも徹底していきたい。
- 3、電子カルテ導入は、スムーズに開始できた。これからは、コスト漏れがないよう徹底していきたい。

### 《後期評価》

- 1、固定チームナーシングは、各チームカンファレンスを持ちケアにあたっている。
  - チーム目標は、Cチームのみであった。来年度は3チームすべて目標を立て看護を提供していきたい。
- 2、業務開始時と終了時の挨拶は、実行されています。さらに徹底していきたい。
- 3、看護実施未入力がある。コスト意識を高め、漏れのないように徹底していきたい。

<構成スタッフ> (H19年4月1日現在)

師長	高橋千鶴子			
主任	照井 洋子 (助産師)			
助産師	藤沢 親子	佐藤 悦子	池田 弘恵	田中 由江
	吉川ちあき	高橋 智美	斎藤紗希子	菅原 沙綾
	永田 咲子			
看護師	赤川恵理子	高橋 恵子	斎藤みどり	高橋 優子
	佐々木 薫	安藤 宏子	佐藤恵美子	佐藤 友紀
	松浦 善美	鈴木 美香	高橋亜由美	佐藤 千春
	高橋 希	高橋かおり	高橋 朋子	
看護補助	長澤 唱子	山石久美子	木津川恵美	
病棟事務	佐藤ゆかり			

<異動>

H19年7月19日	看護師	高田真紀子	3 Bより
11月14日	看護師	松浦 喜美	産休
H20年1月1日	保健師	岡部 沙織	健診センターより
3月1日	看護師	高橋 恵子	4 Fへ
	看護師	斎藤みどり	3 Bへ
	看護師	佐々木史子	3 Bより

<文責 高橋千鶴子>

## 3A病棟

定床数： 67床（亜急性病床10床含む）

担当科： 小児科 整形外科 内科

### 【看護スタッフ】

- ・師 長：木村真貴子
- ・主 任：高橋 共子
- ・看護師：町本 典子 高橋加美子 小田島千津子 佐藤 恵子 高橋はるみ  
和泉奈保子 佐藤由美子 小松田江利子 桐原 峰子 真田由美子  
稲川 雅美 小林 貴子 藤井 涼子 武田フミエ 高橋 亮子  
阿部 萌子 川崎 智美 藤谷 栄 高橋 美樹 泉谷真理子  
松川かおり 熊澤あゆみ 須田 鮎美 武藤 夏子
- ・看護補助 佐藤 悦子（9月退職） 高橋 容子 藤原 周子
- ・事 務 島田万里子 小川由美子

H19年度4月1日現在

### 【看護方式】 固定チームナーシング

### 【年間の入退院状況】

- ・延患者 18,937人
- ・在院日数 11.2日
- ・稼働率 77.2%

### 【病棟の概要】

- ・ 整形外科は常勤医師1名で、外来、病棟、手術をこなしている。椎体疾患患者の手術を中心に大腿骨骨折、膝関節人工骨頭置換術などが主である。手術経過は良好で概ね入院時診療計画通りに退院されている。
- ・ 小児科は常勤医師1名で朝早くから回診を行い外来、病棟業務をこなしている。本年度は喘息等の慢性疾患と嘔吐、下痢症状の患者様が多く、感染対策に力を入れた一年であった。

### 【病棟目標】

1. 責任：自分の行う看護に責任をもち、固定チームナーシングを築きあげるよう努力する
2. 接遇：衆人環視の中で働いているという意識を持ってマナーを守る
3. 節約：コスト意識の向上と徹底に努める

### 【目標の反省】

1. 自分の行う看護に対する責任を持つという意識は徐々についてきている。チーム内のカンファレンスの充実とリーダーの采配が今後の課題である。
2. 笑顔を忘れず頑張っているが言葉がきついという意見を頂いたことが数回あり。受け取る

側の立場に立った接遇に努めてゆく。

3. コスト意識が高くこのままの状態で維持していきたい。

【1年間のまとめ】

病棟全体としては転倒・転落が多く、対応に四苦八苦した。高齢化に伴い痴呆症状の悪化に起因した転倒・転落、また小児科においては家族が付き添いしているにもかかわらず転落してしまったなどの報告は後を絶たない。カンファレンスや家族教育の充実、適切な予防策の実施などで少しでも転倒・転落を減少させることが今後の課題である。

<文責 木村真貴子>

## 3 B病棟

### <病棟の特徴>

- ・定床数 60床（重症加算室5床）
- ・担当科：外科、泌尿器科、内科の混合病棟
- ・集中治療室看護、緩和ケア、化学療法ケア、ストーマケアなどの専門的技術が求められ、対応力、指導力アップのため研修会参加、独自の学習会を開催している。
- ・泌尿器科では、短期間の検査、手術入院も多く、術前、術後の看護、退院後のケア、さらに内科の高度な専門治療の介助など精神的、肉体的に細心の注意を必要としている。
- ・高度な治療に加え、患者の高齢化に伴い、日常生活の援助、退院に向けての家族指導など重視している。
- ・H19年度外科手術件数 327件 泌尿器科手術件数 154件

### <病棟目標>

- 1、 やりがいのある継続した看護体制を築く
  - ① 申し送りの短縮、廃止に向ける
  - ② チームカンファレンスの実施
  - ③ 固定チームナーシングについて学習する
- 2、 患者様に安心していただけるように接する
 

挨拶・笑顔・身だしなみ
- 3、 医療事故、感染を防ぐ
 

手洗いを徹底し感染予防に努める

### <目標の反省>

- 1、 ①申し送りの短縮、廃止では、その日受け持つ部屋の情報収集を個人で徹底して行い、また、申し受ける側の意識改革も必要であることを常に念頭において申し送りをする。
  - ②チームカンファレンスはなかなか実施できず、各チームとも業務の中で時間を決めていく方向とする。
  - ③固定チームナーシングは各自テキストで勉強していくこと、チーム毎に目標やカンファレンスの方法などルールを決めて取り組んでいく。
- 2、 挨拶では、受け持ち患者様への自己紹介がなかなかできず、不安を与えてしまい、今後は習慣にしていく努力をする。
- 3、 ひやり・ハット報告は、全員で共有し、再度各自気をつけて行動する。インフルエンザや他の感染症などの発生はなく、今後も予防策の継続をはかる。

<構成スタッフ> H19年4月1日現在

師 長：木下 文子

主 任：木村恵美子

看 護 師：下夕村優子	矢野多智子	柿崎 美幸	寫田 麗子
佐藤さとみ	高田真紀子	佐々木史子	山田百合子
佐藤 秀子	佐藤美夏子	谷口 順子	今野谷沙織
長井美憂希	渡邊あかね	石山久美子	高橋 美里
丹 久美	小西千穂子	高橋 康子	奥山かづえ
地主 愛	小棚木美香	浅倉けい子	佐藤 愛
佐々木美智子	佐藤 佳織	佐々木祐美	計 29名

病棟事務：佐藤 裕香

看護補助：土田 輝子 柴田美津子 織田美和子

<看護方式> 固定チームナーシング

<年間延べ入院退院患者数、在院日数、稼働率>

年間延べ患者数 19,569名

在院日数 16.3日

稼働率 89.1%

<文責 木下文子>

## 4 病棟

### <病床数>

65床（重症加算室 5床含）

### <担当科>

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

### <看護方式>

固定チームナーシング

### <年間延べ入院退院患者数 在院日数 稼働率>

年間延べ患者数 22,522名

在院日数 28.7日

稼働率 94.7%

### <平成19年度 病棟の概要>

H19年度は殆ど毎日満床に近い程、在院患者数が多く入院病床を確保するのに難儀したという印象がある。それに反して看護師の退職や病休数も多く慢性的な人手不足が続き、更に毎月の人事異動もあり勤務変更せざるをえない苦しい勤務状況が続いた。

また、H18年度から始まった市立大森病院との人事交流では、当病棟から1名大森病院に出向き、代わりに当病棟には大森病院から1名の看護師がきて、7月～8月まで2ヶ月間の研修を行った。

当病棟入院患者の高齢化も年々進み、80～90歳台まで超高齢者が多く施設入所者や寝たきり・要介護者が60%以上を占める。また高齢に伴い、抵抗力の低下による発熱などをくり返し発症するため再入院者も多く、一旦退院が決まっても更に延期するケースが少なくない。日々MSWやケアマネとの連絡・連携に努めているが、在院日数が多いことで病院全体の足を引っ張る要因となったことは、病棟最大の問題であり今後の課題でもある。

### <平成19年度 病棟目標>

1. チームカンファレンスの充実を図り、看護計画に反映させる
  - ① 勤務者に伝えたいことは、できるだけ記録に入力する
  - ② 申し送りの短縮・改善
2. 受持ち部屋の患者様に業務開始時・終了時必ず挨拶をする
3. マニュアルに従った確認作業を行い、確認ミスによる医療事故をおこさない
4. 電子カルテに向けて、支援メンバーを中心に業務整理を行う

<目標の反省>

1. 業務前の情報収集は個々なされてきているが、申し送る側はもう少しポイントを絞って送る必要がある。来年度からは患者全員でなく、異常のあった患者のみ伝達するよう改善したい。カンファレンスについては、日々行うよう努力しているが、業務に流されることも多い。各チーム1～2名程度でも意識して続けていけるよう努力したい。
2. 日々の朝の挨拶は殆どできてきたが、終了時の挨拶は業務が立てこむため、やはり難しいと思われた。
3. 朝は業務が繁雑な中で確認しているが、複数の眼で確認したにもかかわらず思い込みによる間違いがあった。医療事故は1件もなかった。
4. 電子カルテ導入には特に問題なく、スムーズに移行できた。しかし、業務整理はまだ殆どできず、今後の大きな課題である。

<構成スタッフ> (H19年4月1日現在)

師 長：藤井 洋子

主 任：小田嶋恵美子

看 護 師：菊谷ゆかり	山石 陽子	小松 則子	佐々木康子	小田嶋ゆう子
真壁美保子	末次エリカ	黒沢真知子	佐々木美紀子	伊藤 優子
菊地麻由子	小原 麻美	鈴木 利恵	佐藤千夏子	照井かおる
高橋 華澄	煙山由紀子	高橋 大樹	鳥山十亜良	渡部 香織
高橋まゆみ	小田嶋勝子	高橋 広美	佐藤加代子	高橋 智佳
横井 道子				26名

病棟事務：伊藤 尚子 1名

看護補助：高橋美代子	下夕村早苗	高村 真理	池田 律子	佐々木優子
高橋 栄子				6名

退 職 者：高橋 広美 (H19. 5. 7付)

<文責 藤井洋子>

## 外来部門

### 1. 外来スタッフ数（平成19年4月1日現在） 総勢 39名

看護師長 佐藤セツ子（ベットコントロール兼務）

看護主任 和賀美由紀（救急センター兼務）

内科外来 合計20名	看護師 12名 高橋 正子 藤島 美晴 赤平 綾子 生出 春美 谷藤 文子 佐藤 奈央 渡部しげ子 伊藤 友子 伊藤 誠子 小田嶋裕子 渋谷 美紀 小沼 時子 事務（受付）3名 堀川 恵 染川 友里 佐々木美香 事務（診察介助）3名 新山千世子 高橋 朋子 金子 陽 看護補助 2名 佐藤 春子 佐藤美江子
外科外来 合計2名	看護師 1名 丹 厚子 事務（受付）1名 佐藤 昌子
整形外科外来 合計3名	看護師 2名 小野ゆう子 田中 京子 事務（受付）1名 藤原真喜子
小児科外来 合計3名	看護師 2名 佐藤 幸子 石田亜希子 事務（受付）1名 福田富美子
放射線科 合計2名	看護師 1名 高階 利子 看護助手 1名 佐藤富美江
泌尿器科外来 合計2名	看護師 2名 藤坂マリ子 得平やす子
内視鏡室 合計4名	看護師 2名 加藤真由美 高橋 純子 看護補助 1名 高橋トヨ子 内視鏡技師 1名 高橋 泉
婦人科外来 合計1名	看護師 1名 佐藤 志穂

中途採用	6月	内視鏡	業務員	平塚 二美
	9月	事務（受付）		小松 陽子
		内視鏡	看護師	松井 久子
	11月	内科	看護師	森下 麻美

中途退職	7月末	内視鏡	高橋 泉
	8月末	内科	佐々木美香

## 2. 平成19年度の出来事

(平成19年)

- 4月
  - ・電子カルテシステム導入に向けて医療情報管理室活動開始それに伴い外来も準備に入る。
  - ・整形外来の常勤医師が1名となり、大学より予約外の診察（月・水・金）の応援が始まる。火・金のみ予約となる。
  - ・時間外や整形医師不在時の外傷患者対応は外科外来に依頼する。
  - ・外来スタッフ不足時は関連病棟から応援が来る
- 6月
  - ・「患者様の忘れ物」については3ヶ月で処分と決め、医事課に管理を依頼
  - ・斉藤医師 呼吸器科→アレルギー・呼吸器科に変更
- 8月
  - ・造影剤の副作用報告がパソコン入力になる。
- 9月
  - ・消化器科医師2名増員（奥山医師・小田嶋医師）
  - ・9/20, 9/21外来、9/24救急外来の電子カルテシュミレーション
- 10月
  - ・電子カルテシステム開始。
  - ・内科第8診察室が増室（特殊外来で使用）
  - ・二次健診の担当医師をきめる。
- 11月
  - ・妊婦保健指導（助産師による）開始。外来に指導室を設置
  - ・ストーマ外来（泌尿器科）開始  
第2・4水曜日 14時から16時まで
  - ・整形外来の受付時間締め切りを10時30分とする。
  - ・経鼻内視鏡の予約開始
  - ・紙カルテを完全に出さないための外来シュミレーション（11/28・29）
- 12月
  - ・紙カルテを診察室には出さず、完全電子カルテ化に突入。

(平成20年)

- 1月
  - ・1/28 外来器械の一次洗浄開始
- 2月
  - ・外来受付青チューリップを使用で統一する
  - ・2/25 新型インフルエンザのシュミレーション（保健所スタッフと一緒に）
- 3月
  - ・救急外来でドクターグリーンの実演練習

## 3. 部署目標・反省

(平成19年度目標)

1. 個々がマニュアルに従いよりよい接遇を目指す
2. 患者確認を徹底して行う  
患者間違い、点滴・注射間違いをしない
3. 外来において電子カルテがスムーズに導入できるように全員で分担を決め取り組む  
(評価)

1について…外来常によい接遇に心がけ一年間特に大きなトラブルもなくよかった。

2について…受付票での本人確認が徹底され患者様へもうまく浸透し患者様間違いは激減した。

3について…電子カルテはスムーズに導入でき、大きなトラブルもなく各科の業務が統一された。

#### 4. 1年間のまとめ

一番大きな出来事は「電子カルテ導入」である。10月からの導入に向けて4月から準備を始め、毎週、各外来の代表者が集まり話し合いを行った。そのおかげで、導入は比較的スムーズにおこなわれた。この一環として取り組んだ受付票での患者確認は外来全体に浸透し患者間違いもなくなった。

次に挙げるとすれば、整形の常勤医師が一名になったことである。大学からの応援が週3回になったが、予約がなかなか取れないと患者様からの苦情も多くその対応に追われていた。他科との併診をしていた患者様も多く大変ご不便をおかけしていると思われる。

消化器科には医師が2名増員となり紹介患者様も多く、特に湯沢・雄勝地区からの紹介がふえた。内視鏡も充実し、ESDの増加や経鼻内視鏡も本格的にはじまり大変好評である。透視下の内視鏡治療も増えている。

年々、外来の化学療法も増えてきているのに加えリスクも高くなっている。外来化学療法施行マニュアルを作り、薬剤科との連携を密にし、手順を統一することにより特に事故はおきなかった。

外来病棟一元化になり2年経過したが、相変わらず外来は人員不足である。しかし、関連病棟からの応援体制が定着してきている。これからもますます、外来病棟間のしきりがなくなり、忙しい時間・場所に人員をうまく配置できるようにしていきたい。

<文責 佐藤セツ子>

## 手術室、中央材料室、洗濯室

### 1、スタッフ（H19年4月1日現在）

師 長	高本 和子			
主 任	石橋由紀子			
看護師	佐藤 鋼子	岩村 久子	赤沼ゆかり	小田嶋ひとみ
	小松ルリ子	柿崎千恵子	永須 直美	大日向 希
補 助	(中央材料室)	糯田 優子	新森いく子	佐藤多重子
	(洗濯室)	針金 久子		

異 動	石橋由紀子	(7月 内科外来へ)
	佐藤 昌悦	(7月 透析室より)
	佐藤多重子	(10月 3Aへ)
採 用	高橋久美子	(業務員10月～)

### 2、手術ベット数；4台

### 3、看護方式；科別チーム制

### 4、手術件数

外 科	374件 (- 51)			
整形外科	182件 (-180)			
婦 人 科	143件 (- 41)			
泌尿器科	161件 (+ 47)			
合 計	860件 (-225)	全身麻酔件数	426件 (-90)	
		緊急手術	68件	

### 5、手術室目標

- 1、責任を持って継続した看護を行うための、看護体制を確立する。
  - ①術前・術後訪問の充実を図り、カンファレンスによる情報の共有に努める。
- 2、個人を尊重した接遇ができるよう努める。
  - ①笑顔で接し、手術に対する不安の軽減を図る。
- 3、確認を徹底し、医療事故を未然に防ぐ努力をする。
  - ①手術中の指示は復唱し、声だし確認を行う。
- 4、電子カルテ導入に向け、スムーズに実施・運用が行われるよう基盤をつくる。
  - ①手術室の電子カルテ導入に向けた情報を共有する。
  - ②業務改善を実施し、電子カルテを導入する。

**【前期評価】**

- 1、・可能な限り術前訪問を行い、カンファレンスに反映されている。  
・術後訪問は必要時だけに留まった。
- 2、接遇に努め、手術に対する不安の軽減が図られた。
- 3、声だし確認・ダブルチェックの実施により、事故防止が出来た。
- 4、導入に向け、施設見学や大学病院の情報を得、各麻酔のクリティカルパスの作成及び褥瘡評価も取り入れ、実施できている。

**【後期評価】**

- 1、全例に訪問できなかったが、電子カルテから情報を得るなど、今までにない利点もあり、今後も可能な限り実施してゆきたい。
- 2、入室時にマスクをはずし、自己紹介とリストバンドで患者確認を実施した。  
終始 緊張と不安の軽減に努めることが出来た。
- 3、電子カルテ導入後テンプレートの麻酔科指示書を活用し、薬剤・備品の準備がスムーズで、大きな事故はなかった。
- 4、各科手術の申し込みから実施後入力の流れが完成し、順調に運用されている。

**6、一年間のまとめ**

H19年6月～ラビング法手指消毒（+爪ブラシ）導入

H19年10月～電子カルテ導入に伴い、各麻酔のクリティカルパス導入

H20年1月～外来・透析室の一次洗浄開始（病棟；H17年11月～）

主に、手指消毒・SSI対策の業務改善、一次洗浄の拡大により、感染管理に貢献できました。また、電子カルテ導入に伴う準備・実施・是正の一年でした。

これにより現在実施している術前訪問や周術期看護をクリティカルパスの形で、保存可能となりました。更に褥創対策などの業務改善にも繋がり、病棟との連携を果たしています。

手術件数は減少しましたが、院外の麻酔医の来院が週3日と増えた為、勤務スケジュールに厳しい状況でしたが、緊急手術にも迅速に対応し、医療事故のない一年でした。

<文責 高本和子>

## 透 析 室

<構成スタッフ> (外来・病棟一元化により 3B病棟より出向)

主任 和泉奈保子

看護師 小田嶋明子 小川 伸 中村勇美子

佐々木美紀子 小田嶋千枝子 佐々木智美

<特徴>

慢性腎不全に陥り、透析療法によってしか生きられない患者様や、その家族の不安・苦痛を正しく理解し、精神的自立への援助・生活環境・社会復帰に対する理解を深める目的として、看護を提供する部門である。

勤務体制は 月・水・金 3クール（夜間透析）火・木・土 2クールで行っている。

<目標>

1. カンファレンスの充実を図り、一貫した看護を提供する。
2. 患者背景を考慮した接遇に心がけ、信頼関係の構築。
3. 指差し確認、お互いの声掛け、トリプルチェックの徹底。
4. 透析室での電子カルテ導入に向けた情報の共有と記録物の整理。

<反省>

1. 継続して患者様個々のカンファレンスの充実に努める事ができた。
2. 患者様とのコミュニケーションをはかり、得た情報を皆で共有し、対応することができた。
3. 個々が医療事故防止の姿勢で取り組み、大きな事故にはつながらなかった。
4. 電子カルテ導入後は大きな入力作業の変化はなかったが、業務改善になった。

<1年間のまとめ>

人工透析室では、維持透析の他、状況に応じて依頼透析・緊急透析に対応している。(H19年 延べ人数 6151人)

人事異動もあり、スタッフ全員が同レベルの知識・技術ではないが、勉強会・カンファレンスを通し、個々のレベルUPを図っている。

院外処方へと切り替えた7月は、患者様のとまどいもあつたが、現在は浸透してきている。11月からは鉗子の中央化となり、業務改善することができた。

「安心できる良質な医療の提供」に基づき、常に医療事故防止に努め、外来維持透析に取り組むことができた。今後も継続していきたい。

<文責 和泉奈保子>

## 訪問看護センター

### <機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。

実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在訪問の対象者は、終末期患者、中心静脈栄養、胃瘻、尿管カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方が増えてきている。

昨年度の診療報酬と介護保険の改正以降、在宅療養の患者様が増え、訪問看護利用者数も増加傾向にある。さらに利用者の高齢化や介護者の高齢化も目立ってきていて、在宅医療、看護のニーズは高まりつつある。

昨年度、介護保険サービス提供事業所の情報公表（ネット上）が義務付けられ、今年もその調査が12月にあった。今回2度目ということもあり調査は順調に終了した。昨年度課題としていた箇所の改善やサービス内容の充実も図り、情報公表調査の効果が見えてきている。

また院内の電子カルテの導入に伴い、紙ベースでの訪問記録の見直しや、パソコン上の文書管理を用いての情報の共有など業務改善が行なわれた。

### <平成19年4月1日現在のスタッフ>

高橋 礼子    鈴木真紀子    菅原奈緒子    金 美穂子    加藤 亜樹    三浦 君子

### <異動>

4月

看護師    金 美穂子    採用（嘱託）

8月

看護師    池田 知美    採用（嘱託）\* 8月～10月はパート

9月

看護師    加藤 亜樹（パート）    健康管理センターへ

10月

看護副主任    佐々木康子    4Fより

看護師    鈴木真紀子    4Fへ

看護師    金美 穂子（嘱託）    退職

### <平成19年度目標>

目標

1. チームとして、継続看護を行なう。
2. 他事業所との連携、連絡を密にする。
3. 医療・交通事故防止に努める。

4. 訪問看護ステーション化及び電子カルテ導入に伴う訪問看護記録の見直しと整理。

中長期目標

1. 病棟カンファレンスへの参加。(月1回、2病棟と4病棟)
2. 部署内のカンファレンスの充実。

<反省>

- ・ カンファレンスの充実、情報交換ノートの利用などで情報を共有し継続看護ができた。
- ・ 他事業所との連携・連絡を密にし、利用者様のニーズに合ったサービスの提供ができた。
- ・ 医療事故・交通事故なく過ごせた。
- ・ ステーション化の動きが具体化していないため、業務内容は現状のままだった。
- ・ 電子カルテ導入となったが、訪問看護の分野は紙ベースのままとなった。いままでの記録用紙の見直しを図ると共に、看護計画などはパソコン上の文書管理に組み入れ、情報の共有化に努めている。

<平成19年度訪問看護件数>

訪問看護総件数	2129件
訪問診察総件数	699件
臨時訪問件数	135件
総人数	113件
新規対象者数	42件
退院者数	89件
入院患者数	114件
全死亡者数	29件 (自宅にて10件、病院にて19件)

<文責 高橋礼子>

## ME室

### 【体制】

〈室長〉 吉岡 浩  
〈スタッフ〉 川越 弦 柏谷 肇

### 【平成18年度の反省】

「院内における医療安全対策、事故防止対策への積極的な取り組み」

今年度よりリスクマネジメント委員会に参加し、医療機器の取り扱いにおけるインシデントについて、その対策に関わることができた。また、安全対策として、特に輸液ポンプや人工呼吸器におけるトラブル対処などの学習会も深い内容で開催することができた。理解度や反応は今ひとつだったように思われるが、より良い内容を検討しつつ継続していきたい。

### 【平成19年度の目標】

「医療機器安全管理室設置に伴う業務改善への取り組み」

厚生労働省通知による医療機器安全管理室の設置により、保守管理を必要とする機器の範囲が大幅に広がった。この中で、重要な機器から点検内容、計画を見直す。また、安全対策としての学習・研修会の計画もより確実に行えるよう模索し、実施していきたい。

### 【平成19年度の主な業務内容】

医療機器安全管理室 手術室関連機器管理 透析室機器管理  
各種院内機器管理（中央管理室含む） 人工呼吸管理（在宅含む）  
各種血液浄化 腹水処理 心臓カテーテル検査 ペースメーカー管理（在宅含む）  
内視鏡業務（健診） 教育啓蒙活動（研修会・院内報の発行など）

### 【委員会】

医療機器安全管理室 防災対策委員会 救急センター運営委員会  
医療ガス安全管理委員会 リスクマネージャー委員会 診療材料検討委員会  
手術室運営委員会 病院増改築検討会

【機器の異動】

新規・更新	メーカー	モデル	備考
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000101
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000102
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000106
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000107
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000115
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000117
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000129
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	0609000134
カメラコントロールユニット	KSオリンパス	OTV-S7Pro	
内視鏡光源	KSオリンパス	CLV-40Pro	
高周波焼灼電源装置	KSオリンパス	UES-40S	7710586
熱希釈心拍出量計	バクスター	Vigilance	

廃棄	メーカー	モデル	備考
シリンジポンプ	トップ	5200	6K40752
シリンジポンプ	トップ	5200	6K50903
人工呼吸器	ネルコア	7200a	9041988
自動血圧計	コーリン	BP-103N	22618E
パルスオキシメータ	フクダ電子	Micro2 Plus	5540529767
患者保温装置	浜医科	HWM-1	
電気焼灼装置	KSオリンパス	UES-10	
ベットサイドモニター	日本光電	BSM-8502	
自動血圧計	コーリン	BP-8800	
パルスオキシメータ	フクダ電子	Micro2	
パルスオキシメータ	フクダ電子	Micro2	
超音波メス	住友	スミソニック	
心電計	日本光電	ECG-8370	
パルスオキシメータ	フクダ電子	513	139-6302

## 【各施行件数】

	症例数	備考
CHDF	4	
PMX	1	
その他の血液浄化	1	
人工呼吸	20	(在宅人工呼吸 1名)
NIPPV	6	
腹水処理	12	
心カテ	15	
ペースメーカー植込み	13	新規 8件 交換 5件
ペースメーカー外来	126	在宅訪問件数 4件

NIPPV 施行時は、「NIP ネーザルⅢ」を、在宅用人工呼吸器は「LTV-950」をリース契約している。

## 【故障・修理対応】

	総数	定期	修理・他	備考
輸液ポンプ	84	44	19	
シリンジポンプ	51	33	18	
人工呼吸器	24	22	2	
透析室機器	48	27	21	水質検査含む
除細動器	14	14	0	
その他の機器	65			

修理伝票がなく、記録として残っていない点検修理も実は多くある。

## 【ME報】

平成15年から発行を始めた院内報も、5年目を迎えた。以前は月1回のペースで刊行していたが、他の業務が煩雑となったため定期刊行が難しい。また、内容としては特集よりも諸連絡の方が多くなったのは業務内容が変化しているためと思える。

- 4月5日 Vol. 52 「CVPを測定するとき・・・他」
- 4月25日 Vol. 53 「新規導入シリンジポンプ TE-331について・・・他」
- 6月20日 Vol. 54 「先日の話題から・・・」
- 8月15日 Vol. 55 「人工呼吸器のチェックリストについて・・・他」
- 8月15日 Vol. 56 「除細動器のバッテリー切り替え動作不良について」
- 9月12日 Vol. 57 「低圧持続吸引器の秘密」
- 9月18日 Vol. 58 「心電計回収のお知らせ」
- 10月24日 Vol. 59 「新規採用の血圧モニタリングキットについて」
- 12月27日 Vol. 60 「病院電気設備のはなし・・・他」
- 2月26日 Vol. 61 「薬剤と輸液セット・・・他」

3月24日 Vol. 62 「輸液セットの滴数変更について」

【院内研修の実施】

4月3日	新採用者オリエンテーション「医療機器の取り扱いについて」
4月23日	新規購入内視鏡手術装置の取り扱いについて（手術室対象）
6月8日	新人対象輸液ポンプ講習
7月18日	NIPPV導入における講習会（訪問看護センター対象）
7月23日	人工呼吸器安全研修「警報の見方、考え方」
8月7日	同上
2月5日	人工呼吸器安全研修「気管内挿管と人工呼吸器準備・接続、他」
2月8日	同上

【学会・研修会】

4月21日	秋田アフェレシス研究会（川越）
5月31日	テルモ輸液ポンプメンテナンス講習会（柏谷）
10月20日	県南CEセミナー「医療機器の安全管理について」（川越・柏谷）
11月17～18日	医療機器安全管理者育成のための講習会（川越）
12月4日	サーボベンチレータ「プリベンティブメンテナンス講習会」（柏谷）
12月8日	テルモシリンジポンプ「メンテナンス講習会」（川越）
2月16日	宮城県技師会主催第1回ペースメーカー講習会（柏谷）

【平成19年度の総括】

厚労省の通達により医療機器安全管理室の設置が義務付けられた。医療安全を考える上で、また臨床工学技士の確立といった点では多めに歓迎すべきだが、具体的な指針がないという無責任な方策により、他の多くの施設で困惑していると聞く。それはさておき、当院においても同室が設置され、MEスタッフもその一員として重要な役割を担うこととなった。今後は管理される機器も増えるため、それに伴う時間や保守費用などが増大する事になる。院内全般を通して言えることだが、機器の購入や保守の内容については十分な検討が必要であると考えます。

今年度も安全対策上、機器の点検を重要視した業務を行っている。委員会活動、研究・学習会への参加および開催、臨床技術提供と更に業務が煩雑化している折、医療機器安全管理室の業務が非常に重要となってきた。また院内増改築にも携わることとなり、現在の体制ではさすがに厳しい。今後の医療安全と病院増改築を考慮したスタッフの増員を切に望むものである。

<文責 川越 弦>

## 臨床検査科

スタッフ	佐藤恵美子	(技師長)
	平塚多喜雄	(室長)
	小丹まゆみ	(室長)
	佐々木絹子	(室長)
	工藤真希子	(主任)
	長瀬 智子	(主任)
	佐々木美奈子	(主任)
	大嶋 聡子	(副主任)
	高橋 隆子	(主席検査助手)
	加賀谷美智子	(検査技師・嘱託)
	和賀 幸子	(検査技師・嘱託)
	田中 清美	(検査技師・嘱託 平成18年8月1日より)
	谷川真依子	(検査技師・嘱託 平成19年5月22日より)
	松井富美子	(検査科業務員・パート)

### 概要

病院組織図変更により臨床検査科は臨床病理室・生理検査室・検体検査室の3部門になった。

### 臨床病理室

昨年度まで外注先への引き渡し時の確認と、報告書の管理および標本管理の窓口業務であったが、今年度より病理診断医への補助業務が加わった。病理医が行う病理標本切り出しは当院ではこれまで経験のない業務である。設備設定の他に介助業務の技術習得、および人員確保、年度開始は組織が変わることの大変さを難儀して学んだ。

病理診断＝最終決定診断に関わることであり実務的には、日常業務への緊張感を改めたもの、病理医のスケジュールに合わせての業務には慣れるまで苦労した。

### 生理検査室において

職場検診には聴力検査が必須であり今年度より心電図と聴力、2名で生理検査を行う事となり、毎日の待機当番者を含め、担当者のスケジュール調整が厳しいながら頑張った。

また、新生児聴力検査が義務付けされた。誕生日が不確定なため診療科および病棟のご協力を得て検査日を調整しながら実施している。

### 検体検査室において

10月からの電子カルテへの対応として、数値以外の検査結果（グラフ・写真等）も結果参照画面で参照可能とした。同時に、紙報告書の提出について、外来は従来通りながら病棟へは廃止とした。

<文責 佐藤恵美子>

特記事項

**脳波計 EEG-1514 を導入して**

平成19年5月、脳波計 EEG-1514 が導入された。

今までの脳波計との決定的な違いは、脳波波形を全てデジタルファイリングすることができるようになったことである。これによって、記録した結果波形は全て、検索、再生することが可能となった。まだ、諸々の事情により、ペーパーレスは実現していないが、将来的には、検査結果はDVDで管理し、ペーパーレスにしたい。

また、患者様の検査時の調光も、赤外線監視カメラの導入により、好みに合うように調節できるようになった。個々の好みにあった明るさで検査環境も整備されたと思われる。

以上により、より快適に脳波検査を受けていただく事ができるようになり、結果も効率化することが可能となったので、検査数を増加していただくようお願いしたい。

**呼吸機能検査システム CHESTAC-7800 を導入して**

平成19年5月呼吸機能検査システム CHESTAC-7800 が導入された。

それにより電子カルテ化に先がけてオンライン化し、ペーパーレスを実現することができた。今まで煩雑な作業であった患者様の氏名、年齢、身長、体重などの情報がすべて自動入力され、入力ミスもなくなった。検査結果も、送信作業のみでオーダーリングシステムの所見歴から検索、表示することができるようになった。フローボリューム曲線、換気分類のグラフや表も、同時に表示することができるようになった。また、検査結果の紛失による再発行等の手間が皆無となった。

以上のことより、業務の効率化、検査時間の短縮に大きな効果があった。

しかし、健診受診者における身長、体重はいまだに手入力となっており、システムの改良を望むところである。

<文責 小丹まゆみ>

## 平成19年度検査実績

## 生理検査

心電図	11,094	スパイロ	1,747	腹部エコー	1,311
マスター (S)	3	聴力	5,520	心エコー	1,960
マスター (W)	249	眼底写真	1,443	甲状腺エコー	197
マスター (T)	20	脳波	119	頸動脈エコー	393
ホルター	419	AABR	161	指尖脈波	3
心電血圧 (24h)	4	MCV	81	血圧脈波	217
トレッドミル	31	心カテーテル検査	10		

## 検体検査

尿一般	34,220	血液一般	64,918	蛋白分画	3,887
尿沈査	10,784	血糖	25,673	凝固線溶	7,915
便潜血	4,128	HbA1c	12,594	甲状腺	4,264
インフルエンザ	2,735	感染症	17,454	腫瘍マーカー	7,381
生化学	623,595	赤沈	2,303	血ガス	2,333
電解質	104,229	ホルモン関連	153	乳幼児関連	2,308
血液型	1,319	不規則抗体	611	交差試験	374
一般細菌培養	2,910	結核菌	488		
その他 (生化学)	631	その他 (血清・血液)	1,414	その他 (尿)	8,438
総件数	741,913	外注	24,263	外注率	3.27%

## 病理検査

病理	2,111	細胞診	662	婦人科細胞診	3,110
----	-------	-----	-----	--------	-------

## 食養科

平成19年度を振り返ると実に様々な事がありました。

院内においてはIT化一色の感があり、電子カルテ導入（の成功）に向け、全職員一丸となって取り組んだ年でした。

また現場サイドにおいては、産休をはじめ寿退職・定年退職と相次ぐ退職者で、新旧入れ替わりの激しい一年となりました。

また我々管理栄養士にとっては、平成20年4月から展開される「特定健診・特定保健指導」に備え、数多くの研修会に足を運び、粉骨砕身勉強に励んだ年でした。

「特定健診・特定保健指導」が従来の栄養指導と異なる点は、結果の評価が優先されるという事、そして更に行動変容への足掛かりを作らねばならないという事で、この難題に苦悩しました。行動変容を起こさせるには、対象者の生き方に対する価値観にまで入り込んでいく事になり、また対象者との間には深い信頼関係が築かれていなければならないという事で、まさに今回の学習内容は人間性を高めるための研修でした。

なお今後、我々管理栄養士は、医療職種として患者さん主体の栄養管理を実践していかねばならないものと思われまます。

一層努力して参りたいと思います。

### 食養科スタッフ

(平成19年4月1日現在)

技師長	原田 優子
主任	川越 真美
主席調理技能士	天羽 勝義
主任	小松 信宏
嘱託事務員	幕沢 美紀、藤原 由香
嘱託調理員	本間イネ子、松井世津子、佐藤 美枝、石川 勝美、百合川賀子 大坂美津代、佐藤 殉子、進藤いつ子、東谷 敏子 高橋 麗 (平成19年5月～9月まで産休) 藤谷テル子 (平成19年10月退職) 高橋由香利 (平成19年8月退職) 東海林キヨ (平成19年10月退職)
パート食器洗浄員	柴田 文子、田中 澄子、柿崎カヨ子 (平成20年3月退職)

## 院外活動

平成19年11月23日

A B S秋田放送「みんなの健康」に出演

テーマ「糖尿病と上手な外食利用について」 原田 優子

平成19年10月5日

福祉環境部健康の駅にて

**生活習慣改善教室**

健康講話「栄養バランスについて」 原田 優子

平成19年10月9日・16日・19日

福祉環境部健康の駅にて

**生活習慣病教室**

個別栄養指導 原田 優子

## 教育実習受け入れ状況

平成19年7月30日～8月4日

秋田栄養短期大学 伊藤麻衣子

高橋奈緒美

## 平成19年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	3694	4810	4835	13339	779	552	583	628
5月	3636	5186	4701	13523	757	577	671	660
6月	4265	4674	5195	14134	807	576	702	684
7月	3334	3543	4678	11555	766	578	616	649
8月	4095	4365	5081	13541	735	571	655	653
9月	4709	5151	4218	14078	696	561	639	633
10月	4122	5144	4509	13775	726	523	643	626
11月	4787	4697	4176	13660	788	716	579	699
12月	4751	4692	4644	14087	858	661	581	701
1月	4463	4890	5333	14686	801	597	501	624
2月	4260	4313	5362	13935	898	661	543	688
3月	4317	5508	5867	15692	775	613	537	629
合計	50433	56973	58599	16600	9386	7186	7250	7874
平均	4203	4748	4883	13834	782	599	604	656

平成19年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来													
	肥満症			1			1				2		2
	糖尿病	5	5	2	6	5	9	3	7	2	2	3	3
	高脂血症		1	1	2	8	2	3	2	5		1	
	慢性腎不全	1	1	2	1	1	1				2	2	
	妊娠中毒症			1								1	
	高尿酸血症					1			1		1		
入院													
	MOP		1	4	2	10	1	3	2	4	2	3	7
	糖尿病	13	10	7	7	13	6	7	8	7	3	8	4
	高脂血症												
	慢性腎不全	1	1			2	1					1	1
	クローン病			1									
	高血圧			1		1			1				
	肝硬変						1	1					
集団													
	糖尿病	10	4	8	10	15	8	7	8	7	1	2	11
	合計人数	30	23	28	28	56	30	24	29	25	13	21	28

<文責 原田優子>

## 健康管理センター

対前年比では受診者数で5.08%増（463名）、請求額で6.09%増（7,125千円）となりました。受診者は9,574名であり、1万人の大台にあと一步という水準までとなりました。市職員健診では早朝健診を実施し、日中の一般健診への影響を少なくするなど、院内の関係部署のご協力のもとにこの実績となったもので感謝いたします。20年度からは特定健康診査・保健指導が実施されるため、その準備が年度後半から始まりました。引き続き、当院の基本方針のひとつである「地域医療・保健に貢献します。」の実現に努めるとともに健全な病院経営に資するように頑張っていきます。

### スタッフ

所長	長山正四郎	(兼務)
副所長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師	鈴木久美子	
保健師	岡部 沙織	(平成19年12月まで)
看護師	加藤 亜樹	(平成19年9月よりパート)
看護師	山田 精子	(平成19年4月より7月までパート)
主査	高橋 功	(兼務 平成20年1月より)
総括業務員	新森百合子	
事務員	菊地 智子	
事務員	藤倉 美穂	
事務員	佐々木良子	(平成19年4月から8月までパート)
事務員	正木美加子	(平成19年4月から7月までパート)
事務員	小松 陽子	(平成19年4月から7月までパート)

### 平成19年度目標

1. 医療事故防止に努める
2. 保健指導の充実
3. 業務の見直し改善に努める
4. 特定健診・特定保健への対応準備

### 評 価

1. 保健師による指導を頑張りました。平成20年度の特定健診に向けて更なる保健指導の強化が必要です。
2. システム改善は多少なりとも改善されていると考えます。まだまだ改善の余地が多々あります。職員配置等も含め業務の改善見直しが必要です。  
二次検診の予約窓口も担当になり二次検診の継続フォローが充実してきました。  
保険診療部門でも頑張っていきたいと考えます。

<文責 新森百合子>

## 事務局

全国の自治体病院の平成18年度決算によると、赤字事業数の割合が78.9%（前年度比10.2ポイント増）となり、病院経営はいよいよ厳しさを増しています。総務省は、平成19年12月24日に「公立病院改革ガイドライン」を通知し、①経営の効率化、②再編・ネットワーク化、③経営形態の見直しの観点から平成20年度中に「公立病院改革プラン」を策定するよう求めています。

このような中で、当院では4月診療分から電子レセプト請求に移行し、6月からはDPC準備病院としてデータの提供を始め、10月からは電子カルテを本格稼働させました。また、新たな病院像の実現に向け「市民のための優しい病院づくり」のために増改築事業の設計に着手しました。

平成19年度の当院の収支状況は大変厳しい結果となりましたが、患者さん中心の安全な医療の提供に努め、地域の皆様から信頼される病院を目指して努力してまいりました。平成19年度の運営状況を分析し、今後の健全な病院経営に努めてまいります。

<文責 佐藤正弘>

## 総務課

### 総務係

スタッフ 高橋 功（係長）、大友真由子、水上 彰、後藤美佐子、高橋美保子（～9.30）、佐藤ひろみ（10.1～）、中田千絵、津川明子、佐々木哲也（～12.10）、佐藤清美、三浦和也（12.10～）

### 人事給与等の管理

支払、会計処理、予算・決算処理、起債の管理、人事

電話交換業務

公用車・救急車の運転、維持管理

文書收受・発送・保管業務

選挙事務（院内入院患者の不在者投票）

互助会会計事務

### 医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

医局関連の庶務を担当

医師スケジュールの管理【学会、出張（ホテル・乗車券・航空券の手配など）、年休など】

医局図書室、医師当直室、産泊室の管理

医局費、旅行積立金収支報告処理

医師給与に関する書類の作成

医局行事のセッティング

**事務当直**

スタッフ 佐々木悟、茂木伸悦、青池満雄、小田島定男

夜間の救急患者の受付・カルテ出し、電話取次ぎ、早朝の診察券受付

**夜間警備**

スタッフ 照井祐一、熊谷衛(～6.30)、鈴木清治、石川信雄、福田藤太郎、堀江努(7.1～)

夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等

<文責 岩根育子>

**管財係**

課長補佐・薬品担当 阿部光子

物品担当 菅原祐司、阿部千鶴子、照井真澄

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 森谷 茂、杉田健一、高橋幸志、横井繁幸、堀江敦司、山中慎太郎

駐車場 珍田 健、畠山宥一郎、黒沢秀利、佐々木政雄

佐藤茂次郎、小山三郎(～4月)

**\* 薬品担当**

今年度の薬品見積は7月から交渉をはじめ、9月に妥結しました。当院の希望する値引き率には少しおよびませんでした。全体的に納得のできる価格に落ち着いたと思います。差益額は昨年度より約1760万円増となりました。

昨今、厚生労働省からの通達で早期妥結が求められておりますが、卸業者との話し合いをしながら、来年度も出来るだけ早い時期に交渉を行いたいと思います。

<文責 阿部光子>

**\* 物品担当**

資材管理(物品管理)にあたっては平成10年度よりSPDシステムを導入し、物品の一元管理に向けた取り組みをしてきました。現在も過剰・不良在庫の削減、購入コストの削減はもとより、院内スタッフのニーズを反映し、より良い医療を提供することを目標に日々努力しているところです。

主な取り組み内容としては、市場調査の徹底化による購入コストの見直し、週6回の払出し(一部外来を除く)と適正在庫の見直しなどによる物品の安定供給、SPDシステムの改良などがありました。(※週6回の払出しは同規模の病院では他に実施していない。)定数管理すべき材料は適正に管理され(年1～2回見直しを実施)、それ以外の使用頻度の低い材料については臨時請求されるといった、商品の重点別管理を行う理想的な物品管理法を徹底して、きめ細やかな物品の管理体制を実施してきました。臨時請求の物品については誤発注、確認に要するロスタイ

ムを軽減すべく物品の請求シールの活用を拡大させました。

また、医事請求漏れ防止対策としてはこれまで同様保険シールを活用して各現場にて特材を使用した際にわかりやすく正確に実施入力を行えるように全ての保険シールに医事入力コードを印字して請求漏れの対策を行っています。高額なペースメーカー、カテーテル、整形外科のインプラントに関しては納入業者から使用報告書をもらい、使用材料の内容確認をした上で使用部署、医事請求担当者へ資料及び保険シールを作成して請求漏れ防止に努めています。平成19年度実績では4,517,259円の差額の実績を得ています。

これからの物品管理業務には、これまで以上に広い知識と視野が必要になると思われます。今後も院内全体の業務の効率化・合理化を視野に入れた物品の導入によるトータルコストの削減などにより戦略的な物品管理をさらに目指して行きたいと考えています。

医療消耗品購入費比較表

	H18			H19		
	医療消耗	特材	一般	医療消耗	特材	一般
4月	26,919,942	12,888,049	14,031,893	19,695,197	7,858,318	11,836,879
5月	24,004,311	13,018,092	10,986,219	19,122,169	8,527,990	10,594,179
6月	23,703,955	10,542,033	13,161,922	18,179,476	6,351,877	11,827,599
7月	20,163,779	7,454,534	12,709,245	23,590,274	10,709,945	12,880,329
8月	23,504,242	11,032,936	12,471,306	29,462,909	15,206,637	14,256,272
9月	23,318,732	11,784,793	11,533,939	18,886,567	8,065,732	10,820,835
上期	141,614,961	66,720,437	74,894,524	128,936,592	56,720,499	72,216,093
10月	24,884,226	11,812,372	13,071,854	22,208,824	9,833,736	12,375,088
11月	23,022,723	11,672,417	11,350,306	21,952,881	9,191,817	12,761,064
12月	24,492,962	11,669,443	12,823,519	22,840,469	8,782,444	14,058,025
1月	21,043,316	12,155,977	8,887,339	19,299,547	11,139,775	8,159,772
2月	20,978,711	9,564,984	11,413,727	25,206,471	10,973,781	14,232,690
3月	18,757,498	7,783,695	10,973,803	18,663,879	7,439,055	11,224,824
下期	133,179,436	64,658,888	68,520,548	130,172,071	57,360,608	72,811,463
合計	274,794,397	131,379,325	143,415,072	259,108,663	114,081,107	145,027,556

<文責 菅原祐司>

**\* ボイラー担当**

昨年に続き原油価格高騰と鉄鋼類の値上げで19年度も厳しい年でした。18年度は暖冬の影響で穏やかな冬でしたが、今年度は夏の高温と冬の降雪量の増加により冷房、暖房の運転時間の増と、重油の単価は昨年度より平均10.5円上がり約500万円の経費増となりました。年々冷房、暖房の要請時期が早まり、時間の延長要請も多くなる傾向にあります。それにより電気料、給水量が増えました。薬品は貫流ボイラーの更新で減になりました。

夜間のトラブルや要請件数は昨年度より減少しました。警報関係、施設関係、ナース関係の減少は喜ばしいことです。

いままで負荷変動に対応できず、日中使用出来なかった貫流ボイラーの更新で炉筒ボイラーになり、湿り蒸気による滅菌器のトラブルや配管の腐食にあたえる影響が少なくなり、安定した蒸気の供給と交互運転ができ、炉筒ボイラーの寿命に良い影響をもたらすことと思います。東海ボイラーも5年後には更新を検討する時がきます。これからメーカー2社の運転状況、部品、修理等比較し更新時の参考にしたいと思います。

20年度は

- ・ 安全を第一に、緊張感を持って運転操作を行います。
- ・ ボイラーの共有できるものは一つにして経費削減に努めます。
- ・ ファンコイルと空調の組み合わせを再検討して省エネに努めます。

以上を目標に頑張ります。

<文責 森谷 茂>

## \* 施設担当

### 業務内容

- ・ 入札及び契約に関すること。
- ・ 施設の営繕、保全及び警備に関すること。
- ・ 建物・設備の建設及び管理保全に関すること。
- ・ 用地の取得・処分に関すること。
- ・ 施設の防災に関すること。
- ・ 危険物の管理に関すること。
- ・ 医師住宅に関すること。
- ・ 廃棄物に関すること。
- ・ 駐車場に関すること。
- ・ その他、施設・財産の事務に関すること。

### 19年度実施の主要業務について

#### ○入札及び契約

賃借契約件数 25件 委託契約 47件 工事請負契約 2件

#### ○防災訓練

年2回の防災訓練を計画し実施

①平成19年6月20日 火災訓練実施

②平成19年10月16日 火災訓練実施

今年度は、患者様の避難誘導訓練のほか、各部署の職員自らが救助袋から避難することを訓練しました。垂直型の救助袋のため、実際に体験すると怖かったようです。

#### ○施設設備の改修、保全管理等

① 院内各箇所の医療情報システム等の機器増設に伴い、システム動作環境を整備（電気、

LAN 配線、空調設備の整備)

- ② 蒸気ボイラーを更新
- ③ 冷房設備の増設等により職場環境の整備

○駐車場関連

退職により、年度途中でスタッフが2名減りましたが、昨年度から駐車場の整備が整い、少ない人数ながら協力しあい業務を遂行できました。

**最後に**

当院では病院の増改築を計画しており、その際には今後の病院機能評価のバージョンアップに対応できるような設備を構築する必要があると考えております。計画が本格的に動き出すと当係が担う役割が大きくなると思っております。安心できる良質な医療環境の整備に努め、より一層の知識の習得を心がけがんばっていきたいと思います。

<文責 伊藤建一>

## 医 事 課

ここ数年、医療保険制度が大きく変化する中で、度重なる診療報酬の引き下げで医療収益の確保が厳しい状況にあります。

平成19年10月からの電子カルテの導入により、患者情報の共有化、医療の効率化が図られておるところであります。

医事課にとっては診療部門の努力をいかに保険請求に反映させていくか、また、査定、返戻の減少は永遠のテーマでもあり、日々解決策を模索しております。

なお大変厳しい経営環境にあり、請求漏れ等のないよう「質の高い医療事務職員」を目指して努力してまいりたいと思います。

### ○ 平成19年4月1日現在のスタッフ

畷田 敏雄	浮嶋 優子	石山 博幸	木村 宏樹	百合川深里
村田 芳江	石塚 紫	伊藤 雅子	田澤 妙子	谷川香奈子
伊藤 雅子	山方 壮	佐々木有紀子	伊藤 春香	佐々木和貴子
照井希世子	菅原真由美	高橋 紀子	藤田ゆかり	伊藤喜美子
服部 幸子	佐々木美保	高橋真知子	藤原 明子	

### ○ 医事課の業務内容

#### ※診療報酬請求事務

#### 医 事 係

##### 《 入院事務担当 》

- ・ 受付業務 ・入院日報作成 ・入院情報登録 ・カルテ管理 ・保険請求業務
- ・ 退院会計 ・空床状況救急報告 ・労災、公務災害の処理 ・交通事故の処理
- ・ 新生児出生届出 ・諸証明の受付管理

##### 《 外来事務担当 》

- ・受付業務 ・カルテ管理 ・交通事故の処理 ・労災、公務災害の処理
- ・生保給付券の処理 ・諸証明の受付処理 ・医療要否意見書の処理（生保）
- ・検診契約 ・CTスキャン委託契約 ・病院日報、月報の作成 ・各種申請届出

#### 会 計 係

- ・窓口現金徴収 ・未払い金の徴収 ・窓口現金振込金と領収書の突合
- ・現金収入内訳表の作成（月報） ・日計表の作成 ・納入通知書の作成、消込
- ・調定業務 ・決算資料の作成

#### 医療相談室

- ・医療相談 ・福祉機関との連携 ・介護保険主治医意見書の処理

○ 地域別患者数の状況 (平成19年度)

区 分	入 院	外 来
横 手 区	35,090	88,798
平 鹿 町	8,338	17,941
雄 物 川 町	3,737	9,809
大 森 町	709	2,809
大 雄	2,278	5,792
十 文 字 町	6,519	11,682
増 田 町	3,922	6,515
山 内	4,376	7,001
美 郷 町	1,868	3,926
湯 沢・雄 勝	8,651	13,473
大 曲・仙 北	2,347	4,738
湯 田 町	693	820
そ の 他	425	1,534
合 計	78,953	174,838

○ 科・病棟別在院日数

	在院患者	入 院	退 院	総 患 者	在院日数
内 科	7,981	279	275	8,256	28.8
外 科	12,978	579	675	13,653	20.7
整 形 外 科	4,722	180	173	4,895	26.8
産 婦 人 科	2,796	367	373	3,169	7.6
小 児 科	3,133	711	709	3,842	4.4
泌 尿 器 科	2,999	269	283	3,282	10.9
呼 吸 器 科	7,215	271	279	7,494	26.2
消 化 器 科	23,730	1,218	1,092	24,822	20.5
循 環 器 科	9,322	204	218	9,540	44.2
合 計	74,876	4,078	4,077	78,953	18.4

	在院患者	入 院	退 院	総 患 者	在院日数
2 病 棟	16,946	1,007	979	17,925	84.7 17.1
3 A 病 棟	17,628	1,336	1,309	18,937	77.4 13.3
3 B 病 棟	18,453	1,083	1,116	19,569	89.4 16.8
4 病 棟	21,849	652	673	22,522	94.9 33.0
合 計	74,876	4,078	4,077	78,953	86.5 18.4

※ 在院日数中、上段は病床利用率

<文責 高橋幸一>

## 医療情報管理室

「平成19年10月1日電子カルテ導入」という大きな目標を掲げ、4月1日に医療情報管理室が新たに設置された。

電子カルテの構築が主な事業だが、以前から導入されているオーダーリングシステムの点検と開発、DPC調査報告と分析、癌登録・コホート調査、機器の保守管理、情報の管理等が業務内容として挙げられる。

特に電子カルテの導入に関しては、準備期間が半年間しかなかったものの、各スタッフの協力のおかげで無事にスタートすることができた。

今後は電子カルテ導入の目標である「医療の共有化」「医療の質・安全性の向上」「医療の効率化」の更なる向上を目指し、医療情報システムの改善並びに調整、提供、開発に努めるとともに、医療情報の管理・情報の提供も進めてまいりたい。

### スタッフ

藤盛 修成	加藤 健	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子
浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	渡辺 瑞穂	伊藤 春香
田中 大輔	本間 健司	岩野 陽悦		

### 電子カルテシステム関係

- ・ 電子カルテ導入委員会・ワーキンググループの設置。  
電子カルテ導入委員会とは別に、各部門から委員を抽出しワーキンググループとして細部にわたる運用について検討・決定を行った。
- ・ 6月からシステムエンジニアが常駐。
- ・ 6月～8月各部門運用調整と決定、各部門マスタ作成。
- ・ 9月～各部門シミュレーション、全体のシミュレーション。
- ・ 9月28日29日本番前リハーサル。
- ・ 10月1日使用開始。
- ・ 20年2月職員を対象にアンケート調査を実施。

### ソフトの管理・開発と機器の保守管理

- ・ 電子カルテシステム導入により、既存のオーダーリングシステムの改善も行われた。また、システム関係や機器の増設により、今後ますます管理、開発に取り組む必要がある。

### 医療情報の管理

- ・ 院内セキュリティ対策の構築として、ウイルスチェックが可能な部署を設定し、ウイルスチェックを経てから転送するよう取り決めた。来年度からは、セキュリティソフトの導入を予定している。

#### D P C 調査報告

- ・ 19年7月診療分から調査報告書を提出。
- ・ 12月診療分で調査終了となり、20年4月からD P C 請求かと思われたが、さらにもう1年調査報告書の提出が義務化された。
- ・ 現在調査報告書に基づき、分析を急いでいる。

<文責 浮嶋優子>

## 病診連携室

今年度は、診察2230件、検査643件、合計2873件のご紹介をいただきました。昨年度と比較いたしますと、紹介件数は250件の減少となりました。

紹介件数といたしましては、減少となりましたが、診療科別に見ますと、昨年度と比較し、消化器科で170件、循環器科で約40件の増加となっております。また、地域別に見ますと、湯沢市・雄勝郡、大仙市・仙北郡からの紹介が増加しております。

今後も皆様に選ばれる病院を目指し、地域医療に貢献できるよう努めていきたいと思っております。

また、10月23日には病診連携セミナーを開催し、17施設の先生方のご参加をいただきました。消化器科小田嶋医師より「最近の消化管内視鏡について」、内科塩屋医師より「片頭痛を見逃さないために～最新の診断と治療～」と題してセミナーがありました。

年1回の貴重な情報交換の場として今後も続けていきたいと思っております。

### スタッフ

室長	吉岡 浩
副室長	藤盛 修成
医事課長補佐	浮嶋 優子
医事課	高橋 美幸

### 業務内容

- ・医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・紹介患者の経過報告
- ・市立横手病院診療科・スタッフ案内・病棟案内・外来診療予定表を地域医療機関へ送付
- ・紹介元医療機関と病院側との諸連絡取次ぎ
- ・紹介患者実績や検査利用状況など統計資料を定期的に作成
- ・病診連携室だより「かじか」発行

### 他医療機関訪問

- ・8月上旬・・・27医療機関訪問、12月下旬・・・29医療機関訪問  
（丹羽副院長、吉岡副院長、藤盛副院長、浮嶋課長補佐、高橋）

### 病診連携セミナー

- ・10月23日（会場：横手セントラルホテル）  
セミナー「最近の消化管内視鏡について」 消化器科科長 小田嶋 傑  
「片頭痛を見逃さないために～最新の診断と治療～」 内科科長 塩屋 斉

懇親会（院外15名、院内36名、計51名参加）

平成19年度 市立横手病院紹介率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
①初診患者数	1922	1924	1502	1639	1720	1542	1786	1472	1631	1509	1599	1434	1968
②救急搬送数	70	54	49	56	67	57	55	55	60	63	58	57	701
③紹介患者数	158	170	156	201	149	160	169	137	112	128	137	168	1845
紹介率 (%)	11.9	11.6	13.6	15.7	12.6	14.1	12.5	13	10.5	12.7	12.2	15.7	12.9

$$\text{紹介率} = (\text{②} + \text{③}) / \text{①} \times 100\%$$

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成19年度平均紹介率=12.9%

平成19年度 病診連携室紹介内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診 察	185	178	187	200	174	186	222	176	170	164	181	207	2230
C T	18	27	22	36	18	21	24	18	10	10	21	21	246
M R I	36	35	21	45	22	26	37	19	17	26	25	34	343
M C V	2	3	4	5	0	1	3	1	5	4	4	7	39
E E G	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4
トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルター心電図	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
U C G	1	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	5	10
計	242	243	234	290	214	234	287	216	203	204	232	274	2873

平成19年度 病診連携室紹介内訳 (診療科別)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	24	21	26	24	30	33	33	31	23	24	25	22	316
消化器科	48	39	33	46	33	65	86	60	68	52	59	75	664
循環器科	22	10	23	17	19	26	11	15	8	7	7	23	188
呼吸器科	13	8	10	13	8	9	12	12	8	4	4	5	106
外 科	12	15	16	12	15	5	11	5	8	6	9	10	124
整形外科	21	28	25	35	16	15	19	12	12	23	19	23	248
婦人科	9	11	13	10	14	5	13	11	12	22	25	24	169
小児科	32	47	37	45	23	22	28	27	31	27	30	26	375
泌尿器科	5	2	7	6	11	2	11	5	4	3	6	7	69
眼 科	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4
心療内科	2	0	1	0	2	5	1	1	2	0	2	4	20
放射線科	54	62	43	81	40	47	62	37	27	36	46	55	590
計	242	243	234	290	214	234	287	216	203	204	232	274	2873

## 平成19年度 病診連携室紹介内訳（地域別）

## 紹介件数

	診察	検査	計
横手市	1727	639	2357
湯沢市・雄勝郡	200	0	200
大仙市・仙北郡	70	2	72
県内	132	0	132
県外	101	1	102
計	2230	643	2863

## 依頼検査

	C T	M R I	M C V	E E G	U C G	ホルター心電図	トレッドミル	計
横手市	245	341	39	4	10	1	0	640
湯沢市・雄勝郡	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙市・仙北郡	1	1	0	0	0	0	0	2
県内	0	0	0	0	0	0	0	0
県外	0	1	0	0	0	0	0	1
計	246	343	39	4	10	1	0	643

&lt;文責 高橋美幸&gt;



# 病院統計



収支決算  
貸借対照表

	平成19年度
固定資産	3,436,857,040
有形固定資産	3,435,829,460
土地	233,689,628
建物	1,939,719,871
構築物	61,924,947
器械及び備品	1,194,958,655
車両	4,224,909
建設仮勘定	1,311,450
無形固定資産	1,027,580
電話加入権	1,027,580
流動資産	1,990,343,037
現金預金	1,043,461,079
未収金	919,492,920
貯蔵品	27,389,038
その他流動資産	0
<b>資産合計</b>	<b>5,427,200,077</b>
流動負債	176,267,675
未払金	163,231,062
預り金	13,036,613
預り有価証券	0
<b>負債合計</b>	<b>176,267,675</b>
資本金	5,222,518,636
自己資本金	2,180,803,153
借入資本金	3,041,715,483
企業債	3,041,715,483
剰余金	57,285,000
資本剰余金	57,285,000
受贈財産評価額	0
他会計負担金	57,285,000
他会計補助金	0
国県補助金	0
利益剰余金	1,860,000
減債積立金	1,860,000
当年度未処分利益剰余金	0
欠損金	30,731,234
当年度未処理欠損金	30,731,234
<b>資本合計</b>	<b>5,250,932,402</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>5,427,200,077</b>

単位：円

収益的収支決算（税抜き）

科目	平成19年度	単位：円
<b>病院事業収益</b>	<b>4,341,071,652</b>	
医業収益	4,145,528,317	
入院収益	2,448,915,864	
外来収益	1,510,224,124	
その他医業	186,388,329	
医業外収益	195,446,951	
受取利息及び配当金	2,145,933	
国県補助金	12,710,000	
他会計負担金	157,667,000	
その他医業外収益	22,924,018	
特別利益	96,384	
<b>病院事業費用</b>	<b>4,471,522,443</b>	
医業費用	4,336,275,078	
給与費	2,423,780,514	
材料費	1,135,716,506	
経費	442,121,345	
減価償却費	317,090,566	
資産減耗費	1,285,888	
研究研修費	16,081,259	
重量税	199,000	
医業外費用	135,196,365	
支払利息及び企業債取扱諸費	134,949,444	
雑損失	246,921	
<b>特別損失</b>	<b>51,000</b>	

資本的収支決算

資本的収入	581,155,000
他会計出資金（H18より）	120,655,000
企業債	460,500,000
固定資産売却代金	0
資本的支出	782,182,325
建設改良費	457,087,247
企業債償還金	325,095,078
差引収支不足額	-201,027,325
補てん財源	201,027,325
過年度分損益勘定留保資金	201,027,325

外来入院患者数・1日平均患者数・収益・1人当たり平均単価

		外 来	入 院
		平成19年度	
内 科	患 者 数	83,536	50,112
	一 日 平 均	341.0	136.9
	収 入	697,541,993	1,310,075,206
	平 均 単 価	8,350	26,143
外 科	患 者 数	15,473	13,653
	一 日 平 均	63.2	37.3
	収 入	155,663,408	564,584,501
	平 均 単 価	10,060	41,352
整形外科	患 者 数	20,321	4,895
	一 日 平 均	82.9	13.4
	収 入	84,174,949	201,792,637
	平 均 単 価	4,142	41,224
産婦人科	患 者 数	7,032	3,169
	一 日 平 均	28.7	8.7
	収 入	43,298,021	126,101,160
	平 均 単 価	6,157	39,792
小 児 科	患 者 数	33,790	3,842
	一 日 平 均	137.9	10.5
	収 入	205,675,013	119,280,218
	平 均 単 価	6,087	31,046
泌尿器科	患 者 数	13,377	3,282
	一 日 平 均	54.6	9.0
	収 入	307,826,593	127,082,142
	平 均 単 価	23,012	38,721
眼 科	患 者 数	1,309	
	一 日 平 均	5.3	
	収 入	16,044,147	
	平 均 単 価	12,257	
計	患 者 数	174,838	78,953
	一 日 平 均	713.6	215.7
	収 入	1,510,224,124	2,448,915,864
	平 均 単 価	8,638	31,017

救急患者取扱状況

年	内科	小児科	産婦人科	外科	整形外科	その他	計	救急車による搬入人員
H19	5,193	7,286	160	913	995	147	14,694	701
H18	5,061	8,204	230	1,043	1,495	153	16,186	647
H17	5,401	7,892	190	1,003	1,592	159	16,237	656
H16	5,636	7,967	235	1,125	1,614	130	16,707	635
H15	5,337	7,373	233	1,071	1,838	102	15,954	525

## 委員会活動



## 安全管理委員会

### 医療事故防止委員会

#### 構成員氏名

委員長 丹羽 誠  
 委員 船岡 正人 小田嶋尚人 木村カズ子 佐藤恵美子  
 佐々木佳子 佐藤 正弘

#### 活動記録

平成19年度は、医療事故防止委員会で審議すべき案件がなかったので開催されなかった。

<文責 佐藤正弘>

### リスクマネージャー委員会

#### 構成員

委員長 丹羽 誠  
 医師 吉岡 浩 和泉千香子  
 薬剤師 石田 良樹  
 検査技師 佐々木絹子  
 放射線技師 法花堂 学  
 リハビリ 高橋 信夫  
 ME 川越 弦  
 事務 水上 彰 木村 宏樹  
 看護科 佐藤セツ子 木村恵美子 佐々木佳子 田中 由江  
 赤川恵理子 高橋はるみ 小田嶋千津子 矢野多智子  
 黒沢真知子 小松 則子 小田嶋明子 石橋由紀子

平成19年 9月 医薬品安全担当者決定

医薬品安全管理責任者	薬剤師	石田 良樹 委員
	医 局	和泉千香子 委員
	看護科	木村恵美子 委員
		赤川恵理子 委員
		佐藤 昌悦 委員
	医事科	木村 宏樹 委員

#### リスクマネージャー委員会開催日時

平成19年	4月	9日
平成19年	5月	8日
平成19年	6月	14日
平成19年	7月	10日
平成19年	8月	10日
平成19年	9月	11日
平成19年	10月	9日
平成19年	11月	13日
平成19年	12月	11日
平成20年	1月	8日
平成20年	2月	12日
平成20年	3月	11日

#### リスクマネージャー委員会討議内容および決定事項

- 人工呼吸器装着中のトラブルあり。MEが原因を調査した。  
看護科対象で人工呼吸器に対する警報の見方考え方および看護についての勉強会を開催。
- 点滴留置時の表示および留置期間についてルール決定
- 治療・検査・患者サービスのための配茶について、異物混入の危険を考え、配茶時の責任を明確にする（不必要な配茶は行わない。配茶準備者を明示する）
- タイガン使用時の注意事項の再確認。

#### 電子カルテ導入にあたりマニュアル・手順・ルールに変更あり

- 点滴注射の実施確認ルールとバーコードリーダー確認の導入。
- 医師の指示伝達画面の使用とルール決定。
- 入院時持参薬のオーダー状況画面の表示。
- 順路案内の医事科での利用開始。
- 転倒転落アセスメントスコアシードの導入。
- 麻薬管理：病棟搬入ルールの改定。

#### 医療安全研修会

- |             |  |
|-------------|--|
| 平成19年8月17日  | テーマ「院内における自殺予防」<br>講師 丹羽 誠 副院長   |
| 平成19年11月30日 | テーマ「市立秋田総合病院における医療安全対策」<br>講師 市立秋田総合病院 医療安全対策室<br>三浦 真由美氏<br>市立大森病院との合同研修会 |

- 平成19年5月9日 テーマ「呼吸器科の医療事故防止について」  
院内講師 呼吸療法士 小田嶋ゆう子
- 平成19年5月23日 テーマ「CT室における看護業務とリスクマネジメント」  
院内講師 看護師 高階 利子  
テーマ「造影検査のリスクマネジメント」  
講師 第一三共株式会社
- 平成19年7月9日 テーマ「癌化学療法のリスクマネジメント」  
講師 第一三共株式会社
- 平成19年7月23日  
8月1日 テーマ「人工呼吸器学習会 警報の見方・考え方」  
講師 ME 川越 弦
- 平成19年8月17日 テーマ「経腸栄養ラインの事故防止」  
講師 株式会社 トップ

ヒヤリハット通信発行  
4号発行

<文責 佐々木佳子>

### 医療事故対策委員会

#### 構成員氏名

委員長 丹羽 誠  
委員 長山正四郎 吉岡 浩 藤盛 修成 木村カズ子  
佐藤 正弘 畠田 敏雄

#### 活動記録

平成19年度は、医療事故対策委員会で審議すべき案件がなかったので開催されなかった。

<文責 佐藤正弘>

## 倫理委員会

### 概要

院内で実施される医療または臨床研究について、生命倫理及び医学倫理に関する事項が妥当であるかを審査することを目的として設置された。院外委員1名を含んでいる。

### 構成員氏名

	役 職	氏 名
委 員 長	副 院 長	丹 羽 誠
副 委 員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	木 村 カズ子
	リハビリテーション科副技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	見識を有する者	三 橋 由美子

### 活動記録

平成19年4月19日に本委員会に対して申請された倫理審査申請について審査を行った。

課 題 名 正常アルブミン尿糖尿病患者における既存 ARB から新規 ARB (オルメサルタン) への切り替え及びロサルタン+利尿薬併用による早期糖尿病性腎症発症抑制と降圧効果の検討

申 請 者 内科科長 下斗米孝之

審議結果 承認

<文責 佐藤正弘>

## 栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部の連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としている。委員会の開催は年4回としており、討議内容は、毎回恒例の嗜好調査の結果報告、調理師からの意見および各病棟師長その他出席者からの問題提起と、その他の検討項目からなる。委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成19年度の主な議題を示した。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院 長	長山正四郎	食養科技師長	原田 優子
副 院 長	船岡 正人	主 任	川越 真美
食養科長	粕谷 孝光	主席調理技能士	天羽 勝義
事務局長	佐藤 正弘	主 任	小松 信広
医事課長	鳶田 敏雄	嘱託調理師	本間イネ子
総 師 長	木村カズ子	嘱託調理師	松井世津子
2病棟師長	高橋千鶴子		
3A病棟師長	木村真貴子		
3B病棟師長	木下 文子		
4病棟師長	藤井 洋子		
薬 剤 師	小宅 英樹		

### 「平成19年度委員会開催日および主な議題」

- 平成19年4月25日 \* 幼児食の見直しを行い「サイクルメニュー」を導入する。  
\* 「NST稼働施設」として認定される。  
(日本静脈経腸栄養学会より)
- 平成19年7月24日 \* 分粥食の量・かたさ等を均一化させる。  
\* 嚥下5段階食完成、8月1日より開始する。  
\* 栄養補助食品の導入について検討。
- 平成19年11月30日 \* 退院患者が流動食を購入する際の手配の仕方について。  
\* 経管流動食「リーナレン」「K-4S」がリニューアル、その商品説明。
- 平成20年1月22日 \* 給食が原因の食中毒が発生した場合の対応について「食中毒発生時におけるプロセス」の案を作成、検討する。  
(今回の会議においては結論が出ず、感染委員会に持っていく事となる。)  
\* 栄養補助食品の試食・試飲を行い、導入について話し合う。

<文責 原田優子>

## NST委員会

### 目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

### 構成員

Supervisor	長山正四郎			
Chairman	粕谷 孝光			
Director	船岡 正人			
Core Stuff	江畑公仁男	下斗米孝之	高橋 洋	木村カズ子
	鈴木真紀子	小田嶋千枝子	金子由美子	吉川ちあき
	佐藤由美子	藤井 涼子	渡邊あかね	柿崎 美幸
	小原 麻美	佐々木康子	原田 優子	川越 真美
	小宅 英樹	佐々木美奈子	大友真由子	百合川深里

### 役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

### 活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する。
2. 抽出した症例に対してNST Core Stuffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う。
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する。
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NST メンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする。
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催。
6. その他、栄養療法に関する事柄

## 勉強会・委員会開催日時及び検討内容

- H19. 4. 2 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）  
臨床検査科に異常データリストを出してもらい、介入が必要かどうかカンファレンスすることとした。
- H19. 4. 9 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 4. 16 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 4. 23 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 5. 7 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）  
栄養アセスメントシートを入力しやすいように作成し直した。
- H19. 5. 14 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 5. 21 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 5. 28 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 6. 4 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）  
『栄養サポートチームだより』発行について
- H19. 6. 11 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 6. 18 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 6. 25 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 7. 2 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 7. 9 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 7. 20 NST 勉強会 『嚥下について』～あなたはじょうずに飲み込めますか？～  
講師：OT 高橋 洋
- H19. 7. 23 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 7. 30 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 8. 6 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 8. 13 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 8. 20 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 8. 27 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 9. 3 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 9. 4 NST 勉強会 『嚥下について』～あなたはじょうずに飲み込めますか？～  
講師：OT 高橋 洋
- H19. 9. 10 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 9. 18 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 9. 25 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）
- H19. 10. 1 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）  
11月からのNSTソフト使用開始に向け、各科調整、マニュアル作成等の準備を行った。
- H19. 10. 9 NST 委員会（ミーティング、NST 回診）

- H19. 10. 15 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 10. 22 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 10. 29 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 11. 5 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- 11 月から NST ソフト使用開始になったことにより、医局への依頼文書作成、各科・各職種の介入の流れを調整、確定させた。
- H19. 11. 12 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 11. 19 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 11. 26 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 12. 3 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 12. 10 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H19. 12. 17 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 1. 7 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 1. 21 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 1. 28 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 2. 4 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 2. 18 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 2. 21 JASPEN 研修会 京都
- H20. 2. 25 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 3. 3 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 3. 10 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- 食養科より補助食品一覧表やパンフレットを提供してもらい、補助食品の検討を行った。
- H20. 3. 17 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 3. 24 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)
- H20. 3. 31 NST 委員会 (ミーティング、NST 回診)

<文責 百合川深里>

## 褥瘡対策委員会

本委員会は院内の褥瘡対策を討議・検討をし、その効率的な推進を図るため平成14年度より設置されました。褥瘡の発生に対する予防対策の確立、感染褥瘡源の調査、またそれらに関する情報の収集等が主な討議・検討内容となっており、その他、褥瘡及び合併する感染予防対策についても様々な調査・審議が行われています。

平成19年度の主な活動内容としては、毎月開催される委員会での各種検討を行う他に、毎月第1、3水曜日にWOC村山氏、第2、4、5月曜日に船岡Drと病棟を訪問し褥瘡状態の治癒・改善を目指した褥瘡回診を行うとともに症例カンファレンスも行い、褥瘡状態の評価と治療方針の決定に努めてまいりました。

ハード面では耐圧分散マットレス、体位交換用枕等の整備も行いました。

今後も褥瘡発生を極力少なくして行けるよう更なる取り組みをしていきたいと思っております。

### 構成員氏名

委員長	副院長	吉岡 浩		
副委員長	副院長	船岡 正人		
褥瘡管理者		佐藤美夏子		
委員	病棟師長	木下 文子	看護師	高橋 礼子
	看護師	佐々木史子	看護師	佐々木 薫
	看護師	桐原 峰子	看護師	煙山由紀子
	看護師	岩村 久子	看護師	佐々木智美
	管理栄養士	原田 優子	薬剤師	渡辺 圭子
	理学療法士	小田嶋尚人	臨床検査技師	工藤真希子
	課長補佐	阿部 光子		
事務局	管財係	菅原 祐司		

### 委員会開催日時

平成19年4月4日・5月2日・6月6日・7月4日・8月1日・9月5日・  
10月3日・11月7日・12月5日・平成20年1月9日・2月6日・3月5日

<文責 菅原祐司>

## 患者サービス向上委員会

委員 長山正四郎 藤盛修成 木村カズ子 郡山邦夫 佐藤正弘 栗田公平 高橋功

### 委員会開催日

- 第1回 6月13日 ①研修・教育について  
②患者満足度アンケート調査について  
③退院患者用アンケート調査について
- 第2回 11月13日 ①外来患者様アンケートの実施について  
②第2回接遇研修の開催について

### ○ 接遇研修会

目的 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身に付ける事ができる。

#### 第1回 接遇研修会

- 日時 平成19年7月13日 17:30～18:10
- 場所 4階会議室
- 講師 木村カズ子（看護科） 高本 和子（看護科）  
細谷 謙（放射線科） 田澤 妙子（医事課）
- 内容 ①接遇の基礎  
②DVD ・言葉遣いと説明のコツ 出席者 64名  
終了後アンケート調査実施

#### 第2回 接遇研修会

- 日時 平成20年1月24日 16:30～18:30
- 場所 4階会議室
- 講師 NTT 東日本秋田 植野のり子氏
- 対象者 ①総務課及び医事課職員  
②外来・病棟の事務職員  
③検診センター事務職員
- テーマ 電話応対マナー・スキルアップ研修
- 内容 ①ビジネス電話応対の重要性  
②ことばづかいの注意点  
③電話応対の実践  
④ワンランク・アップの電話応対に向けて  
⑤プロとして使ってはほしくない「ことば」してほしくない表現  
⑥電話応対トレーニング  
⑦苦情・クレームへの一次対応 出席者 34名

<評価と今後の課題>

第1回目は職員が講師となり、ロールプレイ、DVDを通して何が問題なのかが明確になり対応の仕方が理解できたのではないだろうか。医療職としての接遇は勿論のこと、日々の生活の中で言葉遣い、態度、容姿など常に意識していくことが重要である事を再認識できたのではないだろうか。アンケート調査の結果、①ロールプレイ方式はわかりやすかった。②毎日、何気なく話している言葉が適切でない場合が多くある事を認識した。③患者様への接遇は勉強会の効果もありよくなってきていると思う。など研修会に対する意見を頂きましたので、今後の研修会の参考にしたいと思います。

第2回目は院外講師を招いて、電話対応マナーを重点に、実際電話を使用しての応対を学びました。電話は職場の窓口であること。電話対応はいつでも・どこでも・だれでも・見えない相手に見せる気配りが大切ということを実感しました。

<文責 木村カズ子>

## 緩和ケアチーム委員会

### 【設置目的および経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に  
来られた患者家族全ての方に、当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ  
とを目的として、緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに、緩和ケアの保証について病  
院としての責任を明らかにするため、平成14年10月に公的委員会として「緩和ケア委員会」が認  
められた。平成19年4月「緩和ケアチーム委員会」に名称を変更。

### 【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及
- 2) 病名・病状の説明とその後の支援・フォローについて
- 3) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために ①勉強会及びケースカンファレンス ②緩和ケア回診（週1回）③院内講演会、  
等を行う。

### 【19年度委員】

医 局：丹羽 誠（委員長）、滝澤 淳

看護科：高橋共子、池田弘恵、安藤宏子、真田由美子、佐藤秀子、高橋康子、佐々木美紀子、  
末次エリカ、鈴木久美子、菅原奈緒子

薬剤科：石田良樹

食養科：原田優子

リハビリテーション科：高橋貞広

医事課：石山博幸

（書記 総務課：大友）

### 【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

### 【特記事項】

①緩和ケア回診：毎週月曜日・・・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象

②院内勉強会 6月：オピオイドの基本的な疼痛管理

7月：せん妄について

院外勉強会 9月：秋田県南緩和医療研究会「緩和ケアチームの現状とこれからの課題」

<文責 高橋共子>

## 救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

### 救急センター運営委員

委員長	吉岡	浩	
副委員長	藤盛	修成	
委員	小松	明	工藤真希子
	法花堂	学	渡邊 圭子
	木村真貴子		川越 弦
	佐々木佳子		和賀美由紀
事務局	木村	宏樹	

### 本年度の活動状況

- 平成19年5月25日 エマージェンシーコール訓練・救急統計について検討
- 平成19年10月22日 救急救命講習会に15名参加(1回目)
- 平成19年10月25日 救急救命講習会に15名参加(2回目)
- 平成19年12月19日 救急搬送患者統計について検討

<文責 木村宏樹>

## 手術室運営委員会

### 概要

手術室の様々な点で業務改善及び見直しを立案並びに討議する。

### 構成氏名

委員長	江畑公仁男	手術室室長	副院長	整形外科科長
	吉岡 浩	副院長	外科科長	ME 室室長
委員	畑澤 淳一	産婦人科科長		
	沼倉 一幸	泌尿器科科長		
	木村カズ子	総看護師長		
事務局	高本 和子	手術室師長		
	石橋由紀子	手術室主任		
	川越 弦	ME 室主任		

### 委員会開催年月日及び検討事項

H19年6月4日

\* 手術時手洗いのデモンストレーション；ラビング法（＋爪ブラシ）

\* 術中2時間を基準に滅菌手袋の交換（術者・直接介助者）

\* 電子カルテ導入に関して継続審議（電子カルテ委員；加藤医師）

手術関連書類・申し込み方法・院外麻酔医との連携など、手術室側の希望を  
ソフトウェア社と刷り合わせ作業を進める

7月27日

\* 電子カルテ導入に関して加藤医師より説明

・ 手術関連書類に対する検討

① 麻酔科申し込み書；テンプレート形式、既往歴に呼吸器・中枢神経系疾患を追加

② 麻酔科医師指示書；院外の麻酔医の実施入力の見直し

③ 術前検討用紙；必須項目5項目を手術予約画面にレイアウト

④ 手術記録；「受付と実施」の「手術記録」に所見入力

標本写真は「所見歴」に保存

\* S S I 対策として術前の抗生剤点滴は手術室入室時終了していること

\* 手術室看護研究への協力依頼（術衣の改善）

9月4日

\* 手術関連書類に対する検討；加藤医師 ソフトウェア社

PCを用いて具体的に説明・検討 デモンストレーション

10月12日

\* 電子カルテ導入後の問題点に関して

- ・術中の麻薬は術者が手術終了時にPCに指示入力
- ・術中の緊急検査は検査科に権限委譲しPC入力を依頼する
- ・緑内障点眼の方は眼科医より硫酸アトロピンの使用確認が必要

11月19日

- \* 薬剤科より；注射薬プロスタグランディンの在庫について
  - ・院外の麻酔医に確認後 今後は在庫しないこととする
  - ・電子カルテの運用は現在のところ大きなトラブルなし。今後も運用上の規則を守り事故のない様に努める。

H20年1月21日

- \* 救急救命士の院内再教育実習に関して協力依頼
  - ・手術室限定薬剤；キシロカイン（0.5%・1%）松元医師使用
  - ・SSI対策；基本的にラジーレンはしない（必要最小限）  
外科は下部消化管手術閉創時、新しい器具に替える「閉創セット」の使用

<文責 高本和子>

## 地域交流推進委員会

### 概要

病診連携室を主体とし、地域の医療機関からの紹介患者の受け入れ、高度医療機器による検査の受け入れを行う等、地域の各医療機関との連携を円滑に運営することを目的としている。

また、病院の広報活動や、地域の各医療機関への訪問、各医療機関の医師を対象とした症例検討会の開催等の活動を行っている。

### 構成員

委員長 吉岡 浩

副委員長 船岡 正人

委員 下斗米孝之 長山正四郎 藤盛 修成 高橋 美幸

浮嶋 優子

### 活動記録

病診連携室での活動が主で、委員会開催の実績はなかった。

<文責 浮嶋優子>

## 薬事審議委員会

### 概要

- ① 院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、その他）
- ② 既採用薬剤の見直し（同種同効品目の比較検討、削減）
- ③ 委員からの提案された事項についての審議
- ④ 副作用情報の収集・報告・伝達・対策

### ◆ 構成員

	委 員	氏 名
委員 長	副 院 長	吉 岡 浩
副委員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	江 畑 公仁男
	診 療 部 長	畑 澤 淳 一
	診 療 部 長	小 松 明
	産 婦 人 科 科 長	滝 沢 淳
	循 環 器 科 科 長	根 本 敏 史
	循 環 器 科 科 長	和 泉 千香子
	消 化 器 科 科 長	奥 山 厚
	消 化 器 科 科 長	小田嶋 傑
	泌 尿 器 科	沼 倉 一 幸
	放 射 線 科 科 長	平 野 弘 子
	外 科 科 長	加 藤 健
	外 科 科 長	粕 谷 孝 光
	呼吸器科兼アレルギー科科長	齋 藤 紀 先
	内 科 科 長	下斗米 孝 之
	内 科 科 長	塩 屋 齊
	院長（薬剤科科長兼任）	長 山 正四郎
	薬 剤 科 科 長	石 田 良 樹
	看 護 科 主 任	小田嶋 恵美子
	医 事 課 長 補 佐	浮 嶋 優 子
	総 務 課 長 補 佐	阿 部 光 子

小田嶋先生、奥山先生、石田先生（H19年10／1～）

◆ 委員会開催日及び検討事項

《第1回薬事委員会》 平成19年5月18日

新規採用品（9品目）	ガバペン錠200mg、エビリファイ錠3mg、ジェイゾロフト錠2.5mg コムタン錠100mg、アルチバ注2mg、ベシケア錠2.5mg デトルシトール Cap2mg、パンスポリン注0.5mg、ユナシン S注0.75mg
限定採用品（13品目）	ダイアモックス注500mg、メトピロン、オペプリム、ラミシール錠 125mg 硫酸アミカシン注100mg、メファキン錠、セフゾンCap100mgプログラフ Cap セルセプト Cap250mg、ニューロタン錠25mg、コペガス錠200mg、ATP 腸溶錠第一、セレニカ R 顆粒40%
使用中止品（6品目）	シリコリン注わかもと、ダイアモックス注500mg、メファキン錠 セフゾン Cap100mg、ヨウレチン末、ペグイントロン注150μg
製品の切り替え	アンスロビン P500注 ⇒ アンスロビン P1500注

(1) 採用品の見直しについて（ヨウレチン末）

(2) 院内副作用報告のまとめ（4月、5月分）

《第2回薬事委員会》 平成19年7月18日

新規採用品（4品目）	アドエア100・200、ハロスポア注0.5g、セフォタックス注0.5g
限定採用品（8品目）	ヒューマログ MIX50注キット、カナマイシン Cap、ステロネマ、亜硝酸 アミル ペントサ注腸1g、ツムラ(86)、リスパダール錠2mg、トリパレン1号 600
使用中止品（37品目）	ツムラ(96)、ソフラチュール、ネオペリドール注、ヴィーン D注500ml アナフラニール錠25mg、イスコチン末、オーラップ錠1mg、カフェルゴ ット コレキサミン錠、コントミン散10%、コントミン錠12.5mg、サラゾピ リン錠 チロナミン錠5、テルロン錠0.5、ドミン錠0.4、フェマーラ錠2.5mg、 プロタノール S錠、メタルカプターゼ50、ツムラ(27)(39)(51)(85) (90)、 ベスタチン30Cap、ベプシド S50、ロイケリン散、 硫酸ポリミキシン B錠100、硫酸ポリミキシン B末、アンモニア水、イ ソジンゲル、液状フェノール、オリーブ油、デルモベートスカルブ、ノ ベクタン Lスプレー、 ハッカ水、カプロシン皮下注用、レボビスト注
製品の切り替え	ランタス注オプチック300 ⇒ ランタス注カート300
限定採用⇒新規採用	ビカーボン注500ml

- (1) 「ビカーボン注」の限定採用から新規採用への移行について
- (2) 採用品の見直しについて（心療内科関連薬剤）（年間使用実績の少ない製品）
- (3) メーカーの宣伝に対する対応について（後発品の宣伝は薬剤科で一括対応する）
- (4) 院内副作用報告の症例の基準、報告手順の周知
- (5) 院内副作用報告のまとめ（6月、7月分）

《第3回薬事委員会》 平成19年9月（開催中止）

《第4回薬事委員会》 平成19年11月21日

新規採用品（3品目）	ヒビスコール液 A、オムニパーク350-100mlプラボトル、リレンザ
限定採用品（21品目）	カプロシン皮下注用、クリノリル錠50、ピレチア錠25mg、ドパストン注射液 ピラマイド、フロリネフ錠、ペガシス皮下注90 $\mu$ g、アバスチン点滴静注用100mg アバスチン点滴静注用400mg、カプトリル錠12.5mg、注射用フィルデシン1mg ジフルカンカプセル100mg、リツキサシ注(100mg)(500mg)、ペントサ注腸1g ドパストン注射液、エクザール注射用10mg ステロネマ100ml ナベルビン注10 テラルビシン注射用10mg ツムラ清肺湯
使用中止品（14品目）	カプトリル錠12.5mg、ツムラ（86）、トヨファロール Cap1.0、ニューロタン錠25、 サルコート Cap、アダント注、イオパミロン370/20ml、セフォタックス注0.5g、トブラシン注60mg、ノボ・硫酸プロタミン、注射用プロスタンディン500、 ポタコールR500ml、ホンバン注250mg、 硫酸アミカシン注「萬有」100mg
製品の切り替え	フェルティノームP注75 ⇒ ゴナピュール注用75 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後発品</span> ドオルトン錠 ⇒ プラノバル錠

- (1) 「アスドリン注」「インダシン SP25mg・50mg」「薬用セッケン」「ノボリン 10R フレックスペン」  
販売中止による当院の対応（代替品検討）
- (2) 採用品の見直し（注射用プロスタンディン500）
- (3) 夜間診療カート内への酸化マグネシウムの常備、薬剤一部変更（ハルシオン錠0.125mgへ戻す）
- (4) 「トーワズレン（後発品）」の流通について（流通回復せず、先発品のマーズレン使用）
- (5) 院内副作用報告のまとめ（8月、9月、10月、11月分）

《第5回薬事委員会》 平成20年1月16日

新規採用品（6品目）	タゾシン注2.5、レベミル注300フレックスペン キシロカイン注シリンジ0.5%・1%、プレミネント錠、アンカロン注
限定採用品（17品目）	セファランチン錠1mg、ラミシール錠125mg、コペガス錠200mg ペガシス皮下注180 $\mu$ g、アズノールうがい液4%、アクプラ静注用 10mg・50mg ジフルカンカプセル100mg、ヒューマログミックス50注キット テラルビシン注射用10mg、ニューレプチル錠5mg、ペンタサ注腸1g ステロネマ100ml、レミケード点滴静注用100、サリベート、 コンサータ錠（18mg） ヘプセラ錠10
使用中止品（9品目）	ブロメライン軟膏、インダシン坐剤50・25、リスパダール錠2mg、 リタリン錠、 トリパレン1号600ml、ナイクリン注、亜硝酸アミル、ゼストリル錠 10mg
製品の切り替え	アビシヨット錠75mg ⇒ フリバス OD 錠75mg ルテウム注25 ⇒ プロゲホルモン25mg

- (1) 採用品の見直しについて（ブロメライン軟膏）
- (2) 次回の薬事委員会より、医局に対し中止品検討のためのアンケートを実施
- (3) 院内副作用報告のまとめ（12月、1月分）

《第6回薬事委員会》 平成20年3月18日

新規採用品（0品目）	なし
限定採用品（10品目）	アバスチン点滴静注用100mg、ツムラ（125）、レグパラ錠25mg バルコーゼ、アロマシン錠25mg、サノレックス錠0.5mg、ベセルナクリ ーム5%、デノシン点滴静注用500mg、ペンタサ注腸1g、イムネース注 35
使用中止品（13品目）	オビソート注射用100mg、サンピロ2%、ノフロ点眼液0.3%、フロジン 液 サージセル・アブソーバブル・ヘモスタット、オルガラン注、ブレオ 注射用5mg (麻)オピオアト注、(麻)塩酸ペチジン注、イントロンA注射用600、 ローヘパ注500、 ペリセート360NL(1.5L 排液バック付)、ペリセート360N（2L）
製品の切り替え	ATP 協和注10mg ⇒ ATP 注第一10mg

- (1) 「ATP 協和注10mg」販売中止による当院の対応（代替品検討）
- (2) 中止品検討のためのアンケート調査の結果について
- (3) 薬品破損金額の報告（過去3年間、原因別内訳）

- (4) 次年度からの院外処方箋について(後発品へ変更の可否について病院の方針の決定)
- (5) 化学療法のレジメについて(管理マニュアル、クリパス化等)
- (6) 院内副作用報告のまとめ(2月、3月分)

◆平成19年度採用品目の動向

新規採用医薬品	22品目
限定採用医薬品	69品目(延べ数)
使用中止医薬品	79品目

◆まとめ

今年度は使用実績の少ない製品の見直しの面で進展があった。引き続き年間使用量の調査を続け、病院の実情に合った適正な採用品目数の管理が出来るようにしたい。年間の薬剤破損金額も今後の検討課題となっている。

来年度はDPC導入に向け、後発品の使用も意識した採用品の検討やクリパスの作成等も必要になってくると思われる。

後発品の使用促進は今後も進む見込みなので、その使い方についても院内でしっかり検討していくことが必要となりそうです。

<文責 佐々木弘子>

## 輸血療法委員会

委員長（産婦人科）	畑澤 淳一
診療科（外科）	吉岡 浩
診療科（消化器科）	船岡 正人
診療科（整形外科）	江畑公仁男
診療科（泌尿器科）	沼倉 一幸
薬剤科	石田 良樹
臨床検査科	佐藤恵美子
臨床検査科	加賀谷美智子
看護科	佐藤セツ子
看護科	小松ルリ子
医事課	百合川深里
総務課	阿部 光子

輸血関連業務の安全性の確保及び収支改善のための施策実施のため輸血療法委員会が設置されている。

### 委員会開催状況

平成19年6月13日

輸血管理料の施設基準を満たすための対策。

算定 FFP の解凍の際、温度が高すぎて凝固してしまったケースについての対策。

平成19年9月7日

### FFP の CR 製剤への変更

血液センター集約の情報提供と対策について

輸血実施確認変更とマニュアルの変更について

同意書の変更について

平成19年12月19日

血液使用状況報告

秋田県合同輸血療法委員会報告

交差試験方法の変更について

平成20年3月25日

製剤名称の統一（慣習的に呼ばれていた LR という名称を廃止）

時間外輸血検査の手順変更

副作用遡及調査について

当院では現在、輸血管理料算定のための施設基準を満たしていない。主な原因は赤血球輸血に比較して FFP、アルブミンの使用量が多いためである。施設基準獲得のためにいくつかの施策を実施したが有効に機能しているとは言い難い。症例検討会の開催と適正使用の推進が課題である。

## 平成19年度 診療科別血液使用状況

診療科	製剤名	本年度使用本数
外科	Ir-RCC-LR-1	37
	Ir-RCC-LR-2	168
	Ir-PC-10	2
	Ir-PC-15	6
	Ir-PC-20	7
	FFP-2	124
	FFP-5	7
	FFP-LR-1	8
	FFP-LR-2	101
	自己血	9
産婦人科	Ir-RCC-LR-1	2
	Ir-RCC-LR-2	10
	Ir-PC-15	2
	FFP-LR-2	3
	自己血	48
整形外科	Ir-RCC-LR-1	2
	Ir-RCC-LR-2	28
	自己血	42
内科	Ir-RCC-LR-1	80
	Ir-RCC-LR-2	358
	Ir-PC-10	51
	Ir-PC-15	16
	Ir-PC-20	19
	FFP-2	12
	FFP-5	17
	FFP-LR-1	2
	FFP-LR-2	66
泌尿器科	Ir-RCC-LR-1	4
	Ir-RCC-LR-2	22
	Ir-PC-20	1
	FFP-LR-2	7
	自己血	4

<文責 石田良樹>

## 臨床検査適正化委員会

### 概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とし平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

### 構成員

委員長	長山正四郎	(院長)
委員	船岡 正人	(副院長)
	藤盛 修成	(副院長)
	畑澤 淳一	(検査科科长)
	加藤 健	(外科科長)
	寫田 敏雄	(医事課長)
	木村カズ子	(総看護師長)
	佐藤恵美子	(検査技師長)
	長瀬 智子	(内部精度管理担当責任者)

### 委員会開催日時及び検討事項

平成20年3月21日(金)

1. 平成19年度日臨技・医師会コントロールサーベイ結果説明
2. 平成20年度診療報酬改定の検査部門に関する影響について
3. 生化学包括10項目の再認識と内科セットの見直しを医局側に相談・提示することに決定

<文責 長瀬智子>

## 図書委員会

### (目的)

図書室は、病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

### (スタッフ)

委員長	平野 弘子	(医局)	平成15年 9月～
副委員長	谷口 明美	(総務課)	平成14年 9月～
書記	中田 千絵	(総務課)	平成19年 4月～
委員	島田万里子	(看護科)	平成19年 4月～
委員	高橋奈々子	(総務課)	平成19年 4月～平成19年12月
委員	阿部千鶴子	(総務課)	平成20年 1月～

### (図書室概要)

面積	34.8㎡
座席数	4席
設備	コピー機 (1台)・パソコン (1台)
閲覧時間	24時間可能
所蔵資料	書籍 662冊(各科配架分含む)・製本雑誌 1736冊 移動図書・1026冊
配架	書籍 NLMC 分類順・和雑誌 あいうえお順・洋雑誌 アルファベット順 移動図書 ブックトラック 2台・移動図書用本棚
サービス	医学中央雑誌 Web 版 秋田大学図書館医学部分館への文献複写の依頼 個人用医学図書の購入、支払い、製本と取次ぎ

### (活動)

- ・ 図書購入予算の確定と管理  
各科に予算配分しその中での購入がなされているか月毎に各科別の購入収支簿を作成し、月1回院内LANで職員に情報提供
- ・ 購入図書の受入れと配架作業  
月毎の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架  
月1回院内LANで職員に情報提供
- ・ 蔵書点検  
不明図書の確認をして原簿の整理
- ・ 統計  
図書室に常勤担当者がいないため図書貸出し簿は設置してあるが、図書貸出し数・利用者数は明確に出せない。

<医中誌アクセス数>

年 度	アクセス回数	ログイン回数
平成16年度 (7月～)	700回	126回
平成17年度	1271回	199回
平成18年度	3069回	186回
平成19年度	3778回	245回

<秋田大学図書館医学部分館への文献複写数>

平成18年度 20件 ・ 平成19年度 39件

《移動図書サービス活動》

(目的)

入院患者さんと付添いの方々に本の貸出しを行い、入院生活の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

(活動)

各病棟を委員2名で1台のブックトラックに約201冊の本を積み隔週火曜日3A・3B病棟、木曜日2病棟・4病棟を巡回している。

このサービスがスタートして以来好評でご自分の本を寄贈してくださる方も少なくない。

医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、図書を通しての“医療情報の提供”も視野におき、患者さんの要望にこたえていきたい。

(統計)

移動図書貸出し数 (平成19年5月～平成20年3月)

病 棟	総 数	月 平 均	総 利 用 者 数	月平均利用者数
2 病 棟	62冊	5.6冊	32人	2.9人
3 A病棟	127冊	11.5冊	53人	4.8人
3 B病棟	56冊	5.0冊	29人	2.6人
4 病 棟	38冊	3.4冊	27人	2.4人
計	289冊	25.7冊	141人	12.8人

<文責 谷口明美>

## 臨床研修管理委員会

### これまでの概要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置されたものである。

平成15年10月30日付で単独型臨床研修病院及び本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院の協力型臨床研修病院の指定を受けており、平成18年9月11日付で管理型臨床研修病院に指定されている。また、平成19年9月13日付で市立角館総合病院の協力型臨床研修病院の指定を受けたところである。

臨床研修医は平成16年7月より受入を開始している。当院の研修コースは内科系重視のAコース（定員2名）、外科系重視のBコース（定員2名）となっており、当院の診療科目に無い「精神科」では「横手興生病院」及び「市立角館総合病院」、「地域保健・医療」では「横手保健所」に協力をいただいている。

### 平成19年度での主な事項

研修期間は2年間であり、研修2年目（平成18年4月採用）の3名の研修医（Aコース2名、Bコース1名）に4月から新たに4名の研修医（A・Bコース各2名）を迎え、合わせて7名の臨床研修医が参加した。また、本荘第一病院より6名の研修医を協力型病院として受入（主に産婦人科・小児科で延べ28ヶ月間）したところである。

また、これまでの経緯を踏まえてプログラムの変更申請を行い、平成19年4月からの実施が認められたところである。その主な内容は、研修医の選択の幅を広げる観点から、「精神科」での研修先をこれまでの「横手興生病院」に加えて「市立角館総合病院」を、「地域保健・医療」では「横手保健所」に加えて「市立大森病院」を当院の協力病院・施設とするものであり、一部診療科の研修期間の見直しも行ったところである。

指導体制でも、新たに4人の医師が「新臨床研修指導医養成講習会」の受講を経て、指導医としてのスキルアップを図ったところである。

臨床研修は順調に行われ、平成18年4月からの3名の研修医は2年間の研修を終え、修了証を交付したところであり、うち2名は出身大学医学部や附属病院へ転出、1名は当院に留まって勤務医となっている。

### 委員会名簿

委員長	吉岡 浩（外科）	研修実施責任者
委員	船岡 正人（消化器科）	Aコースプログラム責任者
	藤盛 修成（消化器科）	
	粕谷 孝光（外科）	Bコースプログラム責任者
	小松 明（小児科）	
	畑澤 淳一（産婦人科）	
	根本 敏史（循環器科）	

和泉千香子（循環器科）  
塩屋 齊（内科）  
下斗米孝之（内科）  
齋藤 紀先（呼吸器科）  
武内 郷子（消化器科）  
加藤 健（外科）  
若林 俊樹（外科）  
滝澤 淳（産婦人科）  
佐藤 正弘（事務局）  
永井 伸彦（横手保健所長） 協力施設研修実施責任者  
杉田多喜男（横手興生病院長） 協力施設研修実施責任者  
小山 幸夫（横手胃腸科クリニック） 外部委員・横手市医師会長  
小野 剛（市立大森病院長） 協力施設研修実施責任者  
佐々木道基（市立角館総合病院精神科長） 協力病院研修実施責任者  
オブザーバー 長山正四郎（院長）  
丹羽 誠（副院長）  
事務局 高橋 功（書記）

#### 委員会等開催日時及び主な案件

##### 管理委員会

平成19年9月6日（18：00～19：15）  
案件 平成20年度マッチング登録について  
平成19年11月22日（17：00～17：40）  
案件 臨床研修病院への検査等への対応について  
臨床研修医の研修評価について  
平成20年3月4日（18：00～19：00）  
案件 平成20年度採用予定研修医について  
平成20年度研修日程について  
平成20年度マッチング日程について  
平成20年3月修了予定者の研修評価について  
平成20年度臨床研修病院合同説明会について

##### 評価・プログラム小委員会

平成19年4月11日（17：30～19：00）  
案件 臨床研修の評価方法について  
小委員会の位置づけ及び任務の確認  
次年度以降のプログラムの検討について

平成19年8月2日（18：30～19：45）

案件 後期臨床研修の実施方針について  
本年度修了予定者の研修評価について

平成20年1月4日（17：15～18：30）

案件 協力病院・施設での臨床研修時期について  
本年度修了予定者の研修評価について  
平成21年度採用対象者への説明会について

平成20年2月13日（17：15～19：15）

案件 本年度修了予定者の研修評価の促進について

平成20年2月28日（17：15～18：15）

案件 本年度臨床研修修了者の認定について  
管理委員会への協議案件について

**研修医会議** （研修医と指導医との意見交換等）

平成19年 5月10日（17：30～19：00）

6月7日（17：30～19：00）

7月12日（17：30～19：00）

8月2日（17：30～18：15）

9月6日（17：30～18：00）

10月4日（17：30～18：05）

11月1日（17：30～18：25）

12月6日（17：30～18：30）

平成20年 1月10日（17：30～18：40）

2月7日（17：30～18：10）

3月6日（17：30～18：15）

平成19年度 臨床研修医

2年次 伊藤 綾美（H18. 4. 1～20. 3. 31） Aコース

土肥 泰明（同） 同

高橋 誠（同） Bコース

1年次 榊原 互（H19. 4. 1～） Aコース

小川 和孝（同） 同

渡部 昇（同） Bコース

井上 雅文（同） 同

本荘第一病院からの研修医

早川 真奈（H19. 4. 1～7. 31） 産婦人科・小児科

内室 涼（H19. 4. 1～9. 30） 小児科・産婦人科・内科

齋藤 真弘（H19. 8. 1～11. 30） 産婦人科・小児科

村岡 玄規 (H19. 8. 1～11. 30) 小児科・産婦人科  
 水堂 祐宏 (H19. 10. 1～H20. 3. 31) 内科・産婦人科・小児科  
 八木 史生 (H19. 12. 1～H20. 3. 31) 小児科・産婦人科

マッチング日程

平成19年 6月7日 参加登録開始  
 7月26日 参加登録締切  
 8月30日 希望順位登録受付開始  
 9月13日 希望順位登録中間公表前締切  
 9月14日 中間公表  
 10月4日 希望順位登録最終締切  
 10月18日 組合せ結果発表

平成20年度採用臨床研修医 (マッチング結果)

Aコース 1名 (定員2名) 寺田 考太 (秋田大学医学部)  
 Bコース 1名 (定員2名) 本郷麻依子 ( 同 )

病院説明会参加状況

平成19年 4月20日 秋田大学医学部合同説明会 (秋田市 県協議会主催)  
 6月27日 秋田大学医学部合同説明会 (秋田市 県病院協会主催)  
 7月15日 民間主催の合同説明会 (東京都 県協議会企画)  
 9月2日 東北地区後期臨床研修合同説明会 (仙台市 東北厚生局主催)  
 平成20年 2月14日 秋田大学医学部合同説明会 (秋田市 県協議会主催)  
 3月9日 東北ブロック合同説明会 (仙台市 東北厚生局主催)

<文責 高橋 功>

## 治験委員会

名簿

委員長	吉岡 浩
委員	船岡 正人
委員	佐藤 正弘
委員	石田 良樹
外部委員	三橋由美子
事務局	渡邊 圭子

市立横手病院で実施される治験、製造承認後の調査及び試験、臨床試験について、科学的観点、倫理的観点および法令遵守の観点から当該治験等の実施の適否を検討するために治験委員会を置く。今年度より委員長が丹羽副院長から吉岡副院長へ交代となった。

委員会開催状況

平成19年10月12日

規約改定について

法令の遵守及び病院機能評価の対策として規約を改定することとした。

主な改定点は

法令で定義される委員構成への変更。

治験責任医師、施設の長に加えて治験協力医師も採決に参加できないこととする。

審議記録の保管期間の明記。

不適な試験に対しての、委員会の中止の権限から中止の義務への変更。

臨床試験審議結果

試験課題名	試験方式 試験薬剤 申請者	担当医師 症例数	審議結果
高血圧症を合併した非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD) における肝機能障害改善、肝繊維化抑制効果の検討	前向き無作為比較試験 ロサルタンカリウム錠50mg アムロジピン錠2.5mg 万有製薬(株)	消化器内科：武内郷子 1例	承認
特定使用成績調査：高血圧患者における脳及び心疾患等の発症に影響する背景因子を検討 特定使用成績調査	市販後調査 ディオバン錠 ノバルティスファーマ株式会社	循環器内科：和泉千賀子 20例	承認
特定使用成績調査：高血圧患者における脳及び心疾患等の発症に影響する背景因子を検討 特定使用成績調査	市販後調査 ディオバン錠 ノバルティスファーマ株式会社	内科：下斗米孝之 10例	承認
α-グルコシターゼ阻害剤に関する特定使用成績調査	市販後調査 グルファスト錠 キッセイ薬品(株)	内科：下斗米孝之 2例	承認
セイブル錠 25mg、50mg、75mg 使用成績調査	市販後調査 セイブル錠75mg 株式会社三和化学研究所	内科：下斗米孝之 10症例	承認
ソナゾイド注射用使用成績調査	市販後調査 ソナゾイド注射用 第一三共株式会社	消化器内科：中島裕子 10症例	承認
特定使用成績調査	市販後調査 アバスチン点滴静注用 100mg/4ml、400mg/16ml 中外製薬株式会社	外科：丹羽 誠、吉岡 浩、 粕谷孝光、加藤 健、 若林俊樹 使用症例全例	承認

<文責 石田良樹>

## 診療材料新規採用検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

### 構成員氏名

委員長	医 師	粕谷 孝光		
	医 師	畑澤 淳一		
	医 師	根本 敏史		
	看護科	木村カズ子		
	2 F 病棟主任	照井 洋子	3 A 病棟主任	高橋 共子
	3 B 病棟主任	木村恵美子	4 F 病棟主任	小田嶋恵美子
	手術室主任	佐藤 昌悦	透析室主任	和泉奈保子
	外来主任	和賀美由紀	臨床工学技士	川越 弦
事務局	課長補佐	阿部 光子	管 財 係	菅原 祐司

### 平成19年度の委員会開催日及び検討事項

平成20年 2月29日

トリフレックスレギュラー（手術用手袋）の採用について  
不動材料について

### 診療材料限定使用申請

特になし

<文責 菅原祐司>

## 病床運営委員会

### 概要

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成14年10月病床運営委員会が発足。

### 構成員氏名

委員長	長山正四郎
副委員長	吉岡 浩・藤盛 修成
委員	木村カズ子・佐藤セツ子・高橋千鶴子・木村真貴子 木下 文子・藤井 洋子
事務局	浮嶋 優子・石山 博幸

### 検討事項及び決定事項

平成19年度は2回開催。

- ・ 満床時のベッド確保について（特に休日・時間外）
- ・ 病床の効率的な活用について（オーダーリング・システムの有効活用等）
- ・ その他、問題点の検討

<文責 石山博幸>

## 電子カルテ導入推進委員会

### 目的

電子カルテ導入に向けた意思統一を図ることを目的とし、情報システムの院内承認、調整最高機関として電子カルテ導入の方向と方法を決定することを目標とする。

### 構成員

委員長	藤盛 修成				
副委員長	加藤 健				
委員	和泉千香子	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子	
	浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	渡辺 瑞穂	
事務局	伊藤 春香				

### 業務

1. 電子カルテ導入に向けての行程の決定
2. 院内情報システムの調整・承認

### 委員会開催日時及び検討内容

平成19年4月24日	電子カルテ導入の目的、カルテの現状
5月2日	ワーキンググループの設定
5月24日	看護科の現状把握と電子カルテを踏まえた今後の展開について
7月24日	追加システムの決定について
8月16日	投薬処方内容の変更、リハビリの入力方法、同意書の取扱方法、処置入力について
9月5日	メール機能の運用、システム停止の場合の対応、セキュリティ、救急体制について
9月21日	入院カルテの運用について
10月9日	入力の権限について
11月1日	医療情報システムに関する運用管理規程

<文責 伊藤春香>

## DPC委員会

平成19年6月に「19年度DPC導入の影響評価に係る調査」への参加について正式に手上げを行い、準備病院として厚生労働省より認可を得、7月から12月診療分のDPC調査票の提出を行ってきました。

調査票は毎月25日まで必着で、チェック2回以上で準備病院から脱落というきびしいルールがあり、医師が作成する退院患者の総括については迅速な処理を行ってもらい、さらに、看護師、診療情報管理士の協力のもと順調に提出することができました。

しかし、年度当初1年間のデータ提出、次年度からはDPC対象病院という予定であったが、19年度準備病院はもう1年間データの提出が必要となり、20年7月から12月までの提出が求められることとなった。これにより、DPC請求が延期になったこれを踏まえ、次年度からはより詳細な分析やコスト管理の検討、各種のクリニカルパスの導入が更に必須となってきた。

また、DPC分析を行った結果、当院では化学療法の入院の場合、女性器の手術の場合などが包括と出来高との差額が大きく、今後さらに細かい分析が必要となるだろうと思われる。

来年度は、21年度から対象病院としてDPC請求がスムーズにできるよう、委員会はもとより院内全職員へ周知し取り組んでいきたいと考えている。

### 構成員

委員長	畑澤 淳一				
副委員長	藤盛 修成				
〃	加藤 健				
委員	塩屋 斉	佐藤セツ子	藤井 洋子	佐藤恵美子	
	小宅 英樹	郡山 邦夫	渡辺 瑞穂	柿崎 正行	
	浮嶋 優子	照井 圭子	長山正四郎		

### 活動報告

平成19年4月18日

- ・4月からDPC調査提出データ入力してみる。

平成19年6月27日

- ・「19年度DPC導入の影響評価に係る調査」へ正式に手上げを行い準備病院となった。
- ・調査データの提出までの流れについて。

平成19年7月18日

- ・調査提出データを入力してみる。
- ・DPC分析ソフトについて。

平成19年12月4日

- ・田辺三菱製薬会社の協力により、委員会委員を対象に研修会を開催。

平成19年12月19日

- ・DPC分析結果について

<文責 浮嶋優子>

## クリニカルパス委員会

### 概要

当委員会は、院内におけるクリニカルパス作成及び普及を推進・支援し、診療の質及び患者サービスの向上に寄与することを目的としている。

現在作成中や検討中で使用不可のパスを含めれば57種類のパスが作成されていて、実働のパスの使用件数は前年度より増加している。

今後は電子カルテパスの運用の検討とDPC請求に向け、パス種類の増設と既存のパスの内容検討が必須である。

平成19年度クリニカルパス使用件数（ ）内はバリエーション発生件数

	件数		件数
<b>産婦人科</b>		<b>消化器科</b>	
子宮筋腫摘出手術（ATH）	13	内視鏡的胃粘膜切除術	65(6)
子宮筋腫摘出手術（VTH）	14	内視鏡的食道粘膜切除術	8(1)
分娩	70	大腸ポリペク	278(5)
新生児	54	食道静脈瘤結紮術	6
腹腔鏡下手術（婦人科）	17	食道静脈瘤硬化療法	2
子宮内除去術（流産）	9	肝癌（RFA）	4
子宮内清掃術（人工妊娠中絶）	5	レミケート <sup>®</sup> （Crohn病外来用）	5
予定帝王切開	3	<b>外科</b>	
帝王切開児	9	局所麻酔下成人鼠径ヘルニア	30
日帰り子宮内清掃術	2	小児鼠径ヘルニア	10
分娩（5日退院）	56	腹腔鏡下胆嚢摘出手術	10
新生児（5日退院）	47	<b>内科</b>	
子宮腔部円錐切除術	3	心臓カテーテル検査	9
		<b>泌尿器科</b>	
		前立腺生検	40

### 構成

委員長 藤盛 修成

委員 畑澤 淳一 加藤 健 江畑公仁男 小松 明 塩屋 斉  
 下斗米孝之 斎藤 紀先 和泉千香子 沼倉 一幸 藤井 洋子  
 高橋 洋 郡山 邦夫 小宅 英樹 赤川恵理子 高橋亜由美  
 高橋 亮子 稲川 雅美 下夕村優子 長井美憂希 渡邊あかね  
 末次エリカ 真壁美保子 永須 直美 高橋 正子 加藤真由美  
 原田 優子 浮嶋 優子

<文責 浮嶋優子>

## 業務改善委員会

### 概要

病院業務の改善を図ることを目的とする。

院内に設置された他の委員会の所掌事項に属さない業務の改善。

複数の他委員会に係るため、改善できていない事項を調整する。

### 構成員

委員長 藤盛 修成

副委員長 加藤 健

委員 高橋 信夫 藤原 理吉 石田 良樹 木村カズ子

照井 洋子 高本 和子 佐藤恵美子 原田 優子

佐々木佳子 佐藤 正弘 畹田 敏雄 浮嶋 優子

平成19年度は審議すべき事項がなかったため開催されなかった。

<文責 浮嶋優子>

## 衛生委員会

### 概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

### 構成員

委員長	丹羽 誠
副委員長	藤原 理吉（診療放射線科）
委員	長山正四郎（産業医） 佐藤 正弘（事務局）
	木村カズ子（看護科） 新森百合子（健康管理センター）
委員（労働組合推薦）	高橋 共子（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科）
	赤川恵理子（看護科） 末次エリカ（看護科）
	川越 弦（ME室）
書記	大友真由子（総務課）

### 委員会開催日時及び検討事項等

月1回委員会を開催 主な検討事項は

- ① 職員のメンタルヘルスケアについて
  - ・平成19年4月26日 実施日を検討
  - ・平成19年5月29日 業務連絡会議にて日程と入力方法を伝達
  - ・平成19年6月4日～15日 入力実施  
全職員対象（362名）
  - ・平成19年6月28日 入力の確認。未入力者には入力するよう通知  
判定……榊田理恵医師、臨床心理士3名  
カウンセリング対象者には榊田医師より直接連絡する。
  - ・平成19年11月28日 平成20年度の職員メンタルヘルスは新採用職員を早い時期（5月上旬）に実施することに決定
- ② 結核感染者に接触した職員の対処について
  - ・結核患者発生時マニュアル（H19.3.1）の再確認
  - ・接触者への今後のフォローについて検討
- ③ 職員検診について
  - ・年2回実施（2回目の対象職員について検討）
  - ・二次検診の受診状況を報告し、未受診者には個人通知し受診を促すこととした。

<文責 木村カズ子>

## 病院教育委員会

### 設置目的

当委員会は病院機能評価受審を機に設置されたもので、院内の職員研修に関して病院全体で体系的、効果的に実施するために設置された委員会である。

### 構成員氏名

委員長	院長	長山正四郎
副委員長	診療科	藤盛修成
委員	看護科	木村カズ子
〃	診療放射線科	郡山邦夫
〃	事務局	佐藤正弘
〃	総務課	栗田公平
庶務	総務課総務係	高橋功

### 委員会開催年月日、検討事項及び決定事項

平成19年5月14日（月）午後5時30分～ 4階会議室

出席者 長山委員長、藤盛副委員長、木村委員、佐藤委員、栗田委員、高橋書記

#### 議題

#### 1. 設置要綱の改正について

複数の委員会等が活動しており重複する委員が多いため、過重な任務分担を軽減することとし、要綱第2条の委員の定数について

三 看護科 2名

四 リハビリテーション科、薬剤科、臨床検査科、診療放射線科、食養科の内から 2名

五 事務局 1名

を「各2名以内」とすることとし、平成18年4月1日より適用することとした。

これを受けて、事務局枠で栗田委員（総務課長）を任命した。

#### 2. 院内各委員会の平成19年度における研修教育事業の把握

##### 確認事項

- ・医療安全、院内感染、接遇は年度内に必ずやること。接遇は他業種（ホテルマン、フライトアテンダント等）の方を講師に依頼出来ないか検討する。
- ・医療安全研修は年3回をやること。
- ・CPCを実施すること。
- ・公開の学術研究発表（かまくら館）の開催の検討、市立大森病院との共催での研修会の実施の検討。

- ・病院の経営状況研修会の開催の検討。
- ・上記の点を踏まえて、院内の各種委員会等の研修教育事業の把握のため、年間の事業計画の提出を依頼することとした。(提出期限6月22日)  
⇒20の委員会等から回答有り

<評価と今後の課題>

接遇、医療安全、院内感染、C P C、個人情報保護等の研修は年度内に実施されたところである。市立大森病院との共催でも「院内感染対策」「医療安全対策」での研修会が開催されるなど委員会としての一定の役目は果たせたものとする。

しかし、業務の中ではこれでいいということはなく、日進月歩の医療技術の進展や法的制度の改定への対応、患者様への接遇の更なる向上など、常に研鑽を重ね「地域の人々に信頼される病院」の完成度を上げていくために、研修・教育活動を継続していくことが必要である。

<文責 高橋 功>

## 広報委員会

### <概要>

年4回発行を目標に病院広報誌を作成しております。病院広報誌は、患者様、地域の皆様、秋田県内の各病院、病診連携室関連の施設などにむけて、当院での活動の紹介や医療情報の提供、食事や健康など病気の予防策などを掲載しております。

広報委員会は、院外の皆様によりよい情報提供ができるよう検討し、病院広報誌を発行することを目的としております。今後は、委員会の活動を活発にし、市立横手病院を知っていただきながら、地域の皆様のお役に立つような病院広報誌を作っていきたいと思っております。

### <構成員氏名>

委員長	診療科	船岡 正人
委員	総務課	栗田 公平
	医事課	石山 博幸
	病診連携室	高橋 美幸
	総務課	高橋奈々子

### <委員会開催>

平成19年度開催実績なし

### <病院広報誌の発行>

平成19年8月 第11号発行

平成20年1月 第12号発行

<文責 阿部千鶴子>

## 個人情報保護推進委員会

### 【目 的】

患者様の個人情報の確実な保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

### 【構 成 員】

委員長 佐藤 正弘  
委 員 木村カズ子 栗田 公平 畠田 敏雄 柿崎 正行

### 【業 務】

- 電子カルテシステムの稼働に伴い、各種医療情報システムのセキュリティ強化の検討
- 「個人情報保護規程」等各種規程・要領等の改正
- 全職員対象の個人情報保護に関する研修会の開催

### 【委員会開催年月日及び検討内容】

- 平成19年10月 9日 電子カルテシステムのセキュリティ対策について  
個人情報保護研修会について
- 平成19年10月15日 個人情報保護研修会開催  
～17日 医療向け個人情報保護法対応策「教えて！住田弁護士」DVD版の上映  
3日間の開催で223名の参加で全職員の60.4%が参加  
(10/15 52名 10/16 86名 10/17 85名 計 223名)
- 平成20年1月10日 「個人情報保護規程」の制定  
「診療情報提供実施要領」の改正  
「診療記録開示事務処理要領」の改正  
「患者様の個人情報とプライバシー保護について」の改正

<文責 柿崎正行>

## 診療記録開示審査委員会

### 概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

### 構成員氏名

	役 職	氏 名
委員長	副 院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	吉 岡 浩
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事務局長	佐 藤 正 弘
	医事課長	寫 田 敏 雄

### 活動記録

平成19年度は、15件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

## 年報編集委員会

- 第1回 H19.5.30 原稿依頼の分担、締め切りの決定。  
 第2回 H19.7.6 原稿の集まり具合の確認。  
 第3回 H19.7.27 2次締め切りの決定。  
 第4回 H19.8.17 原稿の集まり具合の確認。督促状提出。  
 第5回 H19.8.30 原稿の集まり具合の確認。最終締め切りの決定。  
 第6回 H19.9.14 最終校正～発行までの日時決定。

所 属	氏 名
医 局	小 松 明
リハビリテーション科	高 橋 貞 広
薬 剤 科	渡 邊 圭 子
看 護 科	赤 沼 ゆかり
看 護 科	鈴 木 久美子
臨床検査科	小 丹 まゆみ
食 養 科	天 羽 勝 義
医 事 課	百合川 深 里
総 務 課	高 橋 功

<文責 小松 明>

## 医療ガス安全管理委員会

### 構成員

委員長 吉岡 浩（監督責任者）  
副委員長 江畑公仁男  
委員 佐々木洋子 照井 洋子 高橋 共子 木村恵美子 小田嶋恵美子  
石橋由紀子 柏谷 肇 森谷 茂 阿部 光子（事務局）  
伊藤 建一（実施責任者）

### 医療ガス保安講習会の開催

平成19年5月17日に開催

内容：医療ガスの扱い方～ビデオ上映～

医療ガスアウトレット端末機器の取り扱い方～機器の取付け/取り外し～

酸素ガスボンベの取り扱い方

### 委員会での協議、活動報告

開催日 平成20年3月11日

1. 酸素のコストがしっかり取れているかを確認。また、酸素ボンベ使用後はバルブを閉めるなど安全管理が徹底されているか、無駄な消費がないか検証した。
  2. 医療ガス保安講習会を計画し、開催時期は5月前後の早い段階で実施することで講師をしていただく業者と調整することとする。
  3. 医療ガス供給設備の改修を伴う工事がある場合には、工事中の安全対策や工事内容等について関係部署へ周知徹底を図ることを確認。
- 当委員会では、高圧ガス保安法第27条に基づく保安講習会を計画し実施いたしました。また、医療ガスを安全に供給できる体制の維持は当然のことながら、職員一人一人がコスト意識をもち医療ガスの無駄な消費を無くし、請求漏れを防止することを再確認いたしました。医療ガスは取り扱いを間違えると重大な事故にもなりかねません。患者様に安全に供給する体制を維持できるよう、知識の習得、使用方法の徹底を図りたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

## 医療廃棄物管理委員会

### 構成員

委員長	医局（副院長・外科）	丹羽 誠	管理責任者
副委員長	事務局長	佐藤 正弘	
委員	臨床検査科	佐々木 美奈子	
〃	薬剤科	石田 良樹	
〃	看護科	佐藤 昌悦	
〃	看護科	照井 洋子	
〃	看護科	高橋 共子	
〃	看護科	木村 恵美子	
〃	看護科	小田嶋 恵美子	
〃	看護科	石橋 由紀子	
〃	食養科	原田 優子	
〃	診療放射線科	藤原 理吉	
〃	医療安全管理室	佐々木 佳子	事務局
〃	総務課	伊藤 建一	〃

### 委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握

医療廃棄物処理計画の作成

医療廃棄物処理マニュアルの作成

医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

- 今年度は医療廃棄物処理上の問題や、処理方法の変更等が無かったことから委員会の開催はありませんでしたが、今後も院内感染対策委員会と連携を強化し、院内感染防止の観点からも廃棄物の適正処理について力を入れ、医療廃棄物の処理費用の削減についても努めていきたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

## 防火管理委員会

### 委員構成

自衛消防隊長 長山正四郎

自衛消防副隊長 丹羽 誠、吉岡 浩、藤盛 修成

防火管理者 佐藤 正弘

委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子、木下 文子、藤井洋子、高本和子、川越 弦、栗田 公平、畠田 敏雄、藤原 理吉、佐藤恵美子、原田優子、天羽勝義、高橋 信夫、高橋 洋、小宅 英樹、佐々木佳子、森谷 茂、伊藤建一

### 開催日

第1回 平成19年6月20日

第2回 平成19年10月16日

当委員会では、年2回の防災訓練を計画し実施した。火災の訓練を重ねました。

### 第1回目委員会

平成19年6月20日（水）に実施する防災訓練について

【概要】病棟から火災が発生した想定で、避難誘導をメインとし、救助袋からの避難訓練、本部での情報収集訓練などを実施することにする。避難誘導では入院患者を同一階の別の防火区画へ一時的に避難させる事を取り入れる。

### 第2回目委員会

平成19年10月16日（火）に実施する防災訓練について

【概要】病棟から火災が発生した想定で、1回目同様に避難誘導をメインとし、救助袋からの避難訓練、本部での情報収集訓練などを再度実施することにする。また救助袋からの避難では、各部署の職員が自ら体験することとした。

- 最後に火災はあってはならないことですが、いざというときには職員一人一人が自分の任務をしっかりと務め、職員が一致団結して患者様の安全と医療の継続に全力を注げるよう努めてほしいと考えております。

<文責 伊藤建一>

## 看護科の委員会

### 教育委員会

#### 【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

#### 【構成メンバー】

委員長	木村真貴子					
副委員長	木村恵美子	石橋由紀子				
委員	佐藤 鋼子	中村勇美子	斎藤みどり	池田 弘恵	真田由美子	
	小林 貴子	佐藤 秀子	高橋 美里	小原 麻美	高橋まゆみ	

#### 【平成19年度委員会目標】

1. 研修会報告を伝達講習という形で当院に反映し向上心を高める。
2. 教育プログラムを見直し活用する。

#### 【活動内容】

##### <新人研修・新人教育>

- 基本技術と基礎知識（5～6月）
  - 「インスリン、麻薬の取り扱いについて」
  - 「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」
  - 「胃瘻について」
  - 「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」
- 新人評価 3回（7月、12月、3月）
- 心電図講習会 日本光電より講師をむかえ、2日間にわたり受講
- 糖尿病教室見学
- 次年度プリセプター研修（3月）

##### <継続教育>

- 補助看護師教育 「効果的な体位変換と事故防止」
- 卒後2年目（当院就職後含む） ケーススタディ
- 卒後3年目（当院就職後含む） OP室見学及び挿管、抜管介助
- 卒後5～7年目（当院就職後含む） グループワーク

- ①「自殺企図の患者への看護師の接し方」
- ②「患者が自殺してしまった後の看護師の対応」
- 伝達講習 「コミュニケーションのとり方」  
「リンパ浮腫について」

【平成19年度の反省】

1. 伝達講習という場を設けたのは良かったが、委員会が望んでいた内容や進行の仕方においてズレを感じた。教育委員と講習を受けてきた方との間での講習会の流れについて打ち合わせを綿密に行ってから講習会に望めばよかった。この反省をふまえて次年度の伝達講習を行いたい。
2. 麻薬の取り扱いや、十二誘導心電図モニター装着などの新人教育に昨年度は胃瘻に関する勉強会を加えた。しかし、勉強会を行う時期をもう少し早く設けるべきだった。順番も新人が毎日の業務の中で早くに経験する胃瘻などから開始したほうが良い。又、麻薬の取り扱いの中に麻薬や鎮痛剤の持続静注、皮下注射の方法について検討が必要ではないか。

＜文責 木村真貴子＞

## 看護研究委員会

### 構成メンバー

委員長	高橋千鶴子					
副委員長	藤沢 親子					
委員	高橋 正子	赤沼ゆかり	鈴木 美香	町本 典子	高橋 美樹	
	丹 久美	今野谷沙織	鳥山十亜良	高橋 大樹		

### 平成19年度委員会目標

- 1、研究委員のレベルアップをはかる  
◎研究計画書に対して、アドバイスできるようになる
- 2、H18年度講評で指摘された点を改善して、今年度の研究に役立てる

### 研究発表内容

第1群 (座長 和賀美由紀主任)

- 第1席 臨床看護師の看取りに対する意識調査  
2病棟 佐藤 千春
- 第2席 古武術を取り入れた体位交換を試みて  
4病棟 煙山由紀子

第2群 (座長 高橋 礼子主任)

- 第1席 ストーマ装具装着体験を通して  
3 B病棟 佐藤 愛
- 第2席 医療行為の妨げにならない手術患者着の検討  
～病棟から麻酔導入まで着用してみて～  
手術室 小松ルリ子
- 第3席 患児の転落防止のための取り組み  
3 A病棟 高橋はるみ

講師：鳥居奈津子先生

参加人数	看護科	65名
	コメディカル	4名
	医師	4名

### 総括

\*今年度より鳥居先生に指導を受け、レベルアップにつながりました。来年度は、さらなるレベルアップを図りたい。

<文責 高橋千鶴子>

## 看護支援委員会

### SOAP 記録班

メンバー：小田嶋ゆう子 丹 久美 高橋 智美 森本 和子 真壁美保子  
川崎 智美 谷口 順子 高橋 優子 稲川 雅美

概要：文献を「わかりやすいPOS」とし、各病棟に2冊ずつ配布した。  
電子カルテ内、既成のSOAPのテンプレートを自分達が現在使用している様式に作り変えをする作業にとりかかった。

### 看護情報班

メンバー：小田嶋恵美子 照井 洋子 小松ルリ子 小田嶋千枝子 佐々木美紀子  
稲川 雅美

概要：電子カルテ開始にあわせ病棟入院者の医師指示、看護処置指示入力、伝達情報項目、観察項目など看護情報項目を整備した。  
また、会計システムの連動に関して、医師および看護師が処置情報を入力し実施確認するシステムづくりをソフトウェア担当者、当院照井圭子氏らとともに作りスタートさせた。  
開始後は使用方法周知、情報項目の改善に努めた。

### 看護計画班

メンバー：佐藤セツ子 高本 和子 高橋千鶴子 木村真貴子 木下 文子  
藤井 洋子 和泉奈保子 下夕村優子 小田嶋ゆう子 真壁美保子  
森本 和子 川崎 智美

概要：2,000枚を越える看護計画の雛型を、病棟の全看護師に振り分けて、当院に合った内容にマスターを修正した。さらに各科別・症状別看護計画に区別し、見やすいような型式にした。

### データベース班

メンバー：石橋由紀子 高橋 智美 谷口 順子 末次エリカ 高橋 共子

概要：電子カルテに伴いアナムネのテンプレート作成と患者情報・家族情報・既往歴の入力ルールを決定し導入した。また看護サマリーの見直しと補足も行った。

## 訪看・創傷ケア委員会

- 目的 院内の看護師に対し、褥瘡や人工肛門などの創傷ケアについて指導、助言する。
- 活動内容 創傷ケアについての研修会に参加し、新しい知識、技術を学び院内のケアの向上を図る。
- 患者会への協力を行う。

H19年度 構成員（4月）

委員長 高橋 礼子

副委員長 佐々木史子

委員 佐々木 薫 吉川ちあき 桐原 峰子 佐藤美夏子 佐々木康子  
柿崎 美幸 岩村 久子 藤井 涼子 煙山由紀子

- 目標 1、ひまわり会の活動支援（年2回サポート）  
2、創傷ケアに関する勉強会の開催をする。

活動内容（委員会／月1回、患者会への参加協力、褥瘡勉強会）

- 4月23日 19年度目標、活動内容について予定を決める。
- 5月21日 ひまわり会についての連絡。体圧分散マットの調査について。
- 6月18日 ひまわり会の準備と打ち合わせ。
- 7月7日 第1回ひまわりの会開催（会議室13：30～16：00）  
丹羽副院長、会員15名参加、看護科6名参加
- 7月19日 8月の勉強会について。  
第1回ひまわり会の反省。
- 8月27日 今後の院内勉強会の検討。  
佐藤美夏子（WOC）を講師とし新人対象の勉強会を行った。（10名の参加）
- 9月11日 褥瘡対策の電子カルテ導入のシミュレーション。
- 10月24日 第2回ひまわり会の打ち合わせ。電子カルテの運用について。
- 11月19日 ひまわり会の会員募集について
- 12月8日 第2回ひまわり会の開催（女子休憩室にて13時～16時）  
会員15名、サンクリエイト伊藤さん、看護科6名参加
- 12月18日 1月の勉強会の検討
- 2月19日 今後の勉強会について。  
ひまわり会との関わりとじょく創委員会との連携について。
- 3月24日 H19年度の反省について。

反 省

- 1： 勉強会は美香子さん（WOC）中心に病院の委員会主幸で行なわれるようになった。  
今まで看護科の委員会で勉強会をしてきたので、来年度の委員会活動の見直しが必要になった。
- 2： ひまわり会は2回の開催に協力できた。会のスタートから丸4年、計8回の支援ができ、  
会員のかた達とも顔なじみになり喜んでもらえている。

<文責 高橋礼子>

## 師長会及び土星会

- 目的 1、看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる。  
2、病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する。

- 内容 1、諸問題の決議に関する事。  
2、予算、決算に関する事。  
3、職員、人事に関する事。

- 機能 1、各委員会に関する事。  
2、病院運営への提案及び答申に関する事。  
3、その他重要な事項に関する事。

構成 総師長 副総師長 看護師長（5名）

平成19年度師長会目標の評価

○目標管理の徹底

- ・面接2～3回実施
- ・面接することで親しみがわき親身に話を聞くことができた。面接を通してスタッフの意見を吸い上げていったことは効果的だった。
- ・平成20年1月意向調査実施 今後も継続していく予定である。

各部署定例会、議題、検討事項などはあらかじめ資料を配布し検討してもらい、師長会で最終決定している。病院経営に関する事、人事、患者状況の報告、後期では当番制で勉強会を取り入れている。

意向調査については、現職員だけでなく採用職員も対象に平成20年度から実施開始とする。

<文責 木村カズ子>

## 抄読会

- 目的 1、専門性を追求し医療や看護の視野を広げる。  
 2、文学に触れ情緒的感觉を育て人間性を高める。
- 内容 1、最近読んだ図書の読後感を紹介し感動を共有する。  
 2、図書は専門書に限らない。
- 構成 総師長 副総師長 師長（5名） 主任（12名）輪番制で行う。

平成19年度

月	氏名	題名
4月	佐々木 佳子 小田嶋 恵美子	おばあちゃんがぼけた 千の風にいやされて
5月	木下 文子 木村 カズ子	家族看護 レセプション/おもてなしのこころ
6月	高橋 礼子 木村 恵美子	捨てる生き方 いまより少し自分をつよくする
7月	高本 和子	私のもったいない
8月	石橋 由紀子 木村 真貴子 和賀 美由紀	1mウオーキング・ダイエット 病院なんか嫌いだ 頭がよくなる思後述
9月	佐藤 セツ子 高橋 共子	ツキを呼ぶ魔法の言葉 アシェリー
11月	藤井 洋子 照井 洋子	手軽にできる簡単レシピ 「ホジュン」宮廷医官への道
12月	佐藤 昌悦 高橋 千鶴子 和泉 奈保子	人は星、人生は夜空 となりのクレマー「苦情を言う人」との交渉術 ホームレス中学生
1月	佐々木 佳子 小田嶋 恵美子	神様からのひと言 インド式かんたん計算法
2月	木下 文子 高橋 礼子 木村 カズ子	女性の品格 装いから生き方まで 篤姫と大奥の秘められた真実 桑田真澄ピッチャーズバイブル
3月	木村 恵美子 高本 和子	「不都合な真実」—地球温暖化の危機— 裁判長！ここは懲役4年かどうか

<文責 木村カズ子>

## 學術研究業績



院内

<医局勉強会>

4月	院内感染対策・病棟ラウンドを通して	齋藤 紀先 (呼吸器・アレルギー科)
4月	カテーテル管理	若林 俊樹 (外科)
5月	せん妄とその対策	丹羽 誠 (外科)
5月	気管支喘息と無気肺を呈し Sinobronchial Syndrome と診断された10歳の一例	伊藤 綾美 (研修医)
5月	83歳女性 左尺骨動脈閉塞の診断に CT-Angio が有用であった一例	高橋 誠 (研修医)
6月	肝臓の手術について	加藤 健 (外科)
6月	当院における化学療法の業務	小宅 英樹 (薬剤科)
7月	ALP について	船岡 正人 (消化器科)
7月	労作時息切れを主訴に受診した一例	和泉千香子 (循環器科)
10月	高度の慢性貧血を外来管理した入院拒否の子宮筋腫の三例	滝澤 淳 (産婦人科)
10月	緑内障患者に禁忌の薬剤について	佐々木洋子 (薬剤科)
11月	現行の予防接種について	小松 明 (小児科)
	GFO 療法について	粕谷 孝光 (外科)
12月	不育症について	畑沢 淳一 (産婦人科)
	オピオイドの薬理について	石田 良樹 (薬剤科)
1月	rt..PA1 静注療法について	藤原 理吉 (放射線科)
	医薬類似行為	江畑公仁男 (整形外科)
2月	ガドリニウム造影剤と慢性全身性線維症	平野 弘子 (放射線科)
	低カリウム血症を呈した症例	下斗米孝之 (内科)
3月	NAFLD NASH	武内 郷子 (消化器科)
	錠剤の粉碎と簡易懸濁法	渡邊 圭子 (薬剤科)



## 同好会活動



## 野球部

今年度の初戦となりました大森病院戦では、地元での開催という事もありほとんどの選手は緊張で、普段通りのプレーが出来ず大敗してしまいました。

しかし、次の羽後病院戦ではかたさもとれ、サヨナラ勝ちをおさめる事が出来ました。

この2戦は、多くの方々に応援していただき選手全員が励まされ、勇気づけられました。

そして、県南病院対抗野球大会では、興生病院戦で念願の初勝利をあげ、その勢いに乗って平鹿病院戦では、今までにないくらいの大差で勝利をおさめ全県大会出場を決めました。この試合では、選手一人一人が自分の役割を果たし、チーム一丸となって戦う事が出来ました。

また、全県病院対抗野球大会の今村病院戦では、点数こそ取れなかったものの何度かチャンスを作る事ができ、勝利まであと一步という所までいく事ができました。来年は、このチャンスを点数に結びつけられるように練習していきたいと思います。

今年度は、色々な試合を経験し、チームとして格段にレベルアップしたと思います。来年は、さらにもう一段上のレベルを目指し、練習に取り組んでいきたいです。

### \*試合結果

6月23日（土）

V S 大森病院 11×1 敗戦

V S 羽後病院 4×3 勝利

7月7日（土）

県南病院対抗野球大会

V S 興生病院 5×3 勝利

V S 平鹿病院 17×1 勝利

9月16日（土）

全県病院対抗野球大会

V S 今村病院 4×0 敗戦

<文責 木村宏樹>

## バレーボール部

昨年度できなかった対外試合を、今年こそ「1試合以上」やろうと4月末より月1～2回の練習を行った。

練習には部員以外にも参加していたため有意義な練習ができ、まずは「全県病院対抗バレーボール大会出場」を目指した。しかし、勤務の都合やメンバーの諸事情が加わり人数不足により参加することが出来なかった。試合に向けて練習していた為とても残念だった。

今年の反省から、「来年こそいろいろな試合に参加しよう！」と目標をもって練習を続けて行くことにした。

### 平成19年度部員

佐藤恵美子	小田嶋明子	小田嶋勝子	高橋 貞弘	渡邊あかね
高橋 亮子	木村恵美子	渡邊 瑞穂	阿部千津子	鈴木久美子
照井 真澄	菅原 裕司	熊谷 剛	鈴木 務	土田 輝子
高橋ますみ	池田 律子	鈴木 時枝		

<文責 木村恵美子>

## 職員等互助会



## 職員等互助会

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的に活動してきた。恒例の職員歓送迎会、盆踊り大会、研修旅行、大忘年会などの各種行事の主催・運営など、また、各種見舞金、弔慰金、祝金の給付、院内同好会活動への補助も行ったところである。

今後もこれらの福利厚生事業などを通じて、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため、活動を強化していきたい。

＜文責 岩根育子＞

### 役員名簿

会 長 藤盛 修成（医局）  
 副会長 高橋 信夫（リハビリテーション科）  
 幹 事 栗田 公平（総務課） 郡山 邦夫（診療放射線科） 原田 優子（食養科）  
 高本 和子（四病棟） 丹 厚子（看護科）  
 高橋美保子（総務課 ～9.30） 後藤美佐子（総務課 10.1～）  
 監 事 木村カズ子（看護科） 浮嶋 優子（医事課）  
 事務局 高橋 功（総務課）

### 19年度に実施した主な病院行事等

#### ○平成19年4月27日 職員歓送迎会 セントラルホテル ラ・ポート（参加者108名）

実行委員長 粕谷 孝光（医局）  
 実行委員 藤原 理吉（診療放射線科） 小田嶋尚人（リハビリテーション科）  
 柿崎 幸（薬剤科） 加賀谷美智子（臨床検査科） 小松 信宏（食養科）  
 安藤 宏子（二病棟） 高橋はるみ（三A病棟） 高橋 美里（三B病棟）  
 伊藤 優子（四病棟） 和賀美由紀（外来） 小田嶋千枝子（透析室）  
 伊藤 建一（総務課） 百合川深里（医事課）

#### ○平成19年8月15日 盆踊り大会 横手庁舎 お祭り広場（参加者80名）

実行委員長 武内 郷子（医局）  
 実行委員 佐藤 裕基（診療放射線科） 熊谷 剛（リハビリテーション科）  
 大山 丹子（薬剤科） 田中 清美（臨床検査科） 川越 真美（食養科）  
 高橋亜由美（二病棟） 泉谷真里子（三A病棟） 佐藤 愛（三B病棟）  
 横井 道子（四病棟） 岡部 沙織（外来） 小田嶋千枝子（透析室）  
 高橋 正雄（総務課） 服部 幸子（医事課）

○平成19年 9月26日・10月20日・23日・27日（遠野市）

研修旅行（参加者93名）

実行委員長 下斗米孝之（医局）  
実行委員 法華堂 学（診療放射線科） 高橋 茂美（リハビリテーション科）  
小宅 英樹（薬剤科） 平塚多喜雄（臨床検査科） 天羽 勝義（食養科）  
齊藤紗希子（二病棟） 藤井 涼子（三A病棟） 小棚木美香（三B病棟）  
高橋まゆみ（四病棟） 高橋 正子（外来） 小松ルリ子（手術室）  
栗田 公平・高橋 功（総務課） 伊藤喜美子（医事課）

○平成19年12月21日 大忘年会 セントラルホテル ラ・ポート（参加者186名）

実行委員長 若林 俊樹（医局）  
実行委員 岡根 和義（診療放射線科） 鈴木 務（リハビリテーション科）  
渡邊 圭子（薬剤科） 佐藤恵美子（臨床検査科） 天羽 勝義（食養科）  
菅原 沙綾（二病棟） 熊澤あゆみ（三A病棟） 渡邊あかね（三B病棟）  
渡部 香織（四病棟） 三浦 君子（外来） 佐々木智美（透析室）  
柿崎 正行・菊地 智子（総務課） 浮嶋 優子（医事課）

○平成20年 3月19日 送別会 松興会館（参加者113名）

実行委員長 小田嶋 傑（医局）  
実行委員 郡山 邦夫（診療放射線科） 熊谷 剛（リハビリテーション科）  
高橋 紀子（薬剤科） 大嶋 聡子（臨床検査科） 小松 信宏（食養科）  
岡部 沙織（二病棟） 地主 愛（三A病棟） 渡邊あかね（三B病棟）  
高橋 智佳（四病棟） 石橋由紀子（外来） 柿崎千恵子（手術室）  
藤倉 美穂（総務課） 佐々木有紀子（医事課）

○サークル補助 3件

○慶弔給付 弔慰金16件、退職報償金15件、結婚祝金 3件

## 編集後記

10年以上続いた黒字経営も、とうとう赤字に転落した。度重なる医療費改定（改悪）、かさむ人件費、施設維持費など支出は増えこそすれ減じる目処も立たず、収入は減る一方である。新、平鹿病院の可動によるところが大きいのも事実である。

平成20年秋からは病院増築の予定であり、さらなる経営圧迫が考えられる。職員各自の益々なる努力は勿論の事、常勤医1人の科を複数にするなどソフト面での拡充も必要な時期にきている。

さて、年報は、たとえば、昨年の年報編集史上最速で完成させた勢いそのままではほぼ計画通りに完成できた。各スタッフ、ご苦勞様。来年以降もこの調子でいきたいものだ。

＜文責 小松 明＞

### 編集委員のひとこと

初めての年報編集委員でしたが、依頼した方々のご協力のおかげで無事難なく終える事ができました。ありがとうございます。また、事務局の方には大変難儀掛けまして・・・皆様に感謝です！ S.T

毎年、毎年、原稿をお願いしていただいている皆様に感謝、感謝いたしております。きっと、毎年続けていてよかった！と思える時が来るはず。K.W

今年度も期日まで提出していただいて、ありがとうございます。感謝、感謝。Y.A

初めての委員会にて何も解らずでした。皆さんご協力頂きましてありがとうございます。

R.S

今年も皆様のご協力のもと滞りなく原稿をいただくことができ、感謝しています。明日の横手病院に幸あれ！ M.K

年報委員を引き受けて不安でしたが、皆さんの協力で完成できてホットしています。来年度も宜しく・・・ K.O

今年も無事年報が完成しました。多くの業務や委員会を抱えご協力有難うございました。また小松先生をはじめ年報委員会のスタッフのみなんご苦勞様でした。 A.K

多くの方々のご協力により、19年度の年報編集も終了に至りました。ありがとうございます。私は殆ど役立たずで、委員会の皆様には大変ご難儀をおかけしました。感謝の極みです。I.I

今年も無事年報が完成いたしました。皆様、ご協力ありがとうございました。M.Y